

リタルヤ疑ナキヲ得ス被告ハ公正證書ヲ偽造行使シタルコトナク原判決ハ公正證書ヲ作成スル爲メニ提出シタル委任ヲ證據ト爲シタルニ過キサレハ私印私書偽造行使罪ニ問擬セラルハ相當ニシテ原判決ハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云ヒ辯明書ハ要スルニ上告趣意ヲ敷衍シ中島林助トノ金錢貸借ニ關スル事實ヲ縷陳シ本件公正證書ハ同人カ恣ニ作成シタルモノナリト主張シ且偽造私書ヲ公證役場ニ差出シ公正證書ヲ作成セシムルハ恰モ偽造私書ヲ登記所ニ提出行使シ以テ登記ヲ受クルト同シタ單ニ私書偽造行使罪ヲ構成スルニ過キスシテ公文書偽造行使罪ヲ構成スルモノニ非サルカ故ニ原判決ハ被告ニ對シ過重ノ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ辯明書末段ノ論旨ノ理由ナキハ本院判例ノ屢々說示スル所ノ如クナルモ原判決ノ第一事實トシテ認定スル所ニ依レハ被告ハ古木儀兵衛名義ノ連借證書及公正證書作製ノ委任狀ヲ偽造シ之ヲ中島林助ニ交付シテ同人ヨリ金圓及ヒ小切手ヲ騙取シ而シテ林助ハ右偽造委任狀ヲ公證人村地正治ニ提出シ公正證書ヲ作製行使シタルト云フニ過キスシテ右公正證書ノ作製行使ニ關シ被告カ林助ト共謀シ又ハ同人ヲ教唆若クハ使役シタル事實認定ナキヲ以テ林助ハ自己ノ利益ノ爲メ單獨ノ意思ヲ以テ之ヲ作製行使シタルモノト謂フヘク被告ハ唯同人カ偽造委任狀ヲ用キテ公正證書ヲ作製行使スルコトアルヘキヲ豫見シタルモノト論スルヲ得ルニ止マリ之ニ依リテ被告ニ其作製行使ニ付テノ刑法上ノ責任ヲ負ハシムルヲ得ス故ニ原告判ハ林助ノ公正證書ヲ作製行使シタル所爲ヲ認メテ被告ヲ其偽造行使罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ被告ハ公正證書ヲ偽造行使シタルニ非サレハ同罪ニ依リ處罰セラルハ謂ハレナシトノ上告論旨ハ其理由アリ

酒造税法竝酒醪及麴取締法違犯事件

明治三十九年(凡)第七一八號  
明治三十九年八月十四日判決

(棄却)

判決要旨

一、免許ヲ受スシテ製造場ヲ二ヶ所ニ設ケ酒類ヲ製造シタル所爲ハ意思ノ經續シタルト否トヲ不問二ヶノ犯罪ヲ構成ス

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院  
被告人 松下玉次郎

右酒造税法竝ニ酒母醪及麴取締法違犯被告事件ニ付明治三十九年六月八日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノナリ原判決ニ於テ本件被告カ其犯意繼續シタルモノナルコトヲ認メナカラ被告カ二ヶ所ニ於テ酒類ヲ密造シタル事實ハ酒造税法第二條第二十二條ニ依リ格別ニ犯罪ヲ構成スルモノナリトシテ被告ニ二箇ノ犯罪アルコトヲ判定シタルモ該法ニハ此ノ如ク一個所毎ニ犯罪ヲ構成スヘキ規定ノ存セサルノミナラス成ル程同法第二條ニハ一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘキコトヲ規定シタルモ其第二十二條ニハ唯單ニ免許ヲ受ケスシテ云云ト規定シタルノミナルカ故ニ本件ノ如キ意思ノ繼續ヲ認メ得ヘクハ假リニ其製造所カ二箇所以

二ヶ所ニ酒類ヲ密造シタル者ノ處分



上ナリトスルモ之ヲ以テ數箇ノ犯罪ヲ構成シ得ヘキモノニアラスト信ス蓋シ此ノ如キ場合ニ於テ立法當時ノ趣旨カ果シテ格別ノ犯罪ヲ構成スヘキ趣意ナリシナランニハ特ニ其規定ヲ明定ス可キ等ナルモ其規定ノ存セサル所ヨリ見レハ立法ノ精神モ亦斯ノ如キ場合ハ全ク意思繼續ノ有無ニ據ルヘキモノト爲シタルモノナリヤ明カナリト云フニ在リ○依テ按スルニ酒造税法第二條前段ニ「酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ク可シトアリ然ラハ本件被告ノ如ク製造場二箇所ヲ設ケ其二箇所ノ何レニ對シテモ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル行爲アルトキハ税法ニ關スル制裁ノ性質トシテ其各行爲ハ別箇ノ犯罪行爲ヲ成スモノニシテ其間意思繼續ハ存スルモ以テ一箇ノ犯罪ヲ成サシムヘキモノニアラス然ラハ原判決ニ於テ本件被告カ無免許ノ儘二箇所ニテ酒類ヲ製造シタル行爲ニ對シ其犯意繼續ノ事實アルコトヲ認メタルニ拘ハラズ各獨立セル二箇ノ犯罪トシテ之ヲ處分シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

竊盜事件

明治三十九年(第三三三號) 明治三十九年七月五日宣告

(破毀)

判決要旨

一、再審ノ訴ハ刑法第百二條ニ依リ其罪ヲ論セスト言渡シタル 判決ニ對シテモ亦々之ヲ爲スコトヲ得

(參照) 一罪前ニ發シ已ニ判決ナシテ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ罪ナリ

再發ノ罪ニ通算ス但前發ノ刑罰金額料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑罰ニ通算ス(刑法第百二條第一項)

原 審 前橋地方裁判所

被告人 中島庄次郎

右竊盜被告事件ニ付明治三十四年七月五日前橋地方裁判所ニ於テ言渡シタル不論罪ノ判決確定後被告ヨリ再審ノ申立ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ再審ノ趣旨ハ要スルニ本案ニ關スル再審事件ハ明治三十二年六月中岐阜市鐵道停車場構内ニ於テ他人ノ所持セシ金二十七圓餘外銀側懷中時計一箇ヲ竊取シタル者ト認メラレ明治三十四年七月五日前橋地方裁判所公廷ニ於テ有罪判決ヲ相受タルモ被告ハ該犯罪ノ當時竊盜罪ニ依リ明治三十二年五月十六日靜岡地方裁判所沼津支部公廷ニ於テ重禁錮四月監視六月ノ處分ヲ受ケ沼津分監ニ於テ該刑ノ執行中ニテ該件ヲ犯ス能ハサル次第該件ハ即チ明治三十二年六月中ニシテ被告カ沼津分監ニ在リシハ同年五月十六日ヨリ刑ノ執行ニ係ルヲ以テ犯シ得キ等ナキコトハ該別紙身分帳騰本ニ依リ明瞭ナリトスト云フニ在リテ原判決騰本及囚人身分帳騰本ヲ提出シタリ○依テ刑事訴訟法ヲ按スルニ再審ノ訴ヲ以テ攻撃スルコトヲ得ル判決ハ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノナルコトヲ必要トスルヲ以テ本件ノ如ク原判決カ現ニ被告ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルニアラスシテ其罪ヲ論セサル旨ノ言渡ヲ爲シタルモノナルトキハ之ニ對スル再審ノ申立ハ刑事訴訟法上許スヘカラサルニ似タリ然レトモ本件原判決ハ被告ニ對シテ無罪ノ言渡シヲ爲タルニアラスシテ却テ被告ヲ有罪ト

再審ノ目的タル判決



認メ相當ノ刑ヲ言渡スヘキナルモ前發ノ罪アリテ其刑重キニ依リ輕キ當度ノ罪ヲ論セスシテ判決言渡ヲ爲シタルモノニシテ二罪俱發ノ場合ニ重キニ依テ處斷シ輕キ罪ニ吸收セシメテ特別ニ刑ヲ科セサルト其揆ヲ一ニスルモノナレハ本件原判決ハ被告ノ竊盜罪ハ之ヲ論セスト言渡シタルニ拘ハラズ刑事訴訟法第三百一條ノ意義ニ於テハ刑ノ言渡シヲ爲シタル判決タルコトヲ失ハサルノミニシテ同條ニ所謂判決中ニハ現ニ刑ヲ言渡シタルト否トニ論ナク被告ニ刑罰ヲ科スヘキ犯罪アリト認メタル判決ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス故ニ本件原判決ハ再審ノ目的タルコトヲ得ヘシ而シテ原判決ニ被告カ明治三十二年六月日不詳岐阜市鐵道停車場ノ構内ニ於テ氏名不詳ノ者ノ所持セシ金二十七圓餘銀制懷中時計一箇ヲ竊取シタルノ事實ヲ認ムルモ明治三十二年五月二十三日調査三十三年二月十四日ヲ以テ終結セル静岡監獄沼津分監ノ囚人身分帳曆本ノ記載ニ依レハ被告ハ明治三十二年五月二十三日ヨリ同年九月十二日迄在監ノ身ニシテ原判決カ被告ニ犯罪アリト認メタル明治三十二年六月中犯所ナル岐阜市ニ在ラサリシコト明カナリ左スレハ本件ハ刑事訴訟法第三百一條第三項ニ該當シ再審ノ理由アルモノトス

詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第九二〇號 (棄却)

判決要旨

一、刑法第二百二十七條以下ノ度量衡トハ法律ニ規定セルモノ

、ミヲ指稱シ外國製ポント衡器ノ如キハ之ニ包含セス

第一審 長崎地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 梅田友次郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年八月四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シテ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣旨書第四點原判決ニ日本度量衡ノ範圍外タル外國ノポント衡器ノ不正ナルモノヲ使用シテ石炭ヲ販賣シタル事ヲ認メナカラ擬律スルニ刑法第三百九十二條ニ因ル詐欺取財ノ條項ヲ適用シ同法第二百二十九條第二項ニ間擬セサルハ擬律ノ錯誤ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第十二該當スル裁判ナリト謂ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○刑法第二百二十七條以下ノ度量衡トハ法律ニ規定スルモノ、ミヲ謂ヒ原院ノ認メタル度量衡法ノ範圍外ニ屬スル外國製ポント衡器ノ如キヲ包含セサルハ法文ハ解釋上疑ナク從テ本件被告ノ所爲ハ刑法第二百二十九條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非スシテ同法第三百九十二條ノ犯罪ヲ構成スルヲ以テ原判決ノ擬律ハ正當ナリ

蠶病豫防法違反事件

明治三十九年(レ)第九二〇號 (棄却)

判決要旨

一、蠶病豫防法第十三條ノ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ讓渡シ得

蠶種製造業者ノ責任



サル禁令ハ蠶種製造業者モ亦之ヲ遵守スヘキモノニシテ且其業務ニ關スル規定ナリトス故ニ製造業者ノ妻カ同條ニ違背シタル行爲ニ付テハ同法第二十六條ニ從ヒ製造業者其責任ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

(參照) 検査合格ノ蠶印ナキ蠶種及其ノ蠶種ヨリ産出シタル産兒ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ検査合格ト看做サレタルモノ及其ノ蠶種ヨリ産出シタル産兒ハ此ノ限ニ在ラス(蠶病豫防法第十三條) 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス(蠶病豫防法第二十六條)

第一審 大津地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 藤田直治郎 辯護人 望月長夫

右蠶病豫防法違反事件ニ付明治三十九年八月一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ハ本件原判決ニ於テハ無検査蠶種ヲ松田源三郎ナルモノニ讓渡シタルハ全ク被告ノ妻壽ナル者ノ行爲ニシテ被告ノ毫モ關知セサルモノナルコトヲ認メナカラ被告カ其讓渡當時蠶種製造業者ナリシカ爲メニ蠶病豫防法第十三條第二十一條第二十六條ヲ適用シテ被告ニ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノナリ然レトモ右原判決ハ左ノ理由ニ依リテ全ク不法ニ法律ヲ適用シタルモノト信ス

(一) 蠶病豫防法第二十六條ハ他人ノ行爲ニ關シ毫モ之ニ干與セサル者ニ罪責ヲ負ハシムル所ノ例外ノ規定ナレハ其範圍ハ嚴格ニ解釋セラレサルヘカラス該條ノ規定ニ依レハ營業者ハ其業務ニ關シテ同法又ハ同法ニ基キテ發セラレタル命令ノ規定ニ違背シタル場合ニ限り其代理人以下該條ニ規定セラレタルモノ、行爲ニ付罪責ヲ負フヘキモ其他ノ場合ニハ決シテ他人ノ行爲ニ付罪責ヲ負フヘキ理由ナシ更ニ詳言スレハ營業者即チ蠶種製造業者等ハ其資格ニ於テ法律上特ニ遵守スヘキコトヲ命セラレタル規定ニ自ラ違反シ若クハ其代理人等ノ違背シタル場合ニ限り其罪責ヲ負フヘキモ蠶種製造業者等ニ限リテ命セラレタル規定以外ノ規定ニシテ一般人ニ對シテ命令セラレタル禁止ノ如キハ各其行爲者ニ於テ其罪責ヲ負フヘク偶々其行爲者カ同法第二條若クハ第三條ニ規定セラレタルモノ、代理人等ナルモ決シテ業主ニ於テ其責ヲ負フヘキ理由ナシ故ニ例ハ同法第八條乃至第十條ノ規定ニ違背シタル場合ノ如キハ業主ニ於テ渾テ其責ヲ負フヘキモ第十三條ノ如キハ一般人ニ對スル禁止規定ニシテ特ニ蠶種製造業者ニ對シテ規定セラレタルモノニアラサレハ直接ニ行爲ヲナシタル者ニ其責任ヲ負ハシムヘキモノニシテ業主ニ責任ヲ負ハシムヘキ理由アルコトナシ  
(二) 更ニ立法ノ精神ヲ探求スルモ亦同一ノ結論ニ歸着スヘシ即チ蠶種製造業者等特種ノ資格アルモノニ對シテ特ニ規定セラレタルモノハ其資格ナキ者之ヲ犯スモ犯罪ヲ構成セサルヲ以テ若シ其代理人等ノ行爲ニ對シテ業主ニ罪責ヲ負ハシムヘキ特例ヲ設ケサレハ業主ハ常ニ是等ノ者ノ背面ニ隱レテ何レモ其罪責ヲ免レ國家カ其法律ニ依テ達セントスル所ノ取締ノ目的ヲ遂行スルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ一定ノ有資格者ニ限リテ適用スヘキ規定ニ違背シタル無資格者ノ行爲ニ就キテ

蠶種製造業者ノ責任



ハ特ニ業主ニ罪責ヲ負ハシムルノ必要アリ然レトモ同法第十三條ノ規定ノ如キハ一般人ニ對スル禁止規定ニシテ何人カ之ニ違背スルモ其行爲者ニシテ一般刑法上ノ無責任者ニアラサル以上ハ何レモ其罪責ヲ負フヘク苟モ之ヲ免ル、ノ途アルコトナシ故ニ同條ノ規定ノ如キハ(一)特ニ該條ニ規定セラレタル當業者ナルモノアルコトナク(二)一般行爲者ハ何人ニテモ行爲者直接ニ其責任ヲ負フカ故ニ業主ヲシテ罪責ヲ負ハシムヘキ立法上ノ理由ナシ以上ノ理由ナルニ拘ハラス原判決カ被告ノ妻壽ノ第十三條第二十一條ノ違反行爲ニ對シ第二十六條ヲ適用シ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ト信スト云ヒ辯護人望月長夫上告趣意擴張書ハ被告ノ妻壽カ検査證印ナキ蠶種ヲ讓渡シタル行爲即チ蠶病豫防法第十三條違反行爲ニ對シ被告カ該讓渡ノ當時(明治三十九年四月二日)蠶種製造者ナリシカ爲メ同法第二十六條ヲ適用シテ被告ヲ同法第二十一條ノ刑ニ處シタルハ不法ノ判決ナルコト嚮キニ被告ヨリ提出シタル上告趣意書ニ縷々陳述シタルカ如シ然ルニ原院ハ此點ニ關シ「同法中蠶種製造者カ検査證印ナキ蠶種ヲ讓渡シタル場合ノ特別規定ナキカ故ニ第十三條ハ被告代理人モ認ムル如ク蠶種ヲ製造スル當業者モ亦之ヲ遵守スヘキ禁令ナリト解釋セサルヘカラス而シテ當院ハ苟モ當業者カ蠶病豫防上遵守スヘキ規定ハ第二十六條ニ所謂業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キ發スル命令ニ外ナラスト認ムルニ依リ被告代理人ノ主張ハ採用セス」ト說示スレトモ此場合ニ於テ蠶種製造者タルモノモ亦該條ノ制裁ヲ受クルハ唯我刑事法律ノ制裁ニ服従スヘキ一般臣民ノ一員トシテ之ヲ受クルニ止マリ決シテ蠶種製造者タル資格ニ於テ之ヲ受クルニアラス蠶病豫防法第二十六條ノ規定ヲ查覈スルニ同條ハ特ニ

「當業者」ハ云云「其業務ニ關シ」本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ云云ト規定シ當業者カ其代理人以下ノモノ、行爲ニ對シ責任ヲ負フヘキ場合ハ其業務ニ關スルコト及本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スルコトノ二要素ヲ具備スル時ニ限レルハ明文上毫モ疑ヲ容ルヘキニアラス若シ原院說明ノ如キ法意ナリトセハ當業者ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背スル一切ノ場合ニ其責任ヲ負フヘキカ故ニ該條中「其業務ニ關シ」ノ文字ハ全ク無意義ノ贅文トナラサルヘカラス然ルニ同法第二十五條ニハ特ニ「當業者ニ適用スヘキ罰則」ノ文字ヲ記入シ第二十六條ニハ又特ニ「其業務ニ關シ」ノ文字ヲ記入シタルハ丁寧ニ其範圍ヲ限定シタルモノナルコト極メテ明瞭ナルニ拘ハラス斯ル法文ヲ捉ヘテ全ク無意義ノ閑文字ト爲スカ如キハ實ニ解釋法ノ正鵠ヲ失却セルモノト云ハサルヘカラス故ニ第二十六條ニ依リ當業者カ他人ノ行爲ニ對シ責任ヲ負フハ特ニ當業者ニ限リテ遵守スヘキ規定ニ違背シタル場合ニ限リ第十三條ノ如キ一般人ニ對シテ禁止セラレタルモノハ其行爲者ニ於テ直接ニ其責任ヲ負フヘク其違反行爲ニ關係ナキ當業者ニ其責任ヲ及ホスヘキ理由アルコトナシ然ルニ原院カ被告ノ妻壽ノ第十三條ノ違反行爲ニ對シ第二十六條ヲ適用シテ被告ヲ第二十一條ノ刑ニ處シタルハ不法ノ判決ト信スト云フニ在リ○依テ審按スルニ蠶病豫防法第二十六條ニハ當業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其他從業者ニシテ其業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ストアリ而シテ同法第十三條ノ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ讓渡スルコトヲ得サルノ禁令ハ蠶種製造業者ノミニ對スル規定ニアラスト雖モ製造業者モ亦



タ遵守スヘキ規定ナルコト勿論ニシテ且ツ蠶種製造業者ニ在リテハ業務ニ關スル規定ナルヲ以テ被告ノ妻壽カ同條違背ノ行爲ニ付戸主タル被告ニ於テ其責任ヲ負擔スヘキハ當然ナリ依テ本件ニ對シ原院カ同法第二十六條ヲ適用シ被告ヲ處罰シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

●私書變造行使事件

明治三十九年九月九日第六號  
明治三十九年十月十五日宣告 (棄却)

判決要旨

- 一、證書毀棄ノ罪ハ權利義務ニ關スル證書ノ所有者又ハ所持者ヲシテ其權利義務ニ關スル證據ノ全部若クハ一部ヲ失却セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ毀損シ其全部又ハ一部ヲ利用シ得サルニ至ラシムル行爲ナリトス
- 一、犯人カ擅ニ既存ノ證書ノ一部分ヲ切取り其殘部ヲ自己ノ利益ニ使用シタル所爲ハ證書變造罪ヲ構成ス

第一審 山形地方裁判米澤支部 第二審 宮城控訴院

被告人 南波運次郎 辯護人 高木益太郎

右私書變造行使被告事件ニ付明治三十九年八月二十九日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ

被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
辯護人高木益太郎上告辯明書一ハ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ地所賣渡約定書ト題スル證書中ノ我妻金三郎名宛ノ部分ヲ切取りタリト云フニ在リテ則チ此事實ハ文書ノ一部ヲ毀棄シタルモノニ外ナラサレハ此瞬間ニ證書毀棄罪ヲ構成シタル筋合ナルニ原判決カ此事實ニ對スル擬律ヲ遺脱シタルハ失當ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ證書毀棄ノ罪ハ權利義務ニ關スル證書ノ所有者又ハ所持者ヲシテ其權利義務ニ關スル證據ノ全部若クハ一部ヲ失却セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ毀損シ其證書ノ全部又ハ一部ヲ利用スルコトヲ得サルニ至ラシムルニ因リテ成立スルモノトス然ルニ本件ニ付原判決ノ認定シタル事實ハ前項ニ摘載スル如ク被告ニ於テ我妻金三郎ヨリ提起セラレタル訴訟事件ニ付反證トシテ裁判所ニ提出スル爲メ前記證書ノ右金三郎宛名ノ部分ヲ切取り恰モ被告一名宛ノ證書ナルモノ、如クニ之ヲ變換シタリト云フニ在リテ要スルニ被告カ該證書ニ對シテ右ノ所爲ヲ施シタルハ我妻金三郎ヲシテ該證書ヲ利用スルコトヲ得サルニ至ラシムルヲ唯一ノ目的ト爲シタルモノニアラスシテ即チ斯ク變換セラレタル證書ニ據リ訴訟上自己ノ利益ヲ主張セントスルニ外ナラサリシコト原判文上自ラ之ヲ見ルコトヲ得ヘク而シテ擅ニ既存ノ證書ヲ變換シテ自己ノ利益ニ之ヲ使用スルハ是レ則チ證書變造ノ行爲ナルヲ以テ右被告ノ行爲ハ單ニ證書變造ノ罪ヲ構成スルニ止マリ其他ニ證書毀棄ノ罪ヲ構成スヘキ筋合ナケレハ證書毀棄罪トシテ擬律ヲ爲サ、リシハ固ヨリ當然ニシテ毫モ所論ノ如キ不法アルコトナシ

有夫姦罪ノ主体○有夫姦罪ノ成立



●有夫姦事件

明治三十九年(レ)第九四二號  
明治三十九年十月十五日宣告

(棄却)

判決要旨

- 一、有夫姦罪ヲ構成スルニハ其主體カ人ノ妻タル身分アルコトヲ必要トス
- 一、民法施行以前婚姻ヲ爲シタル婦女ハ縱令送籍ノ手續ヲ行ハサルモ實際夫婦タル關係アル以上ハ婦妻タル身分ヲ有スルモノトス左レハ送籍ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

第一審 宮崎地方裁判所

第二審 長崎控訴院

被告人 吉川

外一名

右有夫姦被告事件ニ付明治三十九年八月二十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告兩名上告趣意書ハ第一點被告イトハ民法實施前ナル明治二十八年ニ於テ上田綱芳ノ妻トナリタルモ當時婚姻ノ届出ヲ爲サス戸籍上夫婦トシテ登録セラレサルモノナルコトハ原院判決ノ認ム

八〇

ル所ナリ而シテ貴院ノ判例ニ由レハ婚姻届出ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ何等ノ影響ナク事實夫婦タルノ關係ヲ有スル以上ハ婚姻ノ届出ナキモ仍ホ夫婦タル身分ヲ有スルモノト爲セルモ明治八年二百九號太政官達ニハ明ニ「婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離縁縱令相對熟談ノ上タリトモ雙方ノ戸籍ニ登録セサル内ハ其效ナキモノト見做ス可ク云々」ト規定シ爾後民法制定ニ至ル迄之ヲ廢止シ又ハ變更スル法令ノ出テタルコトナク尤モ明治十年司法省丁四六號達ハ有馬判事ノ伺指令ヲ載セ其指令ニハ「明治八年第二百九號ノ達後其登記ヲ怠リシ者アリシト雖モ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦若クハ養父子ヲ以テ論スヘキ儀ト相心得ヘシ」トアレトモ是ハ司法省ヨリ各裁判所ヘ心得ノ爲メ達シタル丁號達ニ過キサルヲ以テ固ヨリ右太政官達ヲ廢スル效力アルモノニアラサレハ貴院從來ノ判例ハ太政官達ヲ無視シタル失當ノ御判決ナルノミナラス民法實施ノ今日ニ於テ仍ホ民法實施前ニ於ケル登記ナキ婚姻ヲ認ムルヲ得ルモノトセハ勢ヒ其ノ協議離婚ノ場合ニ於テ之カ届出テナキモ離婚ヲ認メサルヲ得サルヘク然レトモ民法ハ協議上ノ離婚ハ戸籍吏ニ届出ツルニ因リ效力ヲ生スヘキ旨ヲ規定シ此ノ他ニ例外ヲ認メタル規定ナシ是ニ因テ觀ルモ登記ナキ婚姻ヲ認ムルノ不當ナルヲ知ル可シ左レハ原院カ登記ナキ被告イト上田綱芳間ノ婚姻ヲ認メテ被告等ニ有夫姦罪ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ有夫姦罪ハ構成要素ノ一トシテ其犯罪ノ主體カ有夫ノ婦ニシテ妻タル身分ヲ有スルモノタルコトヲ要ス而シテ民法實施前ニ結婚シタル婦女ニ在テハ縱令ヒ送籍ノ手續ヲ爲サハルモ實際夫婦タル關係アル以上ハ婦妻タル身分ヲ有スル者ナレハ苟クモ姦通ノ所爲アルトキハ有夫姦罪ヲ構成スルモノニシテ送籍ノ有無ハ其ノ成

有夫姦罪ノ主體○有夫姦罪ノ成立



立、何等影響スルコトナシ是レ本院從來判例ノ認ムル所ナリ原判決ヲ査閲スルニ原院ハ被告「イト」カ明治二十八年十二月頃山下武助ノ媒介ニテ上田綱芳ノ妻トナリ當時婚姻ノ届出ヲ爲サ、リシモ爾來夫婦トシテ同居セシカ明治三十七年舊十月二十六日夜被告市兵衛ト姦通シ被告市兵衛ニ於テハ「イト」カ上田綱芳ノ妻タル情ヲ知リテ相姦シタル事實ヲ認定シタリ右ノ事實ニ依レハ被告「イト」ハ民法實施前上田綱芳ト結婚シタルモノニシテ今日ニ於テハ未タ結婚ノ届出ヲ爲サス隨ヒテ送籍手續ヲモ爲サスト雖實際ニ夫婦タル關係アルモノナレハ綱芳ノ妻タル身分テ有スルコト勿論トス而シテ被告「イト」ハ有夫ノ婦タル身分ナルニ被告市兵衛ト姦通シ被告市兵衛ハ「イト」カ有夫ノ婦タルヲ知リナカラ相姦シタルモノナレハ共ニ刑法第三百五十三條ノ罪責ヲ免ル、コトヲ得ス因テ原院カ被告兩名ヲ同法ニ據リ處罰シタルハ相當トス

●詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第九三九號

明治三十九年十月十六日宣告

(棄却)

判決要旨

一、刑法第三百九十二條ノ規定ハ純金ヲ販賣スルニ當リ眞鍮ニ鑛金ヲ爲シ之ヲ交付スルカ如ク全然其物質ヲ變シタル場合ノ外或物ニ他物ヲ混和シ以テ其品質ヲ粗惡ナラシメタル場合ヲモ包含ス

一、牛乳ヲ販賣スルニ當リ之ニ他ノ液體ヲ混和シ其性質ヲ變セシメタル所爲ハ刑法第三百九十二條ノ犯罪ヲ構成ス從テ内務省令牛乳營業取締規則ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(參照) 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十二條)

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 竹島 普松

外一名

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年八月二十三日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告兩名上告趣意書第二點ハ原判決ノ事實ニ依レハ須ラク牛乳營業取締規則第九條ニ依リ第十八條ノ刑ヲ適用スヘキモノト信ス牛乳營業取締規則ハ獨リ刑法ニ對シ特別法タル性質ヲ有スルノミナラス其第十八條ノ刑ヲ適用サルヘキ第七條記載ノ禁止事項ハ何等其範圍ニ付制限ヲ設ケサルノミナラス何レモ販賣ノ目的ヲ以テ衛生上不適當ナル飲料ヲ製造シ又ハ販賣スルヲ禁止スルニアリテ本件ノ事實ノ如ク全然之ニ適合スルノミナラス尙ホ牛乳營業取締規則第十六條ニ於テ明治三十年二月法律第十五號ニ依リ營業者ノ生命トモ稱スヘキ營業禁止ノ職權ヲ地方長官ニ付與シタル事實ヨリ推スモ嚴重ナル取締ノ存スルアリテ全然刑法第三百九十二條ヲ適用スヘキニアラサルナリト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第三百九十二條ニ物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ

刑法第三百九十二條ノ解釋○内務省令牛乳營業取締規則ノ適用



變シ、云々トアルハ例ヘハ純金ヲ販賣スルニ當リ真鍮ニ鍍金ヲ爲シテ之ヲ交付スルカ如ク全然其物質ヲ變シ別種ノ物ヲ交付スル場合ヲ云フノミナラス或物ニ他物ヲ混和シ依テ其品質ヲ粗惡ナラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス而テ本件ニ付キ原院ノ認ムル所ニ依レハ被告ハ牛乳ヲ販賣スルニ當リ其搾取ニ係ル牛乳凡二斗二三升中ニ水ヲ和シタル「コンテンズミルク」若クハ砂糖ヲ和シタル米汁約三升ヲ混和シ生乳タル性質ヲ變セシメタルモノナルカ故ニ該所爲タル刑法第三百九十二條ノ犯罪ヲ構成スルモノタルヤ明カナリ既ニ被告ノ所爲ニシテ右刑法上ノ犯罪ヲ構成スル以上ハ内務省令ニ過キサル牛乳營業取締規則カ右法律ノ適用ヲ左右スルノ効力ナキハ勿論ニシテ該規則ハ刑法上ノ犯罪ヲ構成スヘキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス本論旨ハ其理由ナシ

●小切手及私印偽造行使詐欺取財竊盜事件

明治三十九年(レ)第九五一號  
明治三十九年十月十九日宣告

判決要旨

一、刑事訴訟法第四百十條ハ訓示的ノ規定ニシテ鑑定ノ有效條件ニ非ス左レハ鑑定書中鑑定ヲ爲スニ至リタル手續ノ記載ナキモ其效力ニ何等ノ影響ヲ及サス

(參照) 鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續、結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ(刑事訴訟法第四百十條)

第一審 廣島地方裁判所 第二審 廣島控訴院  
被告人 松浦善七 辯護人 高木益太郎

右小切手及私印偽造行使詐欺取財竊盜被告事件ニ付明治三十九年八月二十一日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明書ハ原判決カ斷罪ノ資ニ供シタル鑑定人坂田利三郎ノ鑑定書ハ唯其冒頭「一松浦善七私印盜用私書偽造行使等ノ被告事件ニ付左記ノ通り鑑定候也」ト掲クルノミ其鑑定ヲ爲スニ至リタル手續ノ記載ハ全ク之ヲ缺如セリ右ハ則チ刑事訴訟法第四百十條ノ定規ニ違背シタル無効ノ書面ニシテ原判決ニ之ヲ引用シタルハ其探證ヲ謬リタル失當アルモノナリト云フニ在リ然レトモ刑事訴訟法第四百十條ノ規定ハ訓示的ノモノニシテ鑑定ノ有效條件ニアラサレハ鑑定書ニ鑑定ヲ爲スニ至リタル手續ヲ記載セザリシトテ鑑定書ヲ無効ナラシムルモノニアラス依テ本論旨ハ其ノ理由ナシ



●恐喝取財事件

明治三十九年(レ)第八二四號  
明治三十九年十月一日判決

(棄却)

判決旨要

- 一、雇員ハ官吏タル資格ナケレハ職務執行ニ付キ財物ヲ收受スルモ刑法第二百八十四條ノ收賄罪ヲ構成スルモノニアラス
- 一、官吏カ財物ヲ騙取スル爲メ常人ヲ恐喝シタルハ其ノ恐喝ノ手段カ職務トシテ執行スヘキ事項ヲ以テシタルハト雖モ恐喝取財罪ヲ構成スルヲ不妨
- 一、小林區署ノ雇員カ山林盜伐者ヨリ財物ヲ騙取スル目的ヲ以テ盜伐者ニ告クルニ盜伐事件ヲ檢舉スヘキヲ以テシ盜伐者カ之レニ由テ畏怖ノ念ヲ生スルニ乘シ金員ヲ提出セシメ其ノ檢舉ヲ止メタルノ所爲ハ官吏收賄罪ニアラスシテ恐喝取財罪ヲ構成ス

第一審 秋田地方裁判所大曲支部  
第二審 宮城控訴院



被告人 眞崎源之助 辯護人 沼田宇源太

8011

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十九年七月六日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人沼田宇源太上告理由擴張書ハ本件ハ恐喝取財トシテ起訴セラレ又裁判セラレタルモ記録ノ全體ニ付キ犯罪事實ヲ審査スルトキハ上告人源之助カ菅原龜吉外三名ノ國有林盜伐ノ犯罪所爲ニ對シ其職務上爲スヘキ告發ヲ同人等ノ請託ヲ容レ金圓ヲ收受シ爲サ、リシモノト見ルヲ相當トス何トナレハ上告人ハ小林區署ノ雇員ナルヲ以テ其職責地位ヨリ考フルトキハ原判決ノ認ムルカ如ク當初ヨリ恐喝シテ金圓ヲ騙取スルノ目的ヲ有シタリトスルモ又必ス之ト同時ニ其目的ヲ達セサルトキハ職務上當ニ告發ヲ爲ス意思ヲ有シタルモノナリト認メサルヘカラス既ニ此ノ意思アリトスレハ其恐喝ニ依ル目的ヲ達シ告發セザリシコトハ即チ結果ニ於テ請託ヲ容レ告發ヲ爲サ、リシニ歸着ス然ラハ此ノ所爲タル實質ニ於テ官吏收賄ノ罪ニ相當スヘク恐喝取財ヲ以テ論スヘカラサルナリ然レトモ亦上告人ハ小林區署ノ雇員ニシテ官制上官吏タル資格ヲ有セサルカ故ニ官吏タル資格アルモノ、犯スコトヲ罪ノ特別構成要素トスル官吏收賄罪ハ構成セサルヲ以テ結局其ノ所爲罪トナラサルモノトス然ルニ原院ハ本件ヲ恐喝取財ニ間擬シ處罰セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ初メヨリ本件ノ被害者菅原龜吉等ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取セント企テ同人等ニ對スル盜伐事件ノ檢舉手續ヲ進行シ因テ以テ龜吉等ノ腦裏ニ畏怖ノ念ヲ生セシメ之ニ乘シテ財物騙取ノ目的ヲ達シタルモノニシテ被害者龜吉等ハ財物騙取ノ目的ヲ以

テ被告ノ施シタル恐喝の術策ニ陥リ被告ニ金圓ヲ交付シタルモノナレハ刑法第三百九十條ニ所謂人ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取シタルモノニ該當ス尤モ本件ニ在テハ被告カ恐喝ノ手段トシテ用ヒタル龜吉等盜伐事件ノ檢舉處分ハ當時湯澤小林區署川井保護區官舎詰雇員タリシ被告源之助ノ職務ニ關シ本件ノ金員ハ被害者龜吉等ニ於テ其盜伐事件ノ檢舉ヲ免カル、カ爲メニ提供シタルモノナレハ之ヲ收受シタル被告ノ所爲ハ刑法第二百八十四條ノ官吏收賄罪ヲ構成スルカ如シト雖モ原院ノ認ムル如ク被告ハ一ノ雇員ニシテ官吏ノ資格ナキヲ以テ刑法第二百八十四條ハ之ヲ適用スルコトヲ得サルノミナラス加害者カ始メヨリ財物騙取ノ目的ヲ以テ恐喝手段ヲ施シ其結果財物ノ騙取ヲ遂ケタルモノナルニ於テハ恐喝取財罪ハ完全ニ成立スヘク加害者カ官吏ニシテ恐喝ノ爲メニ用ヒタル手段カ其官吏ノ職務ニ關シ被害者カ財物ヲ交付シタルハ全ク加害者タル官吏ノ職務上ノ行爲ヲ止ムルノ目的ニ出テタル場合ト雖モ其財物ノ交付ヲ受ケタル加害者ノ所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成シ官吏收賄罪ヲ構成スルコトナシ何トナレハ此ノ場合ニ於ケル財物ノ授受ハ加害者カ財物騙取ノ目的ヲ以テ被害者ニ加ヘタル恐喝ノ結果ニシテ官吏カ單ニ人ノ請託ヲ受ケ金品ノ贈賄ヲ受ケテ之ヲ收受シ其金品カ當事者ノ承諾上平穩ニ行ハル、所ノ官吏收賄罪ト日ヲ同フシテ論スルコトヲ得サルヲ以テナリ故ニ本論旨ハ理由ナシ

● 竊盜附帶私訴事件

明治三十九年(レ)第八四〇號

明治三十九年十月四日判決 (棄却)

判決要旨

悪意ノ占有

EQH1



一、惡意ノ占有者ハ其ノ占有物ヨリ生スル果實ヲ收取スルノ權利ヲ有セス

民法第九十條第一項後段ノ規定ハ惡意ノ占有アルカ爲メ眞ノ權利者ヲシテ適當ノ時期ニ果實ヲ收取スルコトヲ得サラシメ爲メニ眞ノ權利者ニ損害ヲ加ヘタルヲ以テ之ヲ賠償セシムルノ趣旨ニ外ナラス

(參照) 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其ノ已ニ消費シ、過失ニ因リテ毀損又ハ收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ(民法第九十條第一項)

頁一(民法第九十條第一項)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

私訴上告人 松本 誠吉 代理人 青山 幾之助

私訴被上告人 須藤 亮吾

右竊盜附帶ノ私訴事件ニ付明治三十九年七月七日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意辯明追加書第四點ハ原判決ハ「控訴人ハ前段說示ノ如ク惡意ノ占有者ニシテ果實ヲ取得スルヲ得サルニ不拘前段說明ノ如ク被控訴人ノ權利ヲ侵害シ即チ擅ニ右田地ノ稻ヲ刈取リタルモ

ノナレハ不法行爲ノ責任ヲ免レサルモノトス最モ稻ノ植付其他ニ付キ要シタル費用ハ被控訴人ニ對シ之ヲ請求スルノ權利アルコト勿論ナレトモ控訴人ノ被控訴人ニ對スル本件ノ債務ハ不法行爲ニ原因シタルモノナルヲ以テ民法第五百九條ノ規定ニヨリ被控訴人ニ對シ相殺ヲ求ムルヲ得サルモノト判斷シテ上告人ノ抗辯ヲ排斥サレタリ然レトモ上告人ハ善意ニ非ストスルモ本件田地ノ占有者ニシテ其占有中稻ノ植付ケ及刈取ヲ爲シタル事ハ原判決モ亦認ムル所ナリ而シテ占有者カ刈取時期ニ於テ果實ヲ收取スルハ善意ナルト惡意ナルトヲ不問法律ノ認ムル權利行爲ナルコトハ民法第九十條第一項ノ規定ニ依ルモ明カナリ即チ占有者ノ果實取得ハ不法行爲ト云フ事ヲ得ス隨テ惡意ノ占有者ニ果實返還若クハ之レカ賠償ノ義務アリトシタルハ不當利得ノ理由ニ基キタルニ過キス然ルニ前掲ノ如ク判斷シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ民法第九十條ハ惡意ノ占有者カ不法ニ果實ヲ收取シタル結果其權利者ニ加ヘタル損害ヲ賠償セシムヘキ義務ヲ規定シタルモノニシテ毫モ惡意ノ占有者ニ果實收取ノ權利アルコトヲ認メタルモノニアラス同條中ニ惡意ノ占有者ヲシテ收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還セシムル所以ノ者ハ惡意ノ占有者カ眞ノ權利者ヲシテ適當ノ時期ニ果實ヲ收取スルコトヲ得セシメス之レカ爲メニ眞ノ權利者ニ損害ヲ加ヘタル過失アルカ故ニ其ノ損害ヲ賠償セシムル旨趣ニ外ナラス去レハ法律ハ其ノ反面ニ於テ惡意ノ占有者ニ果實收取ノ權利アルコトヲ認メタルニアラサルコト自カラ明ラカナリ故ニ原判決ニ於テ上告人ニハ果實收取ノ權利ナク其ノ稻ヲ刈取リタル所爲ハ不法行爲ナリト判示シタルハ相當トス從テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

贓物被買罪ノ成立



●盜賊故買事件

明治三十九年(レ)第八〇八號 (棄却)  
明治三十九年九月二十七日宣告

判決要旨

一、買主カ賣買ノ後ニ至リ目的物ノ贓物タルコトヲ知テ其引渡  
ヲ受ケタル所爲ハ贓物故買罪ヲ構成ス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
被告人 松谷吉松 外一名

右盜賊故買被告事件ニ付明治三十九年六月二十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ  
被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告吉松上告趣意書第二點ハ原判決ハ擬律ニ錯誤アルモノト思料ス贓物ノ故買ハ贓物ト知テ之ヲ  
買受ケシニアリ故ニ贓物ト知ラスシテ買受ケシ場合ニハ之ヲ構成セサル事勿論ナリ原院ノ認定セ  
ラレタル事實ハ船中ニテ買受ケノ約束ヲ爲シ其後自宅ニ於テ情ヲ知テ(アンモニヤ)五十二袋ノ  
引渡ヲ受ケ其代金ヲ支拂ヒタリト云フニ在リ左レハ故買ニアラサル事明瞭ナリ賣買ハ合意ニヨリ  
成立スルモノナレハ一旦合意ノ後ハ假ニ情ヲ知テ贓物ヲ受取リシトスルモ并ハ別ノ犯罪ヲ組成ス  
ルハ格別情ヲ知テ故買セシニアラス然ルニ原院カ故買トシテ罰セラレタルハ違法ナリト云フニ在  
リ○依テ按スルニ贓物ヲ牙保故買收受寄藏スルノ所爲ハ被害者ヲシテ贓物ノ發見ヲ困難ナラシメ

例判事刑卷七拾第報彙例判

若クハ其回復請求權ノ行使ヲ困難ナラシメ時トシテハ之ヲ不能ナラシムベク結果ヲ生シ若クハ之  
ヲ生スルノ危険アリ以テ財産ノ不法占有ヲ安全ナラシムルニ至ルノミナラス主犯者ノ罪跡ヲ湮滅  
スルノ虞アルヲ以テ之ヲ罪トシテ罰スルモノニシテ贓物ヲ賣買シ其引渡ヲ受ケタルトキハ其害果  
ハ一層重大ナルカ故ニ故買罪ハ買主カ賣買後ニ至リ其目的物ノ贓物タル事ヲ知リテ其引渡ヲ受ケ  
タル場合ニ於テモ亦成立スルコト勿論ナリ故ニ本論旨ハ其理由ナシ

●官文書偽造行使事件

明治三十九年(レ)第七六四號 (棄却)  
明治三十九年十月二十二日宣告

判決要旨

一、當事者間ニ於テ婚姻ヲ行フ意思合致ナキニ拘ハラス戸籍吏  
ニ婚姻ノ届出ヲ爲シ又ハ既ニ成立シタル婚姻ナクシテ離婚  
ノ届出ヲ爲スハ孰レモ詐僞ノ届出ニシテ戸籍法第二百十五  
條ノ制裁ヲ免レス

(参照) 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐僞ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者  
ハ十一日以上四年以下ノ重懲罰又ハ二回以上百圓以下ノ罰金ニ處セラレ(戸籍法第二百十五條)

一、身分登記ノ申請ニシテ形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ戸籍

婚姻及離婚ニ關スル詐僞ノ届出○身分登記ニ關スル戸籍吏ノ職責○戸籍吏ノ公文書偽造



吏ハ其ノ申請事項カ實體上ノ要件ヲ欠缺セルコトヲ理由トシテ登記ヲ拒ムコトヲ得ス從テ其登記シタル事項カ實體事實ニ適合セサルモ刑事上ノ制裁ヲ受クルコトナシ  
一、戶籍吏カ豫メ虚偽ノ身分登記ヲ爲サントスル他人ノ計畫ニ賛同シテ其實行ヲ擔當シ虚偽ノ登記ヲ爲シタル所爲ハ公文書偽造罪ヲ構成ス

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人

伊藤 又吉

辯護人

菊地 武夫  
花井 卓藏  
原田 亮

右官文書偽造行使被告事件ニ付キ明治三十九年六月五日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ抑モ婚姻ナルモノハ當事者ノ意思ト戸籍役場ヘノ届出ニ依リ成立スルモノニシテ而シテ其意思ノ一致ナルモノハ固ヨリ當事者間ノ關係ニシテ他人ノ地位ヨリ彼是揣摩付度スヘキモノニアラス當事者ニシテ婚姻ヲ爲スノ意思アリテ其意思ヲ發表スヘキ婚姻届書ニ署名捺印シテ相

當官署ニ呈出シタルニ於テハ即チ婚姻ハ成立シタルモノニシテ其目的ノ良否ノ如キハ以テ此ノ婚姻ノ成立ヲ害スルニ足ラス況ンヤ或時期ノ後離婚スヘシトノ意思アルカ如キハ固ヨリ其當事者ノ希望ニ過キスシテ婚姻成立ノ爲ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラス要スルニ婚姻ハ要式ノ合意ニシテ形式上ノ意思ノ一致アル以上ハ之ヲ有效ト看做スヘキハ當然ニシテ法律ハ之以上皮肉ニ侵入婚届ヲ呈出スルトキハ其當事者間ノ内意ハ如何ナルモノニモセヨ法律上ハ即チ婚姻又ハ離婚ノ成立ニ欠クル所ナク隨テ虚偽ノ届出ト爲ス可ラス原判決ヲ見ルニ又吉ハ彰等ト共謀シ同人トてノ虚偽(内容ノ虚偽ニシテ偽造ニアラス)ノ入夫婚姻ト離婚ノ届書ヲ作成シテ戸籍役場ニ呈出セシメ自ラ助役書記ニ命シテ戸籍簿ニ登録セシメタル者トシテ公文書偽造ニ擬セラレタル如シ之レ即チ婚姻及離婚ニ當事者間意思以外ニ虚偽ノ事實アルコトヲ認メタルモノニシテ前記所論ニ反ス上告人ノ思料スル所ハてゝト彰トノ届書ハ正當ニ成立シタルモノ換言スレハ其目的ノ如何ニ拘ハラズ當事者間意思ノ一致ニ依リ成立シタルモノナルコトハ原判決ニ於テ之ヲ認メ居ルモノナルカ故此届書ノ呈出ハ即チ婚姻ナリ又離婚ナリ此届書ニ記載サレタル文字ハ即チ意思ノ發表ニシテ何等詐僞ノ記載アルコトナシ詐僞ノ記載トハ或ル動カス可カラサル既成ノ事實ヲ詐ルコト云フモノナルコトハ論ナキ所ナルニ右届書ハ當事者カ任意ニ署名捺印シ其内容ヲ了知シタル上役場ヘ呈出シタルモノナルカ故ニ毫末モ該届書ニ既成事實ヲ詐リタルノ廉ナシ内容ニ詐リナキ届書ニ基キ之カ登録ヲ爲スヲ以テ偽造ト爲スヲ得サルナリ若シ夫レ本件ノ場合ニ於テ届書自身既ニ偽造若クハ變造ナ

婚姻及離婚ニ關スル詐僞ノ届出○身分登記ニ關スル戸籍吏ノ職責○戸籍吏ノ公文書偽造



ルニ於テハ或ハ公文書偽造罪ノ成立アラランモ届書ニ此違法アラサルニ於テハ決シテ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ニ於テ之ヲ有罪トシタルハ所謂法律ヲ不當ニ適用シタルモノトスト云フニ在リ○依テ按スルニ婚姻ノ成立セシニハ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ノ合致アルコトヲ要ス故ニ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思合致ノ事實ナキニ於テハ假令婚姻届ヲ爲スコトニ合意シ進テ其手續ヲ實行シタリトスルモ婚姻ノ效果ヲ生スルモノニアラサルコト辯ヲ俟タス果シテ然ラハ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ノ合致ナキニ拘ハラヌ戸籍吏ニ婚姻ノ届出ヲ爲スハ畢竟不實ノ事項ヲ之ニ告白スルモノニシテ即チ詐偽ノ届出ノ行爲ナリト云フヘキヤ明カナリトス又離婚ナルモノハ既ニ成立シタル婚姻ノ存スルアリテ始メテ生シ得ヘキ事項ナレハ當事者間ニ既ニ成立シタル婚姻ノ事實ナクシテ離婚ノ生シ得ヘキ理由ナク從テ婚姻ナル前提事實ナキニ於テハ假令離婚届ヲ爲スニ合意シ且ツ其届出ヲ實行シタリトスルモ離婚ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス在レハ既ニ成立シタル婚姻ノ事實ナクシテ而カモ戸籍吏ニ離婚ノ届出ヲ爲スハ是レ亦不實ノ事項ヲ之ニ告白スルモノニ係リ即チ詐偽ノ届出タルヲ失ハサルモノト云フヘキハ勿論ニシテ要スルニ以上説明セラル婚姻又ハ離婚ニ關スル不實ノ届出ハ即チ戸籍法第二百五十五條ニ該當スル行爲ナレハ同條ノ處罰規定ニ依テ支配セラルヘキモノナルコト一點ノ疑ヲ容レサルノミナラヌ右等詐偽ノ届出ニ贊同加功シタル共犯人カ其届出ノ趣旨ニ基キ身分登記簿及ヒ戸籍簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲スニ於テハ其所爲公文書偽造ノ罪ヲ構成スルコト多言ヲ要セスシテ明ナリトス今原判決ヲ見ルニ本件事實ノ要點ハ前相被告伊藤彰カ伊藤彌左衛門ノ實子つるのト結婚シ伊藤家ヲ相續シタル身分ナルニ其實家水谷

家ニ復籍シテ其亡兄タル水谷小三郎ノ相續人タラント計畫シ而シテ其計畫ニ際シ右彰並ニ被告又吉其他前相被告服部正夫諏訪茂左衛門等共謀ノ上又吉ニ於テ自己ノ親族ナル寡婦寺倉てゐるニ彰ヲ二三日間寺倉家へ入籍シ置ク可キ旨ヲ説キてゐるノ承諾ヲ得タルヨリ被告等ハ當事者雙方方共ニ眞實入夫婚姻ヲ爲シ並ニ離婚ヲ爲ス意思ナキ明治三十八年十二月二十二日附伊藤彰寺倉てゐる連名ノ入夫婚姻届及同月二十三日附離婚届各二通ヲ作成してゐるヲシテ此等書面ニ記名捺印セシメ前記正夫茂左衛門ハ證人トシテ之ニ署名押印シ當時被告又吉カ高須町戸籍吏タリシ故ヲ以テ右虚偽ノ届出ニ基キ身分登記簿及ヒ戸籍簿ニ各不實ノ記入ヲ爲シ且ツ婚姻届出ノ日ト離婚届出ノ日ト同日ナル不體裁ヲ避クル爲メ故ラニ婚姻届出ノ日ヲ遡ラシムルコトヲ決議シ置キ同日、十二月二十三日）彰ハ右四通ノ届書ヲ高須町戸籍役場ニ提出シ以テ彰ト共ニ彰カ右水谷家ノ相續ヲ爲スノ利ヲ圖ル爲メ虚偽ノ届出ヲ爲シ又吉ハ高須町助役ニ婚姻届ノ受付ヲ二十二日ニ爲スヘキコトヲ命シ助役ハ之ニ從ヒ書記ヲシテ身分登記簿及ヒ戸籍簿中寺倉家ノ戸籍ハ明治三十八年十二月二十二日附ヲ以テ右婚姻届同月二十三日附ヲ以テ右婚姻届ヲ各登記セシメ其部分ヲ偽造シテ之ヲ行使シタルモノナリト云フニ在リテ即チ原判決ニ認定セル本件ノ事實關係ハ恰モ前段ニ説示セシ場合ト全ク同一ニシテ從テ被告等ノ所爲ハ戸籍法第二百五十五條ノ所謂詐偽ノ届出ヲ爲シ尋テ身分登記簿及ヒ戸籍簿ヲ偽造行使シタルモノニ該當スルヲ以テ原院カ右等ノ所爲ニ擬スルニ戸籍法違反又ハ公文書偽造行使ノ罪ヲ以テシタルハ相當ニシテ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

同辯護人花井卓藏原田亮上告趣意擴張書第一點ハ戸籍吏カ身分登記ヲ爲スニ當リテハ常ニ必ス當

婚姻及離婚ニ關スル詐偽ノ届出○身分登記ニ關スル戸籍吏ノ職責○戸籍吏ノ公文書偽造



事者ノ登記申請ニ基キテ之ヲ爲スヲ要シ苟モ其申請カ形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ當然登記手續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ假令其申請ノ實體的内容カ眞ノ事實ニ反スルコトヲ知リテ之ヲ登記スルモ何等刑法上ノ責任ヲ負フヘキモノニアラサルハ御院判例ノ認容セラル、所ニシテ共謀ノ場合亦同一ナリ蓋唯タ豫メ其眞ノ事實ヲ認識セルト否トノ差アルノミニシテ法理上毫モ相異ナルコトアラサレハナリ而シテ本件ニ付原判決ノ認定セル事實ニヨレハ被告人カ伊藤彰ノ提出セル入夫婚姻並離婚ノ届出ニ據リ其登記ヲ爲シタリト云フニアリ從テ戸籍吏トシテ法律上ノ職務ヲ執行シタルモノニシテ決シテ違法行使ト云フコトヲ得ス然ルニ原判決カ其申請ノ内容カ眞ノ事實ニ反スルコトヲ知レリトノ理由ニ依リ刑法第二百三條第二百五條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ○依テ按スルニ戸籍吏カ身分登記ヲ爲スニ當リ其登記申請カ形式上ノ要件ヲ具フルニ於テハ常ニ必ス登記手續ヲ爲スコトヲ要シ其申請事項カ實體上ノ要件ヲ具備セザルモノナルコトヲ理由トシテ登記ヲ拒ムヘキモノニアラス從テ右ノ場合ニ戸籍吏ニ於テ其登記シタル事項カ實體事實ニ適合セザルモ之レカ爲メ刑事上ノ制裁ヲ受クルコトナカルヘキコトハ所論ノ如ク本院判例ノ認ムル所ナリト雖モ戸籍吏自身カ豫メ處僞ノ身分登記ヲ爲サントスル他人ノ計畫ニ贊同シテ其實行ヲ擔當シ處僞ノ登記ヲ爲スカ如キハ其職務ノ執行ニアラスシテ即チ公文書僞造ノ犯罪行爲ナリトノ趣旨モ亦本院判例ノ既ニ是認スル所ナリ而シテ原判決ニ依レハ本件ハ被告カ伊藤彰等ト共謀シテ詐僞ノ婚姻届並ニ離婚届ヲ爲シ尋テ右詐僞ノ届出ニ基キ身分登記簿及戸籍簿ニ其登記ヲ爲シタル事實ナレハ原判決ニ於テ右處僞ノ登記ヲ爲シタル被告ノ所爲ニ對シ刑法第

二百三條第二百五條等ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ノ不法アルコトナシ

◎私印私書僞造行使詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第八三三號  
明治三十九年九月二十八日判決 (棄却)

判決要旨

一、白紙委任狀ハ明カニ委任事項ノ記載ナキモ或ル權限ヲ付與スルノ意思ヲ表示セル一種ノ文書ニ外ナラサレハ刑法ニ所謂權利義務ニ關スル證書ナリ之ヲ僞造行使スル所爲ハ文書僞造行使罪ヲ構成ス

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 松浦與一七

辯護人

川島喜太郎  
天野敬一郎  
高木益太郎

右私印書僞造行使詐欺取財事件ニ付明治三十九年七月十三日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告小林與市辯護人森澤上告趣旨書第三ハ原院判決ハ擬律ノ錯誤アリ文書僞造罪ハ其ノ構成要素トシテ文書ノ内容ヲ明認シ得可キ場合ナラサルヘカラス然ルニ判決ヲ所謂ル委任狀ト趣シ若クハ

白紙委任狀ノ僞造



承諾證書ト題スルモノハ日附及目的物件名ヲ自由ニ記入シ得ヘキモノナルヘケレモ開ハ斯ノ如キ  
内容ヲ記入シテ初メテ文書ノ效用ヲ爲スモノニシテ其未タ是等文字ノ記入前ニ在テハ一遍ノ白紙  
ト何ソ擇フ所ナシト同時ニ實害ノ現出ナキヲ以テ文書偽造罪ヲ構成ス可キ謂レナシ故ニ本案公訴  
第一乃至第三ノ事實トシテ認示シタル委任狀承諾證書ハ偽造ニ係ルモノトシテ實害ノ生シ得可キ  
文字ノ記入前ナルヲ彼レカ如キヲ以テスルニモ拘ハラヌ原院ノ判決ハ尙ホ文書偽造ノ罪アリト認  
メタルハ元來罪トナラサルモノヲ罪トシタル違法ノ判決ナリト云フニ在レモ○本件ノ如キ白紙委  
任狀ハ明カニ委任事項ノ記載ナキモ主タル文書ノ處分ヲ目的トシタル範圍内ニ於テ或ル權限ヲ付  
與スルノ意思ヲ表示スルニ足ルモノナル以上ハ一種ノ文書ニシテ刑法ニ所謂權利義務ニ關スル證  
書ナルヲ本院カ明治三十六年(レ)第一四二八號私印私書偽造行使詐欺財事件ニ付キ己ニ判示シ  
タルカ如シ而シテ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件委任狀ト題スル文書ハ何レモ日附及ヒ委任事項  
ノ記載ナキモ隨時自由ニ之ヲ記載シ得ヘキ文書ニシテ大江龜次郎及ヒ名倉謙藏ノ記名捺印アリ且  
ツ鐘淵紡績株九州鐵道株ニ添附セラレタルモノナレハ同人等ニ於テ右株券ヲ處分スルニ必要ナル  
行爲ヲ爲スヘキ權限ヲ付與シ之ヲ受取リタル者ヲシテ隨時自由ニ其權限ニ關スル事項及ヒ日附等  
ヲ記載スルヲ許スノ意思ヲ表示セルヲ顯ハシタル文書ナルヲ以テ右文書ヲ偽造行使シタル被  
告等ノ所爲カ實害ヲ生スルハ勿論文書偽造罪ヲ構成スルコトハ固ヨリ論ナシ右說明ノ如ク白紙委  
任狀ノ偽造行使ニシテ文書偽造罪ヲ構成スル以上ハ本件承諾書ト題スル文書モ原判決ノ認ムル所  
ニ依レハ承諾書ト題シ所有株券ヲ擔保トシ他人ニ交付スルコト及ヒ債主其他ノ名義ニ書換フルコ

トヲ承諾スル旨ヲ記載シ大江龜次郎名倉謙藏ノ記名捺印アリ且ツ前記株券ニ添附セラレタルモノ  
ナレハ同人等ニ於テ右承諾ヲ爲シ之ヲ受取リタル者ヲシテ隨時自由ニ日附及ヒ目的物件名ヲ記入  
スルコトヲ許スノ意思ヲ表示セルコトヲ顯ハシタル文書ナルヲ以テ右文書ヲ偽造行使セル被告等  
ノ所爲モ亦實害ヲ生スル勿論文書偽造罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

詐欺取財並附帶私訴事件

明治三十九年(レ)第九六一號(一部兼却)  
明治三十九年十月二十三日宣告(一部兼却)

判決要旨

一、大藏大臣ノ委任ニ因ル事務ト雖モ北海道廳長官府縣知事ニ  
於テ之ヲ處理スル以上ハ其ノ所管事務ニ外ナラス從テ其事  
務ニ關スル民事訴訟ニ付テハ長官又ハ知事ハ明治二十四年  
勅令第三號第三條ニ依リ國ヲ代表スルノ權限ヲ有ス

(參照) 各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治二十四年勅令第三號第一條)  
前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス(明治二十四年勅令第三  
號第三條)

第一審 福島地方裁判所若松支部

第二審 宮城控訴院

公訴上告人 長尾半之助  
私訴被上告人 外一名

辯護人 新妻胤嘉  
高木益太郎

訴訟ニ付國ノ代表者



國ノ指定代表者

私訴上告人 渡部 茂

右被告半之助セイニ對スル詐欺取財事件並ニ附帶私訴事件ニ付明治三十九年八月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告半之助セイ辯護人新妻胤嘉ハ公訴判決ニ對シ民事原告人渡邊茂ハ私訴判決ニ對シ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

民事原告人私訴判決ニ對スル上告趣意書ハ原審判決ノ要旨トスル所ハ福島縣知事カ騙取セラレタル物ハ現金仕拂通知書ニシテ現金其物ニ非レハ唯タ被告等ニ數次交付シタル仕拂通知書ノ返還ヲ求ムル訴訟ヲ提起スルハ格別國家ヲ代表シテ被告等ニ對シテ直チニ現金返還ノ請求ヲナスノ權利ナキモノトス元來年金恩給等給與ニ關スル事項ハ大藏省主管事務(大藏省官制第六條第九號)ニシテ福島縣知事ニ於テ仕拂命令權アルハ明治三十年大藏省訓令第二十三號第一條ニヨリ特ニ大藏大臣ヨリ委任セラレタルニ過キササルヲ以テ福島縣知事ハ明治二十四年勅令第三號第二條ニ基キ特ニ大藏大臣ノ指定アルニ非サレハ本事件ニ關シテハ當然國ノ代表者トシテ私訴ヲ提起スルヲ得ス從テ福島縣知事ノ指定ニヨリ代理人ハ國ヲ代表シテ現金請求ノ訴ヲナス能ハスト云フニ在リ福島縣知事カ被告ニヨリテ騙取セラレタル仕拂通知書其物ノ返還ヲ請求シ得ヘキハ勿論被告カ該仕拂通知書ヲ以テ國庫ヨリ受取リタル金圓ノ返還ヲ請求スルノ權利アルハ敢テ疑ナキコト、信ス即チ明治二十四年勅令第三號及其改正ノ規定タル明治二十五年勅令第六號第一條ニハ「各省北海道廳及

府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス」第二條ニハ「各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得」トアリテ各省及普通地方機關(北海道廳府縣廳)ハ其所管又ハ監督スル事務ニツキテハ該勅令第一條ニヨリ民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ權限ヲ有シ其事務ノ法律勅令ニヨルト將又タ特ニ委任サレタルトニ論ナキナリ而シテ地方特別機關(例ヘハ稅務管督局、專賣局、鑛山監督局)ハ該勅令第二條ニヨリ其司掌事務カ其機關固有ノ事務ナルト特ニ委任セラレタル事務ナルトヲ論セス其司掌ノ事務ニ係ル民事訴訟ニツキテ國ヲ代表スルニハ特ニ主管大臣ノ指定ヲ待タサルヘカラス之ヲ要スルニ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル權利ノ有無ニツキ特ニ主管大臣ノ指定ヲ要スルヤ否ヤハ其事務カ其機關固有ノ事務ナリヤ委任事務ナリヤ否ヤニヨリテ決定スルニ非スシテ其機關カ各省又ハ北海道廳及府縣廳(普通地方機關)ナリヤ又ハ特別地方機關ナリヤ否ヤニヨリテ決スヘキナリ之ヲ實例ニ徵スルニ大藏大臣カ該勅令ニ基キ省令ヲ以テ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スヘキ指定ヲ爲シタルハ明治二十五年大藏省令第二號明治二十九年大藏省令第十七號明治三十三年大藏省令第二十五號明治三十五年大藏省令第二十七號等ナルモ造幣局、稅關、鑛山管理局、稅務管理局、專賣局、各專賣支局、稅務監督局若クハ稅務署等所謂特別地方機關ノミニシテ曾テ普通地方機關タル府縣廳又ハ北海道廳ニ對シ指定ヲ爲シタル例ヲ見ス是レ法理ノ當然ノコト、ス乃チ該勅令第一條及第二條ノ規定ノ適用ハ事務ノ性質ニヨリ決スヘキモノニアラスシテ關係機關ノ種類ニヨリテ決スヘキモノナリトノ法意甚タ明瞭ナリトス年金恩給ニ關スル事項ハ大藏省ノ主管事

訴訟ニ付國ノ代表者



務ニ屬ス然レトモ福島縣知事ハ地方官制第六條及明治二十二年勅令第八十九號仕拂命令委任規定ニ基キテ發セラレタル明治三十年大藏省訓令第二十三號第一條及第二條ニヨリテ大藏大臣ヨリ恩賞諸祿ニ關スル仕拂命令權ヲ委任セラレ又其第五條ニヨリテ以上ノ權限ニ本ク仕拂ニ對シ誤拂若クハ過渡ヲ生シタルトキハ府縣知事ハ直チニ該金ノ歲入手續ヲ爲スノ職權ヲ付與セラレタル以上ハ本件ハ府縣知事ノ所管事務ニ屬スルヤ明ナリ而シテ該勅令第一條ニハ單ニ「其所管又ハ監督スル事務」ト規定シアルヲ以テ福島縣知事ハ前段論スル所ノ勅令第二條ニ云フ所ノ特別地方機關タルヘキモノニ非スシテ其第一條ニ該當スヘキモノナレハ原審判決ノ如ク其第二條ニ基キ大藏大臣ノ指定ヲ受ケテ國ノ代表權ヲ取得スルモノト爲スヘカラス即チ第一條ニ基キ年金恩給諸祿ノ仕拂ニ關スル事務ニ係ル民事訴訟ニツキ當然國ヲ代表スルノ權限アルモノトセサルヘカラス從テ福島縣知事ノ指定シタル官吏ハ民事原告人トシテ本件ニツキ國ヲ代表スル權限ヲ有スルモノナリ以上ノ理由ナルヲ以テ原判決ヲ破毀シ更ニ被告等ハ連帶シテ民事原告人ニ金二百五十八圓二十五錢ヲ返還スヘシ私訴費用ハ第一審第二審第三審ヲ通シテ被告等ノ連帶負擔トストノ判決アリタシト云フニ在リ○因テ按スルニ年金恩給ニ關スル事務ハ大藏省官制第六條第九號ニ依リ本來大藏大臣ノ主管事務ニ屬スルモ地方官官制第六條明治二十二年勅令第八十九號仕拂命令委任規定第一條及明治三十年大藏省訓令第二十三號第一條ニ依リ大藏大臣ハ恩賞諸祿ノ豫算內ニ於テ其仕拂フヘキ概算額ヲ定メ北海道廳長官府縣知事ニ仕拂委任ノ命令ヲ爲スモノナレハ北海道廳長官府縣知事ハ其仕拂ニ付テハ仕拂命令ヲ發スルノ職權權限アルハ勿論其委任範圍內ニ於テ仕拂ニ關スル一切ノ事

務ヲ處理スルノ職權權限ヲ有スルコトハ固ヨリ當然ノコトナルノミナラス北海道廳長官府縣知事ハ明治二十二年勅令第八十九號仕拂命令委任規定第二條ニ依リ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有シ又其仕拂ニ對シ誤拂若クハ過渡ヲ生シタルトキハ明治三十年大藏省訓令第二十三號第五條ニ依リ其年度科目金額及事由ヲ大藏省ニ申報シ該金ハ直チニ歲入ノ手續ヲ爲サルヘカラスルニ依テ見ルモ北海道廳長官府縣知事カ其仕拂事務ニ付總テ責任ヲ負ヒ誤拂過渡トナリタル金額返納ノ事ニ至ルマテ之ヲ處理スルノ職責アルコトハ毫モ疑ヲ容ルヘカラス而シテ大藏大臣ノ委任ニ因ル事務ト雖モ北海道廳長官府縣知事ノ處理スルモノナル以上ハ法律命令ニ因ル事務ト同様其所管ニ屬スルコトハ論ヲ俟タサルヲ以テ其事務ニ關スル民事訴訟ニ付テハ北海道廳長官府縣知事ハ明治二十四年勅令第三號第三條(明治二十五年勅令第六號ヲ以テ本條改正)ニ依リ國ヲ代表スルノ權限ヲ有スルモノニシテ大藏大臣ノ指定ニ因ルニアラサレハ國ヲ代表スルノ資格ナキモノニアラス、而シテ原院公判始末書ニ於ケル民事原告人ノ申立並ニ私訴狀ノ記載ニ徴シテ明カナル如ク民事原告人ハ福島縣知事カ被告等ノ爲メ寡婦扶助料合計二百五十八圓二十五錢ニ對スル支拂通知書ヲ騙取セラレタルニ依リ其損害賠償トシテ本訴請求ニ及ヒタルモノニシテ金庫ノ事務ニ關シ支拂金額ノ取戻ヲ請求スルモノニアラサレハ本訴請求ハ福島縣知事ノ所管事務ニ關スル民事訴訟ニシテ同知事カ前記勅令第三條ニ依リ國ヲ代表スルノ權限アルコトハ論ヲ俟タサルヲ以テ其指定ニ因ル民事原告人カ本訴請求ニ及ヒタルハ適法ニシテ間然スヘキ所ナシ然ルニ原院カ之ヲ不當トシテ棄却シタルハ即チ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ破毀ノ原由アリトス而シテ原判決ノ確定

訴訟ニ付キ國ノ代表者



シタル事實ニ依レハ被告等ハ共謀シテ亡佐々木イナカ尙生存スルモノ、如ク裝ヒ福島縣知事ヲ欺  
罔シイナ名等ノ寡婦扶助料合計二百五十八圓二十五錢ニ對スル支拂通知書ヲ騙取シ之レニ基キ同  
額ノ現金ヲ國庫ヨリ受領シタルモノニシテ故意ヲ以テ同知事ノ權利ヲ侵害シタルモノナレハ其損  
害ノ賠償トシテ被告等ハ相連帶シテ本訴請求金額ヲ民事原告人へ辨濟スルノ義務アルモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ被告兩名ノ上告ハ何レモ之ヲ棄却シ同法第  
二百八十六條ニ依リ原院カ爲シタル私訴判決ノ全部ヲ破毀シ同法第二百八十七條ニ依リ本院ニ於  
テ直チニ判決スルコト左ノ如シ  
被告兩名ハ連帶シテ金二百五十八圓二十五錢ヲ民事原告人へ賠償ス可シ  
私訴裁判費用ハ刑事訴訟法第二百一條第三項民事訴訟法第七十二條第七十八條第八十條ニ依リ總  
テ被告兩名ノ連帶負擔トス

●竊盜及持兇器竊盜事件 明治三十九年(九)第九六三號 (棄却)  
明治三十九年十月二十三日宣告

判決要旨

一、地方裁判所檢事カ刑事訴訟法第四百四十八條第二項ニ依リ被  
告人ヲ訊問スル場合ニハ其調書ヲ作成スヘキ旨ノ規定又ハ  
訊問ヲ爲シタルコトヲ記載セル書類ノ存在ヲ要スヘキ旨ノ

規定ナケレハ縱令記録中ニ其事跡ノ徴スヘキモノ存セサル  
モ此一事ヲ以テ直ニ被告人ノ訊問ヲ爲サ、リシモノト斷定  
スルヲ得ス

(參照) 地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事  
ニ送致ス可シ若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲  
ス可シ(刑事訴訟法第四百四十八條)

第一審 大津地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 前田 啓 三

右竊盜及持兇器竊盜被告事件ニ付明治三十九年九月一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法  
トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ノ要旨ハ(一)大津地方裁判所檢事ニ於テ司法警察官ヨリ上告人ノ送致ヲ受ケタル後一  
應ノ訊問ヲモ爲サスシテ直チニ豫審判事ニ送致シタルハ刑事訴訟法第四百四十八條ニ違背シタル不  
法ノ處置ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ大津地方裁判所檢事カ本件ニ付刑事訴訟法第四百四十八  
條第二項ノ規定ニ基キ訊問ヲ爲シタル事跡ヲ徴スヘキモノ記録中ニ存セスト雖モ同訊問ニ付調書  
ヲ作成スヘキ旨若クハ其訊問ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル書類ノ存在ヲ要スヘキ旨ノ規定刑事訴訟  
法中ニ存セサルヲ以テ記録中ニ其事跡ヲ徴スヘキモノナキノ一事ヲ以テ直チニ檢事ハ其訊問ヲ爲

檢事ノ被告入訊問



サ、ハ、リ、シ、者、ト、速、断、ス、ヘ、キ、モ、ノ、ニ、ア、ラ、サ、ル、ハ、ミ、ナ、ラ、ス、假、リ、ニ、其、訊、問、ヲ、爲、サ、リ、シ、モ、ト、ス、ル、モ、該、手、續、違、背、ハ、原、判、決、ヲ、破、毀、ス、ヘ、キ、瑕、瑾、ト、爲、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、本、論、旨、ハ、理、由、ナ、シ、

冒認事件 明治三十九年(九)第九五三號 明治三十九年十月十九日宣告 (棄却)

判決要旨

一、控訴裁判所ノ公判始末書ニ被告カ裁判長ノ訊問ニ對シ第一審判決ニ不服ナル點ヲ指摘シテ答辯ヲ爲シタル旨ノ記載アル以上ハ縱令審理ノ起頭ニ於テ被告ヨリ控訴ヲ爲ス旨ノ申立竝ニ控訴旨趣ノ陳述ヲ爲シタル事ノ明記ナキモ之ヲ以テ口頭辯論主義ノ定則ニ違背セルモノト云フヲ得ス

第一審 和歌山地方裁判所田邊支部

第二審 大阪控訴院

被告人 湯垣長次郎

辯護人 高木益太郎

外二名

右冒認事件ニ付明治三十九年八月三十一日大阪控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルヨト左ノ如シ

辯護人高木益太郎第一上告辯明書ハ原院公判始末書ヲ査閱スルニ原審ニ於テハ其審理ノ起頭ニ於テ控訴申立人タル被告等ヨリ控訴ヲ爲ス旨ノ申立竝ニ控訴趣旨ノ陳述ヲ聽クコトナクシテ直チニ事實ノ審理ニ及ヒタル記載アリ右ハ控訴審ノ審理ニ於テ其審理ノ範圍ヲ確定スヘキ最重要ナル手續ニ遺漏アルモノニシテ畢竟口頭辯論主義ノ定則ニ違背シ原判決ハ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在リ○因テ原院公判始末書ヲ査スルニ審理ノ起頭ニ於テ被告等ヨリ控訴ヲ爲ス旨ノ申立竝ニ控訴趣旨ノ陳述ヲ爲シタル旨ノ明記ナシト雖モ裁判長ノ訊問ニ對シ各被告ヨリ第一審判決ニ對シ不服ナル點ヲ指摘シ答辯ヲ爲シタル旨ノ記載アリテ被告等カ第一審判決ニ服セスシテ控訴ヲ爲シ且ツ其控訴ヲ爲シタル趣旨自ラ明カナレハ審理ノ起頭ニ控訴ヲ爲ス旨ノ申立竝ニ控訴趣旨ノ陳述ヲ爲シタル旨ノ明記ナキ一事ヲ以テ口頭辯論主義ノ定則ニ違背シタル不法アリト云フヲ得サルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第二辯明書ハ一、記録第二百五十四丁ト第二百五十五丁トノ綴目ニ該ル契印ヲ熱視スルニ前者一半ノ影跡ハ一分程下方ニ存セリ又同第二百五十五丁ト第二百五十六丁トノ綴目ニ該ル契印ヲ熱視スルニ前者ノ一半ハ一分程下方ニ後者ノ一半ハ一分程上方ニ存シテ相符合セス尙ホ試ミニ第二百五十五丁ヲ除キテ第二百五十四丁ト第二百五十六丁トノ契印ヲ密接スルニ却ツテ相符合スルヲ見ル果シテ然ラハ右調査ハ適法ノ契印ナキ無効ノ書類タルニ歸シ畢竟原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得スト云フニ在リ○因テ訴訟記録ヲ査スルニ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタル證人榎本愛之助ノ訊問調査ノ契印ニ所論ノ如ク其一半ハ下リ他ノ一半ハ上リタル箇所ナ

控訴審理ノ方法



キニアラスト雖モ右ハ書類ノ綴直シノ際紙葉ノ不揃ヨリ生シタル狂ヒニ過キスシテ其契印ハ孰レモ能ク相符合シ後日紙葉ヲ脱差シタルモノトハ認メ難ク結局右訊問調書ニハ適法ノ契印アルヲ以テ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラス

●詐欺取財事件

明治三十九年(レ)第九八八號  
明治三十九年十月二十五日宣告

(棄却)

判決要旨

一、第一審裁判所カ甲乙二名ノ共同被告ニ對シ甲者闕席ノ儘有罪ノ判決ヲ下シ同時ニ押收品ヲ還付スルノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ乙者上訴セサルトキハ押收品還付ノ裁判ハ同人ニ關シテ確定スルモノトス從テ爾後甲者ニ對スル第一審ノ對席判決及ヒ第二審判決ニ於テハ更ニ還付ノ裁判ヲ掲クルノ要ナシ

第一審

長崎地方裁判所

第二審

長崎控訴院

被告人 有川 粟五郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十九年九月十九日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被

告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ノ第一點ハ本件犯罪ニ依ル押收品アルコトハ本件ノ記録ニ依リ明瞭ナルニ第一審裁判所ニ於テハ其判決中押收品ハ沒收スルトモ亦タ何某ニ還付スルトモ言渡サレタルヲナシ凡ソ犯罪ニ依ル押收品ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收ノ言渡ヲ爲スカ又ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ還付ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス然ルニ第一審裁判所ハ之カ言渡ヲ爲サス第二審裁判所ハ第一審ノ裁判ヲ認容シ本控訴ヲ棄却スルニ當リテモ押收品ニ係ル言渡ヲ爲サルハ共ニ法律ノ適用ヲ欠キタル不法ノ裁判タルヲ免カレサルナリト云フニ在レトモ○本件ハ上告人米五郎及ヒ伊崎熊市ヲ共同被告トセル公訴ニシテ第一審判決ハ米五郎闕席ノ儘熊市米五郎ニ對シ有罪ノ判決ヲ下シ同時ニ押收品ヲ還付スルノ言渡ヲ爲シタルモノニシテ熊市ハ上訴セザリシカ故ニ上告人米五郎ニ對スル本件第一審ノ對席判決及ヒ第二審判決ヲ爲ス當時ニ方テハ押收品還付ノ裁判ハ熊市ニ關シテ既ニ確定シタルカ故ニ上告人米五郎ニ對スル判決中ニ右還付ノ裁判ヲ掲クルノ要ナキモノナルカ故ニ本件上告人ニ對スル第一審判決及ヒ第二審判決中ニ右裁判ヲ掲ケザリシヲ以テ違法ナリトスルヲ得ス

●恐喝取財事件

明治三十九年(レ)第九七一號  
明治三十九年十月二十六日宣告

(棄却)

判決要旨

一、地方裁判所長カ裁判所構成法第二十五條ノ規定ニ依リ豫備判事ニ對シ同裁判所判事ノ代理ヲ命シタル場合ニ於テハ其

豫備判事ノ代理資格ノ證明



豫備判事ノ代理資格ハ該命令ニ依リテ證明セラレタルモ  
ナレハ其ノ事件ノ判決ヲ爲スニ當リ更ニ之ヲ判決書ニ明示  
スルノ要ナシ

(參照) 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ  
其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區域裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得(裁  
判所構成法第二十五條)

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 葛西幸三郎 辯護人 高木益太郎

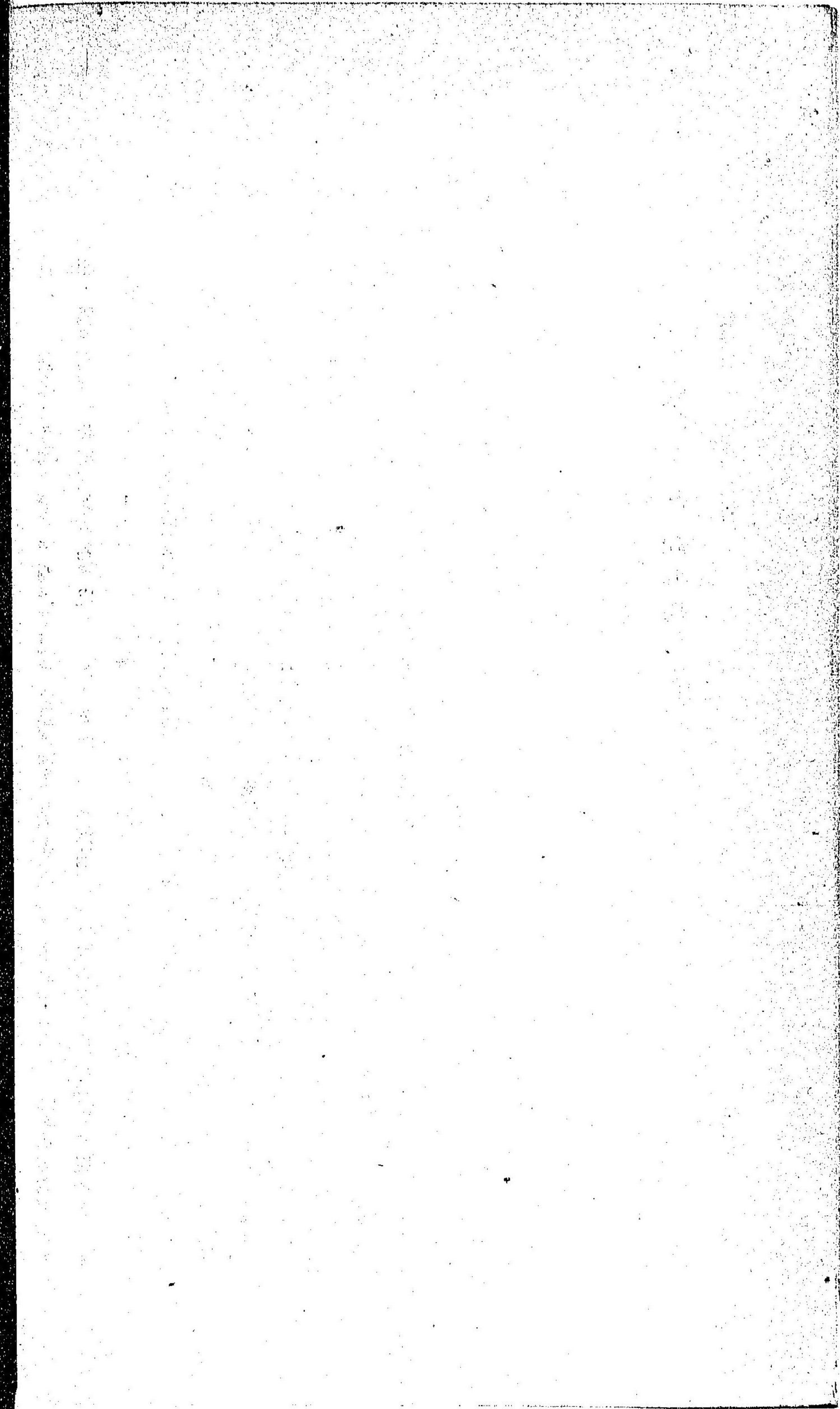
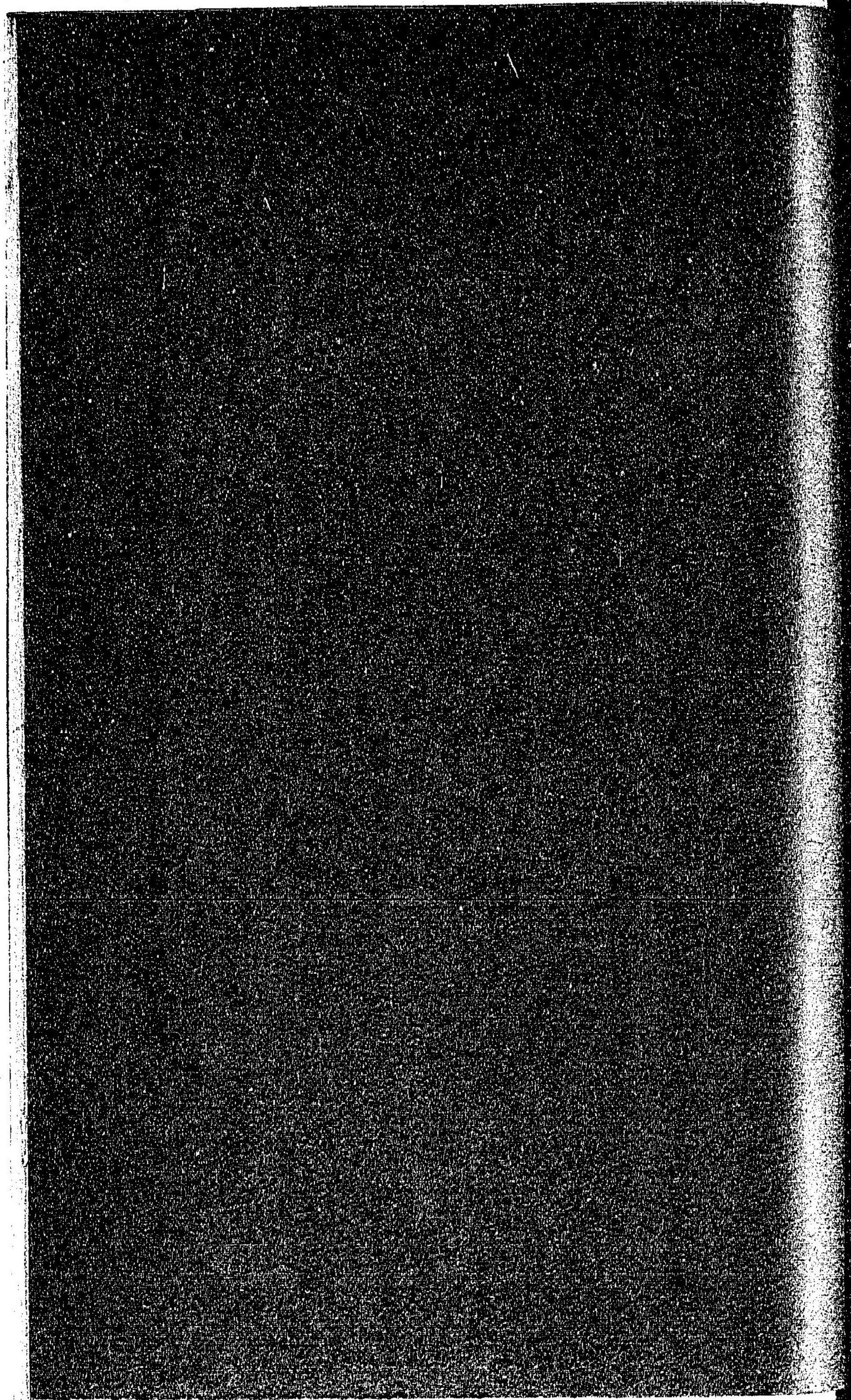
右恐喝取財被告事件ニ付明治三十九年八月二十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ  
被告三名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告亮三辯護人森澤上告趣意擴張辯明書ノ第一點ハ凡ソ地方裁判所ハ三人ノ判事ヲ以テ構成ス可  
キモノニシテ其判事中豫備判事ヲ加フルコトヲ許サ、ルハ論ナシ若シ其レ判事ノ一人差支アルト  
キハ初テ豫備判事ヲ以テ之レカ代理ヲナシムルヲ得可キハ裁判所構成法第二十五條ノ認ムルト  
コロノモノタリ然レトモ其ノ時ハ豫備判事ニシテ本判事ノ代理タル資格ヲ明カニセサル可カラサ  
ルハ是レ亦論ナキノミ故ニ合議判事ノ一人カ本判事ノ代理ニアラスシテ單一ニ豫備判事ノモノ  
アリトセハ適法ナル構成ニ係ルモノト云フヲ得サルハ觀易キ理由ナリト信セリ然ルニ原院ニ於テ

認メタル判決ヨリ溯テ第一審判決ヲ見ルニ京都地方裁判所判事ノ構成中ニハ一人ノ豫備判事アリ  
即チ豫備判事齊藤常三郎ノ名ヲ以テシタリキ而シテ其豫備判事ハ本判事ノ代理資格ヲ以テ之レカ  
構成ニ係レルモノタルヲ認ム可キ形跡アルヲナシ然ラハ一審判決ハ不適法ノ下ニ於テ相行ハレ  
タルモノニヨリ宜シク棄廢ス可キハ當然ノ措置ナルニモ拘ハラス原院判決ハ之ヲ默過シ究竟一審  
判決ヲ認可シ控訴棄却シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ地方裁判所ノ判事差支ノ  
爲メ或事件ヲ取扱フコトヲ得サルニ因リ裁判所構成法第二十五條ノ規定ニ依リ地方裁判所長カ豫  
備判事ニ其代理ヲ命シタル場合ニ於テハ同豫備判事カ地方裁判所判事ノ代理タル資格ハ其命令ニ  
依リ證明セラレタルモノナレハ或事件ノ判決ヲ爲スニ當リ更ニ其判決書ニ之ヲ明示スルヲ要スル  
モノニアラス而シテ本論旨ハ本件第一審判決ニ干與シタル豫備判事齊藤常三郎カ裁判所構成法第  
二十五條ノ規定ニ依リ本件第一審裁判所タル京都地方裁判所判事ノ代理ヲ命セラレタル事實ナキ  
コトヲ主張スルニアラスシテ單一審判決書ニ代理資格ヲ明示セサルヲ不法トスルモノニ過キ  
サレハ本論旨ハ其ノ理由ナシ

行政判例彙報第十七卷刑事判例 大尾

豫備判事ノ代理資格ノ證明







行政法規

- 縣會議員失職ニ關スル縣參事會決定取消ノ訴……………一
  - 公判ニ附セラレタル縣會議員ノ失職
  - 町村制第九條ノ所謂公權停止ヲ附加スヘキ輕罪ノ公判ニ附セラレタル者トハ如何
- 營業稅賦課取消請求ノ訴……………五
  - 火災ノ爲メ工場及ヒ機械ヲ燒失シ營業ヲ廢止シタル者ニ對スル營業稅ノ賦課
  - 開散シタル法人ニ對スル營業稅ノ賦課
  - 租稅ノ徵收ト民法トノ關係
- 代書業許可請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯……………三
  - 行政訴訟ノ對手人
  - 行政訴訟ハ處分者裁決者何レヲ對手トスヘキヤ
- 營業稅課稅標準額審查決定ニ對スル取消請求ノ訴……………四
  - 資本、建物、從業者ヲ共通シテ二以上ノ營業ヲナス者ニ對スル課稅標準ノ算定
  - 銀行業ト倉庫業トヲ兼業スル者ニ對スル課稅標準
- 國有森林下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯……………三

- 國有土地森林ノ下戻請申者
  - 土地森林ノ下戻請申權ヲ讓受ケタル者ハ其ノ者ノ名義ヲ以テ之レカ下戻ヲ請申シ及ヒ之ニ關シ行政訴訟ヲ提起スルノ權アルヤ
- 營業稅課稅標準決定處分取消請求ノ訴……………四
  - 營業稅ヲ賦課スヘキ金錢若クハ物品ノ貸附業者トハ如何
- 所得金額通知書取消ノ訴……………三六
  - 所得金額ノ決定
- 旅費日當請求ノ訴……………三三
  - 村長カ書記ノ日當ヲ支拂ハサルトキハ之レニ對シ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキヤ
- 酒造稅不法課稅納稅告知書取消ノ訴……………三三
  - 精酒ノ密造者ニ對スル造石稅ノ賦課
- 山林下戻請求ノ訴……………四一
  - 民有地ノ下戻
  - 豐田秀賴徳川家光カ其ノ名ヲ以テ下附シタル朱印狀ノ效力
- 官有山下戻請求ノ訴……………四四
  - 官有地下戻起訴ノ要件



●境界査定処分取消ノ訴……………四

○大林區署ハ係争地ニ著シキ増歩アルコトヲ發見シタルコトヲ理由トシテ直チニ前境界査定處分ヲ取消スコトヲ得ルヤ

●境界査定處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯……………五〇

○大林區署ニ於テ土地ノ境界査定ヲ終了シタルモ之ヲ隣地所有者ニ通知セサル以上ハ之ニ對シ不服ノ訴行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

●違法課税取消ノ訴……………五一

○課税物件ノ數量ノ査定ニ不服アル者ノ行政訴訟ノ起訴手續

●郡會議員選舉ノ效力ニ關スル訴……………五三

○郡會議員ノ被選舉權

○選舉ノ當日ヨリ一ヶ年以前ニ郡内ノ土地ヲ買得シタル者ハ土地賣渡ニシテカ名前書換ヲ爲シ登録シタルト否トニ不拘郡會議員ノ被選舉權ヲ有スルヤ

●郡會議員得票無効ノ訴……………五五

○町村區長ノ郡會議員ノ被選舉權

○町村制第六十四條ノ規定ニ依ラサル區長ノ郡會議員被選舉權

●所得金額決定ニ對スル不當裁決取消ノ訴……………五七

○所得金額決定ニ對スル行政訴訟

●戸數割賦課不當ノ訴……………五九

○戸數割ノ負擔者

○附屬ニテ人ノ家ニ同居スルモノハ戸數割ヲ負擔ス

●縣會議員失職決定取消ノ訴……………六四

○兵役召集ト選舉權トノ關係

●酒造稅不當賦課取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯……………六六

○稅務署長及ヒ稅務監督局長ノ行政法上ノ地位

●不當裁決取消ノ訴……………六九

○住所ノ意識

○月籍ト住所トノ關係

○納税人カ本籍ト寄留トノ二ヶノ月籍ヲ有スル場合ニ於テ其本籍ニ對スル督促狀ノ送達ヲ遂ケ能ハサルノ故ヲ以テ直チニ公示送達ノ方法ヲ採ルコトヲ得ヘキヤ

●不當免許取消ノ訴……………九二

○北海道漁業取締規則第二十三條ノ旨趣

●不當裁決取消請求ノ訴……………九七

○對縣ヲ施スモ外部ヨリ縣中ノ氏名ヲ透見シ得ヘキ投票ノ効力

●不當裁決取消ノ訴……………一〇〇

○租稅滯納處分ノ爲メ納稅保證物ヲ公賣ニ付スルハ其ノ保證物ノ所有者ハ滯納者ト均シク租稅滯納處分ヲ受ケタル者ナルヤ

○右保證物所有者ハ行政訴訟ヲ以テ其ノ處分ニ異議ヲ申立ルコトヲ得ルヤ

●町會議員選舉效力ニ關スル不服ノ訴……………一〇三

ルノ義務アリヤ……………六二

●漁業免許取消請求ノ訴……………六三

○新規ノ漁業ニ對スル免許處分

●營業稅課稅標準決定取消請求ノ訴……………六七

○船渠築造製造業

○二以上ノ營業ヲ兼業スルモ資本ヲ區分セサル營業者ニ對スル課稅標準ノ算定

●縣稅戶數割賦課取消ノ訴……………七三

○戸數割ノ賦課

○他人ノ家屋ノ一部ヲ借受ケ辨護士事務ヲ開設スルトキハ戸數割ヲ負擔スル義務アリヤ

●縣參事會ノ裁決取消ノ訴……………七五

○現金ニ對スル町村收入役ノ責任

●縣參事會裁決不服ノ訴……………七六

○村金盜難ニ罹ルトキハ收入役之ヲ賠償スルノ義務アルヤ

●酒造稅納稅保證不當課稅取消請求ノ訴……………八二

○納稅義務保證者ノ責任

○保證人ハ稅額ノ爲メ酒造稅ノ一部ヲ隱蔽シタル部分ニ對シ納稅ノ責任ヲ負擔スヘキヤ

●縣參事會裁決取消ノ訴……………八三

○普通水利組合ニ關スル選舉人名簿ニ選舉人ノ氏名遺脱シタルトキハ行政訴訟ヲ以テ之ヲ更正スルコトヲ得ヘキヤ

●不當公賣取消請求ノ訴……………二四九

○不當公賣處分

○濁酒ノ納稅保證物トシテ提供シタル擔保物ニ對シ清酒ノ納稅金ノ爲メニ之ヲ公賣ニ附スルコトヲ得ルヤ

●村會議員選舉ニ關スル不當裁決取消ノ訴……………二五三

○前戶主ノ名義ヲ以テスル納稅

○選舉時間ノ變更

●國有林下戻處分取消請求ノ訴……………二五六

○字代表者ノ訴訟

○訴訟要件ノ補正

●町稅滯納處分取消ノ訴……………二五七

○町村稅ノ期滿免除

○會計法第十九條ノ適用

●違法租稅滯納處分ニ對スル訴……………二六〇

○租稅滯納處分ノ要件

○原籍寄留ニケル居所ヲ有スル者ニ對スル租稅滯納處分

●相續稅課稅價格決定取消ノ訴……………二六三

○稅務署長ノ課稅額決定ニ對スル行政訴訟

●官有荒蕪地使用許可不當ノ訴……………二六五



○官有荒蕪地使用許可ノ處分ニ對スル行政訴訟	二六七
●村會議員選舉效力ニ關スル訴	二六七
○選舉人名簿ノ修正ニ關スル選舉前日ノ期日ハ如何ニ起算スルヤ	
○町村長カ右十日ノ期ヲ越シテ九日ヲ以テ名簿ニ修正ヲ加ヘ之レニ依リテ施行シタル選舉ハ有效ナルカ	
●不當裁決取消ノ訴	二七〇
○他事記入ノ意義	
○被選舉人ノ住所番地ヲ記入シタル投票ハ他事記入ノ投票ニ該當スルヤ	
●縣參事會裁決取消請求ノ訴	二七二
○投票ニ選舉人ノ何人ナルカヲ示サントスル暗號ヲ附記スルハ他事記入ノ投票ニ該當スルヤ	
●六箇所村會議員選舉效力ニ關スル縣參事會ノ裁決取消ノ訴	二七五
○選舉分會ニ用ユル選舉人名簿ハ其ノ本會ニ用ユルト同一ノ手續ヲ以テ調製セサル可カラサルヤ	
○町村長カ選舉ノ前日ニ至リ本會ノ選舉人名簿ヲ贈寫シ之ヲ以テ分會ノ選舉人名簿トナシ投票ヲ受理シタル選舉ハ違法ナルカ	
●命令條件實行ノ訴ニ對スル妨訴抗辯	二七九
○東京市參事會ハ市街鐵道工事ヲ指揮命令スルノ權限アリヤ	
●官林下戻請求ノ訴	二八一
○廢號ヲ受ケタル寺院ハ官林下戻ノ行政訴訟ヲ提起スルノ資格ナキヤ	
●北海道會議員選舉取消ノ訴	二八六
○滯納處分ノ爲ニスル現金ノ差押	
○現金ヲ差押ヘ收稅官吏之ヲ占有シタルハ納稅義務ハ此時ヲ以テ消滅ニ歸スルヤ	
○滯納處分ノ爲ニスル現金ノ差押ト公權停止トノ關係	
●上地山林下戻不當處分取消ノ訴	二八一
○寺院カ其ノ院ノ附屬各切ニ山林ヲ配當シタル事實ハ之ヲ以テ直チニ其ノ山林カ寺院有ナルコトヲ推定スルコトヲ得ルヤ	
●官有荒蕪地使用許可不當ノ訴ノ裁決ニ對スル再審ノ申立	二九三
○行政訴訟ニ付キ再審ヲ申立ルコトヲ得ルヤ	
●國有林下戻請求ノ訴	二九四
○神社ノ訴訟要件	
○神社ノ訴訟ニ氏子總代ノ連署ヲ缺クハ裁判所ハ之ヲ如何ニ處分スヘキヤ	
●町稅戶數割賦課取消請求ノ訴	二九五
○戶數割ノ負擔者	
●營業稅課稅標準違法決定取消ノ訴	二九七
○政府ノ補助金ニ對スル營業稅ノ徵收	
●町稅賦課取消ノ訴	三〇一

○町村ハ女子師範學校敷地ノ補償金ヲ補助スル爲メ該補償金ヲ其ノ住民ニ賦課徵收スルコトヲ得ルヤ	
○町村制第二條ノ所謂公共事務ノ意義	
●官地民有引直ノ訴	三〇四
○行政訴訟ノ要件	
●郡會議員當選效力ニ關スル訴	三〇六
○町村、名譽職ノ辭職ノ効力ハ如何ナル時期ニ發生スルヤ	
○町村ノ區長カ辭職届ヲ提出シテヨリ一ヶ月ノ後ニ郡會議員ニ選舉セラレタルハ其ノ當選ハ有效ナリヤ	
●命令取消ニ關スル訴	三〇〇
○誤謬ニ依ル漁業免許ノ訂正	
○右訂正處分ニ對スル行政訴訟	
●國有山林下戻申請却下處分取消ノ訴	三〇三
○享徳年間及ヒ慶長年間ノ墨付ヲ以テスル土地所有權ノ證明	
●村稅徵收不法處分取消請求ノ訴	三〇六
○國稅徵收法施行細則第十二條ノ適用	
●上地官林及立木下戻申請ニ係ル不當處分取消下戻ノ訴	三二二
○訴訟代理委任狀ノ補正	
○委任狀ヲ補正スル爲メニ定メタル期間ヲ経過シタルトキハ如何ナル處分ヲナスヘキヤ	
●縣會議員失職決定取消請求ノ訴	三三三
○戰時召集ニ基ケ府縣會議員ノ失職	
●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴	三四四
○投票中被選舉人ノ職名ヲ記入シタル投票ノ効力	
●不當處分取消ノ訴	三三六
○知事カ村長ノ職務ヲ管掌セシムル爲メニスル郡書記ノ派遣	
●硫黃鑛採掘特許取消ノ訴	三三七
○鑛業條例第二十一條ノ適用	
○試掘者カ他人ト共同シテナシタル採掘ノ出願	
○鑛業條例施行細則第十五條ノ適用	
●山林下戻請求ノ訴	三三三
○社寺境内ノ立木ノ伐採權	
○立木伐採權ト私有權トノ關係	
●縣稅戶數割賦課取消ノ訴	三三三
○縣稅戶數割ノ主体	
○戶主ノ住スル建物一部ニ店舗ヲ開キ時々之レニ宿泊スル者ハ一月ヲ構ユル者ト云フヲ得ルヤ	
●特別賜金下付發令不當訂正處分取消請求ノ訴	三三五
○受特別賜金者ノ變更處分取消ノ請求	
○行政訴訟ノ豫納金	三三六



司法行政判例彙報第十七卷

法學博士 江 木 衷 編 纂

行政判例

判 決 要 旨

●縣會議員失職ニ關スル縣參事會決定取消ノ訴 明治三十七年第四百十號  
明治三十八年十月十三日宣告 (請求相立)

一、府縣會議員ノ職ニ在ル者カ衆議院選舉法第八十七條ニ違犯  
シ公判ニ付セラレタルトキハ町村制第九條ノ所謂公權停止  
ヲ附加スヘキ輕罪ノ公判ニ付セラレタル者ニ該當スルヲ以  
テ直チニ其ノ職ヲ失フモノトス

公判ニ附セラレタル縣會議員ノ失職

- 行政裁判所ハ其ノ指定シタル期間内ニ豫納金ヲ納附セサルハ其ノ事件ヲ如何ニ處分スヘキヤ
- 銅鐵試掘認可取消ノ訴……………三六
- 行政裁判所ノ判決ニ基ク試掘認可
- 村會議員選舉效力ニ關スル訴……………四〇
- 選舉會ノ閉鎖
- 營業稅課稅取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯……………四二
- 行政訴訟ハ裁決者處分者何レヲ對手トスヘキモノナリヤ

司法行政判例彙報第十六卷索引行政之部 終



衆議員選舉法第八十七條ニ違犯シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラルル者ハ依リ各人ノ有スル公權ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレハ之ヲ停止セラルル若シ處罰ノ刑カ禁錮以下ノ刑即チ罰金ニ係ルトキハ敢テ公權ノ剝奪若シクハ停止ヲ受クルコトアルコトナシ今衆議院選舉法第八十七條ヲ見ルニ裁判官ハ二者擇一ノ權ヲ有シ其ノ所犯情狀ノ如何ニ依リ或ハ禁錮以上ノ刑ニ處シ或ハ單ニ罰金ニ止マルコトヲ得ヘシ如斯二者中ノ一刑ヲ選科スルコトヲ得ヘキ法條ノ本ニ公判ニ附セラレタルモノハ其ノ附セラレタル一事ヲ以テ直チニ公權停止ヲ附加スヘキ(即チ禁錮ヲ賦課)輕罪ノ公判ニ附セラレタル者ト云フヲ得ストノ觀念ハ一應甚タ其ノ當ヲ得タルカ如シト雖モ退テ之ヲ再考シ來ルトキハ其ノ然ラサルヲ知ルコトヲ得ヘシ町制第九條ノ所謂公權停止ヲ附加スヘキ輕罪ノ爲メ公判ニ附セラレタル者トハ禁錮以上ノ刑ニ處斷シ得ヘキ事件ノ爲メ公判ニ附セラレタル者トハ同條ノ精神ニ照ラレ争フ可サル解釋ナルカ故ニ苟モ禁錮以上ノ刑ニ處スルコトヲ得ヘキ事件ノ爲メニ公判ニ附セラレタルモノハ其ノ科刑ニ二者擇一ノ選擇權アルト否トヲ不問常ニ同條ノ範圍ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス是レ本判示ノ存スル所以ナリ

說明

原告 高知縣知事 宗 像 政  
 被告 高知縣參事會 宗 像 政  
 同縣高岡郡北原村 同縣會議員  
 野田 正吉 訴訟代理人 關 直 彦  
 從參加人

右當事者間ニ於ケル縣會議員失職ニ關スル縣參事會決定取消ノ訴審理ヲ遂クル處  
 原告訴求ノ要旨ハ高知縣縣會議員野田正吉カ縣會議員ノ選舉ニ關シ府縣制第四十條及衆議院議員選舉法第八十七條ニ該當スル事件トシテ高知地方裁判所ノ公判ニ付セラレタルヲ以テ原告ハ之ヲ縣會議員ノ職ヲ失ヒタルモノト認メ被告ノ決定ニ付シタルニ被告ハ衆議院議員選舉法第八十七條第一號ニ該當スル罰則ハ禁錮又ハ罰金ノ二様ニ規定セラレアルヲ以テ野田正吉ハ直チニ町制第九條第二項及第十二條第一項但書ニ該當シ縣會議員ノ被選舉權ヲ失フタルモノニ非スト決定シタルモ是レ其當ヲ得サルモノナレハ該決定ヲ取消シ同人ハ縣會議員タル職ヲ失フタルモノナリトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ町制第九條ニ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ公權ヲ失フ旨ノ規定アルモ其公判ニ付セラレタル被告事件ハ必スヤ當然公權剝奪又ハ停止ヲ附加セラルヘキ重罪又ハ輕罪ナラサルヘカラス然ルニ本件ノ場合ハ衆議院議員選舉法第八十七條第一號ニ該當スルモノトシテ公判ニ付セラレタル

公判ニ附セラレタル縣會議員ノ失職



モノニシテ該規定ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナルヲ以テ直チニ公權ノ剝奪若クハ停止ノ附加刑ヲ當然附加スヘキ輕罪ノ公判ニ付セラレタルモノト速斷スヘカラス殊ニ本條ハ選舉法罰則中最モ輕微ナル罪ヲ罰スルカ爲メニ規定セラレタル條文ナレハ其被告事件ノ十中八九ハ概ネ罰金ニ處スルヲ以テ通例トス然ラハ則チ本條ニ依リ公判ニ付セラレタルモノヲ以テ町村制第九條ヲ直チニ適用スルハ當ヲ失シタルモノト云ハサルヘカラス又其區別ヲ一層明カニセンニ同法第八十七條ト同第八十八條トヲ對照センニ同法第八十七條ニハ明カニ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スト記載シ同法第八十八條ニハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加スト記載シ「又ハ」ノ二字ヲ加ヘス故ニ同法第八十八條ニ問ハル、場合ニハ當然公權ノ停止ヲ附加セラレヘキ輕罪ノ公判ニ付セラレタルモノトシテ町村制第九條ニ該當シ公權ヲ失フモノト云フヲ得ヘキモ同法第八十七條ニ依リ公判ニ付セラレタルモノニ對シテハ當然公權ノ停止ヲ附加セラレヘキ公判ニ付セラレタルモノトシテ公民權ヲ失ヘルモノト斷定スルヲ得ス依テ被告カ爲シタル決定ハ相當ナルヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

被告從參加人申立ノ要旨ハ被告ノ答辯ト異ナル所ナシ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ衆議院議員選舉法第八十七條ハ二者擇一ノ刑ニ處セラルヘキ規定ナレハ原告カ該條ニ依リ公判ニ付セラレタルハ直チニ之ヲ公權停止ヲ附加スヘキ輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルモノトモノトス

云フヲ得スト云フモ原告カ該條ニ依リ公判ニ付セラレタルハ原告ノ所謂輕禁錮即チ公權停止ヲ附加スヘキ刑ニ處セラルヘキ罰ヲ包含スル犯罪ニ該當スルモノトシテ公判ニ付セラレタルモノナレハ町村制第九條ニ所謂公權停止ヲ附加ス可キ輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルモノト云ハサルヲ得ス然レハ被告縣參事會ノ決定ハ其當ヲ得タルモノニ非ス隨テ縣會議員野田政吉ハ其職ヲ失フ可キモノトス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

縣參事會ノ決定ハ之ヲ取消シ縣會議員野田正吉ハ其職ヲ失フタルモノトス。訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●營業稅賦課取消請求ノ訴 明治三十七年第九百十九號 明治三十八年十月十二日判決 (請求不立)

判決要旨

一、一旦營業ヲ開始シタル事業カ火災ニ罹リ工場及ヒ機械ヲ燒失シ爲メニ之ヲ再興スル迄營業ヲ廢止シタリトスルモ別ニ廢業ノ意思ヲ明示スルカ又ハ廢業ノ手續ヲナササル以上ハ火災後再興迄ハ罹火ノ爲止ヲ得ス一時休業シタルモノト認メサルヲ得ス從テ營業者ハ右業務廢止中ノ營業稅ノ賦課ヲ

營業休止者ニ對スル營業稅ノ賦課○解散シタル法人ニ對スル營業稅ノ賦課



免カルルコトヲ得ス

一、納稅告知書ヲ發シタル時已ニ法人カ解散セラレタリトスル  
モ其ノ開散前納稅義務ノ確定セル國稅ハ之ヲ徵收スルコト  
ヲ得ヘシ

一、法人カ開散セラレタルトキハ精算人ハ民法第七十九條ニ依  
リ債權ノ申出ヲ告示シ一定ノ期間之ヲ申出サルトキハ之ヲ  
精算中ヨリ除斥スルコトヲ得然レトモ租稅ノ徵收ハ其ノ性  
質債權關係ニアラスシテ國家ノ權力ニ基クモノナレハ斯ル  
民法ノ規定ニ支配セラルヘキモノニアラス

熊本市新屋敷町金九番町  
舊明治製紙會社精算人

原告 告 大 谷 高 寬

熊本稅務監督局長  
被告 水 越 理 庸

訴訟代理人 高 窪 喜 八 郎

熊本稅務監督局事務官  
訴訟代理人 乙 竹 仲 太

石常事者間ニ於ケル營業稅賦課取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ一、原告會社ハ紙類ノ製造販賣ヲ目的トシテ發起シ明治二十九年六月十九日

ヲ以テ設立ノ認許ヲ得爾來諸般ノ手續ヲ經明治二十九年九月二十一日會社ノ登記ヲ受ケ明治三  
十二年十一月中ニ至リ工場ノ設備稍成ルヲ以テ機械ノ運轉ヲ試驗シ及其運轉ヲ圓滑ナラシムル  
ノ目的ヲ以テ製紙ヲ開始セシカトモ固ヨリ試驗的ノ事ナレハ未タ以テ繼續不斷ノ域ニ達セス隨  
テ販賣ノ事業ノ如キハ殆ント見ルヘキナク漸ク本事業ニ移ラントスルニ際シ明治三十二年七月  
九日ノ夜半工場俄然火災ニ罹リ建物及製紙ニ關スル機械器具等全部烏有ニ歸シタルハ地方一般  
ノ公知セル顯著ナル事實ナリトス而シテ之カ爲メ會社唯一ノ目的タル營業即チ製紙事業ハ事實  
上法律上絶對ニ不能ニ歸シタリシカ同年九月九日臨時株主總會ニ於テ工場再興ノ決議ヲナシ之  
ニ基キテ計畫ニ着手シ同三十三年一月ヨリ工事ヲ興シ明治三十四年七月ニ至リ其竣成ヲ告ケタ  
ルヲ以テ漸ク製紙販賣ノ事業ヲ開始シ且營業稅法第十三條ニ從ヒ課稅標準届ヲ爲シタル者ナリ  
故ニ原告會社ハ營業稅法第二十一條第一項ニ依リ明治三十五年度ヨリ三ヶ年間ハ納稅義務ヲ免  
除セラレヘキ法律上ノ原因ヲ有セリ然ルニ八代稅務署カ免除期間ニ係ル明治三十五年及三十六  
年分ノ營業稅ヲ賦課スヘク命令シ熊本稅務監督局カ此理由ヲ以テセル訴願ヲ排斥シタルハ違法  
ナリ元來營業稅法上課稅物件タルヘキモノハ法人即チ會社自體ニ非スシテ會社ノ經營スル營利  
的の事業其物ニ存スルコト論ヲ俟タス而シテ會社カ事務着手ノ際祝融ノ變災ノ爲メニ工場及機械  
器具ヲ併セテ全然烏有ニ歸シ事實上法律上製紙事業ノ不能トナリ明治三十四年度ニ至テ始メテ  
開業ヲ爲シタル事實亦爭フ可ラサルモノナレハ稅法第二十一條ニヨリ其翌年ヨリ三ヶ年間ハ課  
稅ヲ免除セラル可キハ當然ナリトス何トナレハ休業ナルモノハ事業經營ノ能力ヲ有シナカラ其

營業休止者ニ對スル營業稅ノ賦課○開散シタル法人ニ對スル營業稅ノ賦課



自由ニヨリ一時事業ヲ休止スルノ謂ニシテ本案ノ如ク物理上法律上ノ不能ト同一視スヘキモノ  
 ニ非ス本案會社ノ如キハ明カニ工場ノ再興ヲ決議シ新規工場ヲ建築シ機器ヲ据付ケ新ニ開業ヲ  
 届出タルコト顯然タルニ這般俄然トシテ徵稅ノ命ニ接シタルハ殆ント其何故タルヲ解スルコト  
 能ハサルナリニ、原告會社ハ前述ノ如ク火災ノ爲メニ絶大ノ損害ヲ被リタルノミナラス經濟界  
 ノ變調ノ爲メニ目的事業ノ經營上謂フ可ラサル困難ヲ惹起シタル爲メ明治三十五年一月三十一  
 日株主總會ヲ開キ未拂株金ヲ徵收セス其他ノ現有財産ヲ以テ債務一切ヲ完済スヘキヲ期シ會社  
 處分ノ方案ヲ決議シ爾來該決議ニ基テ準備ヲ講シ明治三十六年六月申其條件ヲ充タスヘキ效果  
 ヲ得タルヲ以テ同七月一日株主總會ニ於テ任意解散ノ決議ヲ爲シ其登記ヲ受ケタルモノナリ爾  
 來清算人ハ右株主總會ノ決議ニ基キ未拂株金ヲ徵スルコトナクシテ其餘ノ現有財産ヲ以テ債務  
 一切ヲ完済シ既ニ清算ヲ終了シ爲ニ法律上ノ手續即チ株主總會ニ對スル報告及登記公告ヲ爲サ  
 ントスルノ際突如トシテ本件納稅通知書ノ送達ニ接シタルモノナリ去レハ之カ爲メ未タ之ヲ果  
 スコト能ハスト雖モ會社ハ解散ニ依テ既ニ死滅シタルモノナレハ實ニ法人ノ遺骸ニ對シテ課稅  
 セラレタル違法ノ處分ナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ一般國民ノ納稅義務ハ稅法ノ實履行力ヲ  
 生スルト同時ニ發生スヘシトハ單ニ學說想像ノ上ニ於テノミ認ムルコトヲ得ヘキ法理ニ止リ一  
 定ノ納稅者カ納稅ノ義務ヲ發生スルハ稅務官カ其稅法ヲ適用シ以テ課程處分ニ着手シタルニ因  
 テ之ヲ見ルコトヲ得ヘキモノナレハナリ詳言スレハ納稅義務ハ稅法ト同時ニ發生スヘシトノ法  
 則ハ成稅法ヲ實行セラレタルトキハ當局稅務官ハ同時ニ其法律ノ規定ニ從ヒ一般國民ニ對シテ

一定ノ租稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得ヘク隨テ一般國民ハ之ニ對シテ其課稅ヲ強要セラル、ノ義  
 務ヲ有ストノ定義ニ外ナラス敢テ特定セル各個人ノ納稅義務ハ稅務官カ其法律ヲ適用スルニ依  
 テ始メテ生スルモノナリトノ法則ト兩立ヲ妨ケサルハ勿論ナリトス然ラハ則チ原告會社カ納稅  
 義務ハ假令前項ノ如キ法律上特別原因ナシト假定スルモ而モ少クモ八代稅務署カ徵稅令書ヲ發  
 スヘキ筋合ナルカ故ニ會社カ尙生存中ナラハ縱シ過年度ニ屬スルモノタリト雖モ亦課稅主體タ  
 ルニ妨ナカルヘシト雖モ而モ本件納稅通知書ヘ何レモ本年三月中旬ニ送達セラレ其當時會社ハ  
 業ニ既ニ解散消滅後正ニ八个月以上ヲ經過シ且事實清算ヲサヘ終了シタルモノナレハ當然納稅  
 義務ノ主體ノ存立ナキナリ何トナレハ法人ハ解散ト同時ニ死滅シ其清算中ハ清算ノ目的ニ於テ  
 ノミ生存ト看做サル、ニ過キサレハナリ隨テ本件處分ハ存立ナキ遺骸ニ對シテ課稅シタル違法  
 ノ處分タルコト勿論ナリト信ス三、清算人ハ民法第七十九條ノ規定ニ從ヒ就職後明治三十六年  
 七月中法定ノ公告及通知ヲ以テ債權者ニ對シ同年九月七日以内ニ債權支拂ノ申出ヲ爲スヘキ旨  
 ノ催告ヲ爲シ爾後法令及解散ノ主旨ニ遵據シ(株金未拂込ヲ除キタル他ノ財産ヲ以テ一切債務  
 ノ支拂)事實既ニ清算事業ヲ終了シタリ然ルニ八代稅務署ハ右催告期間内ニ納稅令書ノ送達又  
 ハ其催告ニ應スルノ申出ヲ爲サス而シテ本年三月及四月ニ至リ突然熊本縣八代郡太田郷村長  
 ヲシテ納稅告知書ノ送達ヲ爲サシメタリ然レトモ前述ノ如ク既ニ清算ヲ終了シ事實納稅ノ餘裕  
 ナキヲ以テ假ニ高歩ヲ讓リ熊本稅務監督局カ與ヘタル裁決ノ如ク明治三十五年ヨリ納稅義務ヲ  
 負ハサルヲ得サルコト、ヌルモ而モ清算人ハ之ヲ清算中ニ加フルコト能ハサルノミナラス法律

營業休止者ニ對スル營業稅ノ賦課○解散メタル法人ニ對スル營業稅ノ賦課



上其義務ヲ有セサルモノナレハ結局本件ノ課税ハ不當ナリト謂ハサルヲ得ス如上ノ事由ナルニ  
八代稅務署カ原告ニ課税シ及ヒ被告カ原告ノ訴願ヲ排斥シタルハ不當ノ甚シキモノナルヲ以テ  
茲ニ本訴ニ及フ依テ被告カ原告舊東肥製紙株式會社清算人ニ對シ明治三十七年六月二十九日ヲ  
以テ與ヘタル訴願人ノ請求相立タストノ裁決ハ之ヲ廢毀シ八代稅務署カ熊本縣八代郡太田村長  
ニ命シ原告舊東肥製紙株式會社清算人ニ對シテ賦課シタル明治三十六年度營業税金八百五十七  
圓八十一錢(明治三十七年三月二十二日附納稅告知書)同上金二百四十二圓九十六錢(明治三十五  
年度ノ營業税金千五百九十九圓十三錢(明治三十七年四月十五日附同告知書)ハ何レモ之ヲ取  
消スヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ營業稅法第二十一條第二項ニ依リ明治三十五年ヨリ三今年間ハ納稅義  
務ヲ免除セラルヘキ法律上ノ原因ヲ有スト謂フモ原告カ明治三十一年下半年期內ニ於テ製紙業ヲ  
開始シタルハ本案事件ニ付被告ニ提出シタル訴願書ニ於テ自認スル事實ナリ而シテ株式會社カ  
目的タル營業ヲ廢業スルトキハ其目的ニ變更ヲ來タスカ故ニ商法第四百一十一條第二項及同第五  
十三條ノ規定ニ從ヒ變更登記ヲ受クヘキモノナルニ乙第一號證及第二號證ノ通原告カ目的ヲ變  
更シタル登記ナキニ徵シ紙類ノ製造ヲ廢業シタルモノニアラサルコト明瞭ナリトス營業稅法第  
二十一條第二項ハ新ニ營業ヲ開始スルモノハ開業ノ翌年ヨリ尙三今年間營業稅ヲ徵收セサルコ  
トヲ規定シタルモノニシテ既ニ開業シタルモノカ工場ノ築建又ハ器械ノ更改アリタルトキ更ニ  
三今年間課稅セサルコトヲ規定シタルモノニアラス從明治三十一年開業シタル原告ニ對シ明治

三十五年ヨリ營業稅ヲ賦課シタルハ毫モ違法ニアラス原告ハ其開散後營業稅ノ納稅告知書ヲ發  
シタルハ違法ナリト云フト雖モ其開散前既ニ納稅義務ノ發生セル國稅ハ清算中納稅告知書ヲ發  
シテ之ヲ徵收スルコトヲ得ヘキハ國稅徵收法ノ規定ニ徵シ疑ナキ所ナリ本件營業稅ハ明治三十  
五年及同三十六年即チ原告開散前納稅義務ノ發生タルモノニシテ相當年度ニ賦課洩レトナリ  
タルカ故ニ適法ノ手續ヲ經テ原告ノ清算中ノ賦課シタルモノナレハ違法ノ點ナシ原告ハ民法  
第七十九條ノ規定ニ從ヒ催告シタルニ其期限內ニ於テ八代稅務署ハ納稅告知書ノ送達又ハ催告  
ニ應スルノ申出ヲ爲スコトナク本年三月及四月ニ至リ所轄村長ヲシテ納稅告知書ノ送達ヲ爲サ  
シセタルハ不當ナリト謂フモ國家ノ徵稅權ハ國稅徵收法ニ從ヒ之ヲ執行スヘキモノニシテ民法  
ニ羈束セラルヘキモノニアラス從テ本件營業稅賦課處分上民法第七十九條ヲ適用セサルハ當然  
ナリトス以上ノ事由ナルニ依リ八代稅務署カ被告存立中ニ係ル營業稅ヲ其清算中ニ賦シ原告ノ  
該處分取消ヲ要求スル訴願ヲ被告カ排斥シタルハ相當ニシテ取消スヘキ理由ナキモノト信ス依  
テ原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ原告會社ハ明治三十一年十一月中製紙機械ノ試運轉ヲ開始シタルモ營業ヲ開始シタルモノ  
ニ非スト云フト雖假ニ目的ハ專ラ機械ノ試運轉ニ在リトスルモ既ニ製紙ヲ開始セシコトハ原告ノ  
自認スル所ナレハ原告ハ前記年月ヲ以テ製紙營業ヲ開始シタルモノト言ハサルヘカラス又原告ハ  
機械試運轉ヲ以テ假ニ營業ト看做スモ明治三十二年七月火災ノ爲メ製紙事業ハ絶對ニ不能ニ歸シ

營業休止者ニ對スル營業稅ノ賦課○開散シタル法人ニ對スル營業稅ノ賦課



明治三十四年七月工場再築落成後ノ事業開始迄ハ營業ヲ廢止シタルモノナリト云フモ廢業ノ意思廢業ノ手續等ニ關シ何等ノ視ルヘキ形跡ナキヲ以テ見レハ火災後營業再興迄ノ期間ハ火災ノ爲メ止ムヲ得ス一時休業シタルモノト認ムヘクシテ該期間中營業ヲ全ク廢絶シタルモノト認メ難シ又原告ハ民法ノ規定ヲ援用シテ清算人ノ爲シタル催告期間内ニ納稅告知書ヲ送達セザリシハ不當ナリ又原告會社ノ解散後ニ納稅告知書ヲ發シタルハ違法ナリト云フモ公法ニ基ク徵稅權ハ民法ノ規定ニ羈束セラルヘキモノニ非ス又國稅徵收法ノ規定ニ徵スルニ會社ノ解散後ト雖モ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ之ヲ徵收スルヲ得ヘキモノトス之ヲ要スルニ以上説明ノ理由ニ依リ原告カ明治三十四年七月ノ開業ヲ於テ新規開業ト爲シ營業稅法第二十一條第二項ノ規定ニ依リ明治三十五年ヨリ三箇年ハ免稅セラルヘキモノナリトノ原告ノ主張ハ其理由ナキモノト判定ス隨テ八代稅務署ノ賦課處分及ヒ被告ノ裁決ハ正當ニシテ之ヲ取消スヘキ限ニ在ラス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス  
●代書業許可請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十七年第七百二號 明治三十八年十月十一日官告 (抗辯不立)

判決要旨

一 行政訴訟ハ何人ヲ被告トナスヘキヤニ付テハ法律上何等ノ規定ナキニ依リ處分者裁決者何レヲ被告トナスモ違法ニア

ラス

茨城縣行方郡延方村五十七番地ノ一無職業 四本小四郎  
原 告  
茨城縣衛生警察署長 茨城縣警部 安藤三太郎  
被 告

右當事者間ニ於ケル代書業許可請求ノ訴ニ付被告ハ妨訴抗辯ヲ爲セリ依テ之ヲ審理スル處被告抗辯ノ要旨ハ本件代書業不可處分ニ付テハ上級行政官廳タル茨城縣知事ニ訴願ヲ爲シ裁決ヲ經タルモノナレハ縱令其裁決ハ原告ノ不許可處分ヲ是認シタリト雖上級行政廳ハ下級行政廳ヲ羈束スルモノナラフ以テ本件ハ既ニ上級行政廳ノ處分ニ歸シタルモノナレハ被告ハ法律上訴訟當事者タル關係ヲ有セサルヲ以テ本訴ヲ却下セラレタシト云フニ在リ  
原告反駁ノ要旨ハ茨城縣知事ノ裁決ハ下級行政廳ヲ羈束スルハ當然ナルモ其裁決カ權利救済ニ出スシテ却テ被告ノ處分ヲ至當トナシタルニ過キサルモノナレハ之ヲ理由トシ被告ハ本訴ノ對手人タルヲ免カレ得サルモノト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
行政訴訟ノ對手人ト爲スヘキ者ニ付テハ法律上何等ノ規定ナキニ依リ處分者裁決者ノ何レヲ對手人ト爲スモ違法ト謂フヲ得ス從テ被告ハ本訴ニ對シ答辯ヲ爲スノ義務アルモノトス  
依テ判決スル左ノ如シ

行政訴訟ノ對手人



被告ノ妨訴抗辯相立タス此裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●營業稅課稅標準額審查決定ニ對スル取消請求ノ訴

明治三十七年第十千六十三號  
明治三十八年十月十六日宣告 (請求不立)

判、決、要、旨

一、營業ノ種類ヲ異ニスルモ課稅ノ標準トナルヘキ資本金、建物及ヒ從業者ヲ共通使用スルトキハ其ノ一二付テ課稅標準ヲ算定ス

一、銀行業ト倉庫業トヲ兼營セル株式會社力其ノ資本金、建物并ニ從業者ヲ共通使用ゼルトキハ營業稅法第十四條但書ノ規定ニ依リ其ノ一二付キ課稅標準ヲ算定スヘキモノトス

(參照) 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲スルキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一二就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ(營業稅法第十四條)

岡山縣岡山市大字紙屋町  
原告 株式會社山陽商業銀行

同銀行取締役  
右法定代理人 品山 省三  
被告 神戶稅務監督局長 加 一 誠

稅務監督局長  
訴訟代理人 石原市三郎

右當事者間ニ於ケル營業稅課稅標準額審查決定ニ對スル取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ第一、原告會社ハ單ニ山陽商業銀行ト稱シ其銀行部ト倉庫部トヲ區別スル爲メ特殊ノ名稱ヲ用キス故ニ上石井出張店ノ頭ニ山陽商業銀行ノ文字ヲ冠スルモ事實ハ倉庫部ノ營業場ニシテ其建物ハ總テ倉庫ノ所屬ト爲セリ然ルニ銀行部ノ申告書中ニ上石井出張店ヲ附記セシハ倉庫ニ接近スル岡山米取引所營業場内ヘ日々銀行部ノ使用人ヲ派出シ仲買人其他近傍顧客ノ便ニ供シ居ルヲ以テ時ニ或ハ倉庫部内ニ於テモ銀行業務ノ取引ヲ爲スコトナントセス故ニ之ヲ併記セシノミ然レトモ該營業場ハ每期報告書ニ證スル如ク全ク倉庫部ノ所屬タリ又倉庫業ノ申告書中ニ上石井出張店ニテ取扱フト記載セシハ前陳ノ如ク原告會社ハ特別ニ倉庫部ヲ表示スヘキ名稱ヲ用キサルヲ以テ上石井出張店ナルモノ即チ倉庫部ノ營業場ナルコトヲ明示セシニ外ナラス資本經濟ヲ共通スルニ非サレハ一方ノ營業場ニ於テ他ノ一方ノ取引ヲ爲シ能ハサルノ理由ハナカルヘシ第二原告會社ノ損益計算ハ被告言フ所ノ如シ然レトモ是レ銀行部及倉庫部ニ於テ各別ニ決算ヲ遂ケタル後ニ爲ス株主勘定ノ場合ニ限ルモノナリ蓋シ同一會社ニシテ同一株主ニ對スル勘定ナレハ結局ノ損益計算ハ故ラニ之ヲ分割スルノ必要ナケレハナリ然ルニ此株主勘定ヲ同一ニ爲シタル一點ヲ以テ直ニ資本金ヲ共通ナリト認ムルハ甚ダ曲解ト云ハサル可ラス

數種ノ營業ニ對スル課稅標準ノ算定



第三、三十六年營業報告書ニ掲ケタル倉庫部ノ貸賃價格中建物ハ倉庫部ニ屬シタルモ土地ハ銀行部ノ所有ニ存シタルコトハ被告言フ所ノ如シ然レトモ元來倉庫部ノ資本金ハ之ヲ十萬圓ト定メタルモ創立當時ノ拂込株金ハ倉庫部ニ屬スルモノ僅々二萬圓ニシテ到底土地建物ノ全部ヲ一時ニ購入スル能ハサルニ付先ツ建物ノミヲ購入シ土地ハ暫ク銀行部ヨリ貸與ヲ受ケテ營業シ漸次資本金ヲ増加シテ之ヲ購入スルノ方針ヲ取レリ而シテ三十六年中ハ尙借地ナリシ爲ニ建物ノミ貸賃價格ヲ掲ケタルモ三十七年三月ヲ以テ倉庫部ノ資本金二萬圓ノ拂込ヲ決行シ同時ニ從來ノ借地ハ直チニ倉庫部ノ所屬ニ移シ其目的ヲ實行シタルヲ以テ三十七年上半年ヨリハ土地建物共純然タル倉庫部ノ所屬トナレリ故ニ三十六年以前ハ土地建物ノ所屬ヲ異ニセシモ是レ共通ニ非スシテ土地ニ付テハ貸借ノ關係存セシモノナリ即銀行部ノ土地ヲ以テ倉庫部ヘ無償貸付ヲ爲シタルモノニシテ決シテ營業用ノ土地ヲ共用シタルモノニアラス第四、被告ハ全ク倉庫營業ノ真相ヲ知ラサルヨリ誤解ヲ來セリ倉庫營業ハ貨物ノ藏入アリタルトキハ直チニ貨主ニ對シ預證券及質入證券ヲ發行シテ保管料ヲ徴スルノミ而シテ貨主カ其藏入貨物ヲ擔保トシテ融通ヲ求ムルトキハ銀行營業者其他個人ハ直接貨物ニ對シ貸付ヲ爲スモノニアラスシテ倉庫營業者カ發行シタル預證券ニ對シテ貸付ヲ爲シ質權ヲ設定スルモノナレハ質權者タル銀行カ保管料若クハ倉敷料ヲ支拂フモノニアラス現ニ原告會社カ發行スル所ノ證券ハ別紙様式ノ如クニシテ此證券ニ對シ貸付ヲ爲スモノハ獨リ原告會社ノ銀行部ニ止マラス市内ハ勿論市外ノ銀行業者其他個人ニ於テ其數尠カラス然ルヲ獨リ原告會社ノ銀行部ノ擔保品ニ限り倉庫ニ保管スルカ如ク思料シ

負擔ニ屬セサル保管料又ハ倉敷料ノ支拂ヲ爲サ、ルヲ怪シミ之ヲ以テ倉庫部トノ間ニ資本ノ共通アルモノト誤認シタルハ畢竟倉庫業ノ實體ヲ知ラサルヨリ生シタル誤解ナルヘシ第五、上石井出張店即チ倉庫部ノ使用人カ時ニ或ハ銀行業務ヲモ取扱フヲ以テ從業者ヲモ共通ナリトノ意見ハ甚タ謂ハレナシ現ニ倉庫部ニ於テ給料ヲ支拂ヒ使用スルモノハ之ヲ倉庫部ノ從業者ト認ムノ外ナルカルヘシ第一項ニ於テ辯明シタル如ク隣接米取引所ニハ毎日銀行部ノ使用人ヲ出張セシメ居レハ時ニ或ハ倉庫ノ營業場ニ來テ顧客ト取引スルコトナシトセス又銀行部ノ使用人カ貸付上ノ便宜ヲ圖リ時ニ倉庫部ニ赴キ取引スルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ偶々倉庫部ノ使用人カ一時之ヲ補助シテ取扱ヲ爲スコトナキヲ保セスト雖モ此ノ如キハ臨時便宜上ノ取扱ニ屬スルモノニシテ常時倉庫部ノ使用人ヲシテ銀行部ノ業務ヲ執ラシメ居ルコトハ原告會社ノ認メサル所ニシテ從業者ノ共通ハ決シテ事實上存在セス依テ明治三十七年九月二十二日附神戸稅務監督局長ノ通知シタル營業稅課稅標準額審查決定ヲ取消シ原告届出ノ如ク銀行業ト各別ニ課稅標準ヲ算定スヘキモノナリトノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一、原告主張ノ要點ハ上石井出張店ハ倉庫部ノ營業場ニシテ銀行部ノ營業場ニ非ス而ルニ銀行業ノ課稅標準屆書ニ營業場トシテ上石井出張店ヲ附記セルハ倉庫ニ接近スル岡山米取引所營業場内ヘ日々銀行部ノ使用人ヲ派出シ仲買人其他近傍顧客ノ便ニ供シ居ルヲ以テ時ニ或ハ倉庫部内ニ於テモ銀行業務ノ取引ヲ爲スコトナシトセス故ニ之ヲ併記セシノミト云ヘルモ元來原告カ上石井出張店ニ於テ銀行業ト倉庫業ヲ兼ネ營ミ居レルハ原告會社設立當時ヨリノコト

數種ノ營業ニ對スル課稅標準ノ算定



ニシテ岡山米取引所カ明治三十六年其ノ隣接地へ移轉シ來リタルヨリ益々營業場トシテ重要ノ度ヲ加ヘ同所ニ於ケル銀行業務ノ取引ハ愈々擴大セラレツ、アリ豈ニ時ニ或ハ倉庫部内ニ於テ銀行業務ノ取引ヲ爲スコトアルニ止マランヤ假リニ時ニ或ハ倉庫部内ニ銀行業務ノ取引ヲ爲ストスルモ既ニ倉庫營業場ニ於テ銀行業務ヲ爲ス以上ハ即チ事實ニ於テ資本タルヘキ土地家屋ヲ共通使用スルニ非スシテ何ソヤ第二、原告ノ自認ニ依レハ原告會社ノ損益計算ハ被告言フ所ノ如シトアリ果シテ然ラハ深ク論スル迄モナク推論上必然ノ結果トシテ被告答辯ノ結論ニ到達セサルヲ得ス第三、原告ハ倉庫部ノ土地ハ銀行部ヨリ無償ニテ貸付ヲ受ケタルモノナリト言フト雖モ倉庫部及銀行部ニ使用スル土地家屋ハ何レモ原告會社ノ所有ナルハ勿論始メヨリ此ヲ倉庫ノ分トシ彼ヲ銀行ノ分トスルカ如ク截然區別スル所ナク共同使用セルハ事實ニ徴シ明ニシテ銀行部ト倉庫部トノ間ニ貸借ノ關係存スル筈ナク從テ銀行部ノ土地ヲ無償ニテ倉庫部ニ貸與シタリト言フカ如キハ畢竟原告カ一時ノ遁辭ニ過キヌ假令原告主張ノ如ク倉庫部ノ土地ハ銀行部ヨリ貸與シタルモノナリトスルモ該土地ノ賃貸價格ハ當然倉庫部ノ建物賃貸價格中ニ加算スヘキ筈ナリ何トナレハ法律ハ其借地タルト所有地タルトヲ論セサルモノナレハナリ而カモ被告ハ之ヲ銀行業務ノ營業用敷地トシテ其營業報告書ニ之ヲ掲ケ且ツ銀行業務ノ賃貸價格ニモ計算セリ即チ其ノ營業用ノ地所ヲ其ノ使用セリト稱セル營業ノ方ニ計算セヌ却テ其ノ使用セスト稱スル營業ノ方ニ計算スルハ矛盾ノ甚シキモノニアラスヤ是レ其ノ其實該土地ハ倉庫業務及銀行業務ノ雙方ニ使用セルヲ以テ其ノ言フ所自然斯ノ如ク前後矛盾トナル所以ニアラスヤ第四、原告ハ被告カ全ク倉庫營業ノ真相ヲ知ラサルヨリ誤解

ヲ來セリトナシ倉庫營業ハ貨物ノ藏入アリタルトキハ直チニ貨主ニ對シ預證券及質入證券ヲ發行シテ保管料ヲ徴シ銀行業者ハ其預證券ニ對シ貸付ヲ爲シ質權ヲ設定スルモノナレハ質權者タル銀行カ保管料若クハ倉敷料ヲ支拂フモノニアラスト言ヘルハ固ヨリ當然ノコトニシテ被告モ亦之ヲ知ル唯被告ノ答辯書ニ(一)原告カ貸付金ヲ爲ストキ商品ヲ擔保ニ取得シタル場合ハ上石井ノ倉庫ニテ之ヲ保管スルコト(二)而シテ該擔保品ヲ上石井倉庫ニ於テ保管スルモ銀行部ヨリ倉庫部ニ向ツテ保管料又ハ倉敷料ヲ支拂ハスト言ヘルハ原告カ上石井倉庫ノ發行スル證券ニ對シ貸付金ヲ爲スノ外倉庫ニ寄託ヲ受ケサル貨物ヲ擔保トシ貸付ヲ爲シタルトキ其ノ貨物ヲ上石井ノ倉庫ニ保管スルコトアルモ自己ノ倉庫ニテ自己ノ擔保品ヲ保管スルヲ以テ別ニ倉敷料又ハ保管料ヲ支拂ハサルノ事實アリ之レ即チ上石井ノ倉庫ヲ銀行業務ニ使用シ居ルコトヲ舉證セシモノニシテ原告コソ却テ此意ヲ誤解シタルモノナリ否寧ロ言テ左右ニ託シ此事實ヲ蔽ハムトセルモノト云ハサルヘカラス假ニ一步ヲ譲リ此カル事實ナシトスルモ原告ハ上石井出張店ニ於テ預證券及質入證券ヲ寄託者ニ交付スルト共ニ又同營業場ニ於テ此等ヲ擔保トシ銀行業務ノ一タル貸付金ヲ爲スコトアルハ如何ニスルモ蔽フヘカラスルノ事實ナリトス己ニ此事實アリ即チ其ノ營業場ノ銀行業務倉庫業務ニ共通使用セルモノタルコトハ免ルヘカラス況ンヤ之ニ兼スルニ其ノ倉庫ニ貸付金ノ擔保ニ受取リタル貨物ヲ無料ニテ保管スルノ事實アルニ於テヤ若シ是ヲシモ課稅標準ヲ共通使用スルモノニアラスト謂ハ、將タ何物ヲカ課稅標準ノ共通ト謂ハムヤ第五、原告ハ上石井出張店即チ倉庫部ノ使用人カ時ニ或ハ銀行業務ヲモ取扱フヲ以テ從業者モ共通ナリトノ意見ハ甚タ謂ハレナシ現ニ倉庫部

數種ノ營業ニ對スル課稅標準ノ算定



ニ於テ給料ヲ支拂ヒ使用スルモノハ之ヲ倉庫部ノ從業者ト認ムルノ外ナカルヘシト言ヘルハ何ソ  
其論據ノ薄弱浮泛ナルヤ原告カ倉庫部ノ使用人ヲシテ絶對ニ銀行業務ヲ取扱ハシメサルナラハ無  
論共通使用ト認メ難キモ荷モ之ヲシテ銀行業務ヲ取扱ハシメンカ其給料ノ出所ハ倉庫部ナリトス  
ルモ銀行部ナリトスルモ毫モ此等ニ關係スルコトナシ要ハ使用人ヲ雙方ノ業務ニ使用スルヤ否ヤ  
ニ在ルノミ而シテ原告カ倉庫部ノ使用人ヲシテ銀行業務ヲ補助セシムルコトアリト自認シナカラ  
其ノ從業者ヲ共通ニ非スト云フニ至リテハ其真意殆ント知ルヘカラス而カモ原告ハ倉庫部ノ使用  
人ヲシテ一時銀行業務ヲ補助セシムルコトアリト言フモ被告ノ調査スル所ニ依レハ豈獨リ補助ヲ  
爲スト云フニ止マランヤ明ニ上石井出張店ニテ取扱フ銀行部ノ業務ハ主トシテ同出張店在勤者ノ  
取扱フ事實アルヲ認ムルモノナリ單リ補助ヲ爲スニ止マルト云フカ如キハ原告カ只一時ヲ糊塗セ  
ムトスル遁辭タルニ過キサルノミ以上ノ如クナルヲ以テ原告ノ主張ハ毫モ資本金建物賃賃價格及  
從業者ハ共通使用セルノ事實ヲ遮蔽スル能ハサルモノナレハ其ノ主張ノ不當ナルコト火ヲ暗ルヨ  
リモ明カナリ依リテ原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ  
依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
本件裁判上ノ要點ハ銀行業及倉庫業ハ二個ノ營業ヲ爲ス原告會社ハ營業税法ノ所謂課稅標準トナ  
ルヘキモノヲ共通シテ使用スルモノナルヤ否ニ在リ依テ審査スルニ原告會社ノ定款第一條ニ當銀  
行ハ銀行一般ノ業務及倉庫業ヲ營業ムヲ以テ目的トシ規定シアリテ他ノ條項中共二種ノ營業ヲ各  
別ノ經濟ニ於テ營ムモノト認ムヘキ規定ナキハミナラス課稅ノ標準ト爲ルヘキ會社ノ資本金額建

物及從業者ヲ全ク區別シテ使用セサルコトハ原告ニ於テモ被告ノ答辯ニ對スル其辯駁書ナルモノ  
ニ於テ自認スル所ナレハ岡山稅務署カ營業税法第十四條但書ノ規定ニ基キ爲シタル課稅標準算定  
ハ適法ナリ隨テ被告ノ本件審査決定ハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキ限ニ在ラス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●國有森林下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第五百九十四號 (請求不立)

判決要旨

一、地租改正ノ爲メ官有ニ編入セラレタル土地森林原野等ノ下  
戻ヲ申請センニハ處分ノ當時其ノ地盤ヲ所有又ハ分収シタ  
ル事實ヲ有スル者ナルコトヲ要ス從テ單ニ右下戻申請ノ權  
利ヲ讓受ケタル者ノ如キハ之ヲ申請スルノ權利ナケレハ又  
タ之ニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルノ權ナシ

秋田縣鹿角郡小阪村

原告 中村 久助

訴訟代理人 磯部 四郎

被告 清浦 奎吾

訴訟代理人 岸 精一

國有土地森林ノ下戻申請者



右當事者間ニ於ケル國有森林下戻ノ件ニ付キ被告ハ妨訴抗辯ヲ爲シタリ依テ審理判決スル左ノ如シ  
本訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

被告妨訴抗辯ノ要旨ハ原告主張スル所ハ本訴ノ目的トスル國有林ハ隣地ニ於ケル既定民有林ト共ニ元秋田縣鹿角郡毛馬内石田勘太郎ノ取分林ナリシニ改租ノ際誤テ官有ニ編入セラレタルモノニシテ後同人カ引戻申請ヲ爲スニ際シ係争林ニ對スル部分ノ地番ノミハ記載洩レトナリタルカ爲メニ今尙官地ニ屬スト雖本來他ノ確定民有林ト同シク同人ノ所有ニ歸スヘキモノニ之アリ而シテ申請人ハ同人ヨリ明治二十九年中下戻申請ノ權利ヲ讓受ケタルニ依リ茲ニ之カ下戻ヲ請求スト云フニ在リテ證據トシテ遺植立證文ヲ提出スレトモ國有林野下戻法ニ依レハ下戻ハ地租改正又ハ上地處分ノ當時所有又ハ分收ノ權利ヲ有シタル者ニ限り之ヲ許シ其申請ノ權利ハ之カ讓渡ヲ認容シタル法文存在セサルヲ以テ例令前記立證ニ依リ原告主張ノ如ク石田勘太郎カ本件係争林ニ對シ下戻ヲ受クヘキ權利アル事ヲ證明シ得タリトスルモ同人及其相續人ヨリ下戻ヲ申請スルハ格別權利讓受ヲ原因トシテ原告ニ其下戻ヲ受ケントスル本訴請求ハ違法ニシテ許容スヘキモノニアラス又原告ハ下戻申請ノ權利ハ一種ノ財産權ナリト主張スルモ該權利ハ公法上ノモノニシテ私法上ノモノニアラス以上ノ次第ナレハ本訴ハ棄却セラレタシト云フニ在リ

許シタル法文ナキヲ以テ讓渡シ得ヘキモノニアラス從テ該權利ノ讓渡ヲ原因トスル本訴請求ハ違法ナリト云フニ在リ然レトモ明文ナキコトヲ以テ唯一ノ證據トシ以テ右權利ヲ讓渡シ得ヘカテサルモノト論スルハ是却テ違法ノ抗辯タルヲ免レス抑國有林野下戻法ノ精神タルヤ地租改正又ハ社寺上地處分等ニ由リ從來一私人ノ所有ニ屬セシ林野ヲ誤テ官有ニ編入シ其結果謂レナク一私人ノ所有權ヲ剝奪スルニ至ルヘキハ甚不當ナルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ從來ノ所有者ヲシテ其所有權ヲ證明シ以テ之カ回復ヲ主張セシメントスルニ在リ從テ從來ノ所有者ナリト稱スルモノカ其下戻ヲ請求スルニ當リ其所有權ヲ證明シ當該官廳ハ其證明ニ因リ其所有權ヲ有セシモノナルコトノ心證ヲ得ルニ於テハ必ス其下戻ノ請求ヲ許容スヘキ性質ノモノニ屬シ被告ノ云フカ如キ行政處分ニ對スル不服申立ノ方法ニアラサルナリ夫ノ鑛業權漁業權等ノ取得ヲ申請スル場合ノ如ク專ラ公益ヲ標準トシ從テ其許否全然當該官廳ノ自由裁量ニ繫ルヘキモノトハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ即國有林野下戻法ニ依ル下戻ノ請求ハ其名稱カ標榜スル如ク自己ノ所有權回復ヲ主張スルニ在リテ固ト一箇ノ財産權ニ屬シ夫ノ鑛業權若クハ漁業權等ノ如ク當該官廳ノ處分ニ因リテ始メテ之ヲ取得スルモノト同視スヘキモノニアラス國有林野下戻法ノ下戻ハ地租改正又ハ上地處分ノ當時所有又ハ分收ノ權利ヲ有シタルモノニ限り之ヲ許スヘシトノ規定ハ畢竟前述ノ趣旨ヲ明示シタルニ外ナラサルナリ上述セシ如ク國有林野下戻法ニ依ル下戻請求ノ權利ニシテ財産權ナリトセンカ之カ讓渡ヲ爲シ得ヘキハ私法上ノ原則ニシテ之ヲ禁スル明文ナキハ則之ヲ許シタル所以ナリ然ルニ被告ニ於テ讓渡ヲ許スヘキ明文ナキカ故ニ讓渡シ得ヘカテサルモノナリト云フハ全ク前示ノ法理

國有土地森林ノ下戻申請者



ヲ辨セサル違法ノ抗辯タルヲ免レスト云フニ在リ  
按スルニ國有土地森林原野下戻法第一條ニ依レハ地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セ  
ラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若クハ立木竹ハ其處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實ア  
リタル者ハ此ノ法律ニ依リ云々主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得トアリテ之ヲ申請スルハ當  
時其事實ヲ有シタルモノナラサル可ラス然ルニ原告ハ明治二十九年ニ於テ係争地ニ關スル證文ノ  
權利ヲ讓受ケタル者ニシテ地租改正ノ當時所有又ハ分收ノ事實ヲ有シタル者ニアラサレハ下戻申  
請ノ權利ナク從テ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルハトス依テ主文ノ如ク判決ス

●營業稅課稅標準決定處分取消請求ノ訴  
明治三十七年第四百四十號  
明治三十八年十一月一日判決 (請求相立)

判決要旨

一、金錢貸付業又ハ物品貸付業者ニ對シ營業稅法第三條ニ依リ  
營業稅ヲ賦課センニハ一定ノ店舗其ノ他一定ノ營業場ヲ設  
ケ其ノ業ヲ營ムモノナルコトヲ要ス

茨城縣筑波郡葛城村大字  
西大橋十一番地平民農  
原告 曾 岡田 幾之助

宇都宮稅務監督局長

被告 多岐 敏三郎

宇都宮稅務監督局在勤  
稅務局  
訴訟代理人 加藤 章 助

右當事者間ニ於ケル營業稅課稅標準決定處分取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處  
原告訴求ノ要旨ハ明治三十七年三月二十四日茨城縣筑波郡谷田部稅務署長ハ原告ヲ以テ金錢貸付  
業ヲ營ムモノトシ營業稅ノ課稅標準ヲ算定シ之ヲ原告ニ通知シタルモ原告ハ從來嘗テ金錢貸付業  
ヲ營ミタルコトナク又營ミ居ラサルヲ以テ異議ヲ申立テ審査請求ヲ爲シタルニ被告ハ前同様ノ決  
定處分ヲ爲シ之ヲ原告ニ通知シタリ然レトモ原告ハ曾テ金錢貸付ヲ營業トナシタル事實ナシ原告  
ハ甲第三號證一乃至五ニ示セル如ク巨多ノ不動産ヲ所有シ加フルニ甲第四號證ノ如ク土木請負  
業ヲ營業トシ甲第五號證ノ如ク農業ヲ營ミ全家舉テ農業ニ從事シ尙ホ養蠶製茶等ヲ爲スヲ以テ是  
等ノ財產及ヒ業務ニ依リ原告ノ收入ハ頗ル豊富ニシテ甲第六號證一乃至二ノ如ク所得金アリテ  
甲第七號證ノ如キ所得稅ヲ負擔シ甲第八號證ノ如ク原告ノ家族ハ少數ナルヲ以テ生活費其他日常  
ノ經費ヲ控除スルモ年々資産ノ増殖スルハ瞭然タル事實ナリ斯ク資産ニ餘裕アルヲ以テ隣村内ノ  
土地小作人又ハ親戚故舊等ノ緣故者ニ特別ノ融通ヲ哀願セラレ無據情實ニ依リ僅々一今年二三ノ  
人ニ貸付タルコトアリ之レヲ逐年累計スルモ其件數金額共誠ニ微々タルノミ而シテ其額五百圓以  
上タルノ故ヲ以テ直チニ是レ營業稅法ニ依リ金錢貸付業ナリトスルハ不當ノ決定ナリ抑モ營業稅  
法第三條ニ依レハ營業稅ヲ課スヘキ金錢貸附業及ヒ物品貸付業ハ一定ノ店舗其他ノ營業場ヲ設ケ  
貸付ノ業ヲ營ムモノヲ云フ云々トアリ本法規定ノ精神ニ依ルモ金錢貸付シ居ル事實アルモノ悉

金錢若クハ物品貸付業者ニ對スル營業稅ノ賦課



タ營業税法ニ所謂金錢貸付業者ニ非ス殊ニ原告ノ如ク單ニ親戚故舊等二三ノ人ヘ貸付タル如キ特  
殊ノ事情アルモノモ悉ク該税法ノ納稅義務者タルヘキモノトスルニ非ス必スヤ(一)一定ノ店舗  
若クハ營業場ヲ設ケ且ツ(二)營業トシテ爲シタル條件ヲ具備シタルモノナラサルヘカラス而シ  
テ原告ハ祖先以來居住ニ充テタル家屋ヲ有スルノ外一定ノ店舗ト見ルヘキモノ若クハ營業場ノ如  
キモノヲ有スルノ事實ナシ又營業トシテ金錢ヲ貸付ケ居ル事實モアラサルナリ故ニ原告ハ營業稅  
法第一條第四號ノ金錢貸付營業ノ納稅義務者ニ非ス又斯ノ如ク單ニ家計ノ餘金ヲ以テ偶然ニ貸付  
ケ不秩序ノ臨時收入ヲ爲スモノニ課稅スル税法ノ精神ニモ非サルナリ以上陳述セルカ如ク原告ハ  
金錢貸付業ヲ營業トナシタル事實ナキト共ニ從テ該業ノ從業者ヲ雇使シタル事實ナシ然ルヲ被告  
カ甲第二號證ノ如ク決定シタルハ營業税法第三條第一項ノ規定ヲ不當ニ適用シタルモノナリ依テ  
被告カ原告ニ對シ明治三十七年九月二十八日附ヲ以テ爲シタル營業稅課稅標準ノ決定處分ハ之ヲ  
取消ストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ金錢貸付業ヲナシタルコトナシト主張シ尙ホ其主張ヲ確カメン爲メ土木  
請負ヲ營ミ巨多ノ不動產ヲ所有シ農業養蠶製茶等ヲナスノ事實ヲ舉ケ貸付シタル金錢ハ全ク生計  
ノ餘裕ヲ以テ親戚故舊ノ緣故者ニ限リ特別ニ融通セルニ過キスト云フモ明治三十七年營業稅調查  
ニ際シ谷田部稅務署長ノ調査スル所ニ依レハ原告ヘ不動產ヲ抵當トシ引續キ金錢ノ貸付ヲナシ居  
ルモノニシテ件數四十三其貸付金高六千五百五十圓四十四錢ノ多キニ達シ何レモ相當ノ利率ヲ付  
シ負債者三十三人五ヶ町村ニ涉リ年々新タナル負債主ニ貸付ヲナシ利子ハ殆ント經常收入ニ屬シ

居ルコト登記上明瞭ニシテ掩フ可ラス内回收セシ分十六件二千二百二十四圓十二人アリト雖モ尙  
ホ三十六年十二月ニ於テ二十七件四千三百二十六圓四十四錢二十一一人ヲ存シ營利ノ狀態顯然タル  
モノナリ而シテ原告カ貸金利子取得ノ狀態ヲ見ルニ三十六年分ハ所得決定高千七百七十四圓ノ内  
利子八百四圓三十九錢ニシテ全所得ノ殆ント四分ヲ占メ三十七年分ハ所得決定高千七百六十七圓  
七十七錢ノ内利子六百二十五圓九十六錢ニシテ全所得ノ殆ント三分ヲ占メ居ルコト乙第四號證乙  
第五號證ノ如シ以テ親戚故舊ノ緣故者ニ限リ特別ニ融通セシモノニシテ營利的ニアラストノ主張  
ハ採ルニ足ラサルヲ知ル所ノ如ク其行爲カ已ニ營利的ナル以上ハ之ヲ專業トスルヤ否ヤニ拘ラス  
營業税法上之ヲ營業ト認ムルハ當然ナリトス又原告ハ一定ノ店舗若クハ營業場ヲ有セス從業者ヲ  
雇使セシコトナシト云フモ住宅ニ於テ相當ノ設備ヲナシ顧客ヲ引見シ取引ヲナス以上ハ是レ即チ  
店舗ニ外ナラス而シテ原告カ其住宅ヲ店舗ニ充ツルノ事實ハ乙第六號證ノ如ク其當時稅務署稅務  
屬箕輪喜誠ノ實地臨檢取調ヲナシタル意見書ニ徵シ明カナリトス又營業ニ從事スルモノハ總テ從  
業者トシテ營業主ヲ從業者トシテ計算スヘキコトハ營業税法第十九條及同法施行規則第十二  
條ノ明示スル所ナレハ原告ヲ以テ從業者トシテ計算スヘキハ勿論ニシテ隨テ原告ノ主張ヘ理由ナ  
キモノナルヲ以テ其請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
營業税法第三條ニ「營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ハ營業場ヲ設  
ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ」トアレハ金錢ヲ貸付スル者アルモ悉ク營業稅ヲ課スヘキニアラス一

金錢若クハ物品貸付業者ニ對スル營業稅ノ賦課



定ノ店舖其他ノ營業場ヲ設ケ金錢貸付ノ業ヲ營ム者ニシテ初メテ之レヲ課スヘキナリ本件原告ハ七十餘町歩ノ土地ヲ所有シ専ラ農業ニ從事シ生計ヲ營ム者ニ多少金錢ヲ貸付セルモ店舖其他ノ營業場ヲ設ケテ之ヲ爲スニ非サレハ直チニ之ヲ以テ金錢貸付ノ業ヲ營ミタリト爲スヲ得ス而シテ原告カ店舖其他ノ營業場ヲ設ケ居タリトノ事實ハ乙第六號證ノミヲ以テハ未タ之ヲ正確ナリト認ムルヲ得ス依テ原告ノ行爲ハ營業税法第三條ニ該當スルモノト云フヲ得ス故ニ被告ノ與ヘタル營業稅課稅標準ノ決定ハ其當ヲ得タルモノニアラス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
被告カ原告ニ與ヘタル營業稅課稅標準決定ハ之ヲ取消ス。訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

二元

●所得金通知書取消ノ訴 明治三十七年第十二百十三號  
明治三十八年十一月二十二日第一節宣告

判決要旨

一、宅地ニ付テハ何等ノ所得ナキニ若干ノ所得アリトシテ之ヲ所得金額ニ算入シ又田畑ニ付テハ之ヲ脱漏シテ其所得ヲ算入セサル場合ト雖モ彼此差引ヲ爲シ其ノ所得金額カ決定額ニ充ルトキハ其決定ハ不當ニアラス

八七

秋田縣北秋田郡長木村  
桐澤十二番地平民農  
原告 成田 德之助  
外一名

秋田稅務監督局長  
秋田稅務監督局事務官  
被告 久保 要藏  
訴訟代理人 茂木 靜一

右當事者間ニ於ケル所得金通知書取消ノ訴審理ヲ遂クル處  
原告請求ノ要旨ハ原告ハ明治三十七年七月十五日附ヲ以テ北秋田郡鷹巢稅務署ヨリ所得金三百六圓二十一錢ノ通知ヲ受ケタルモ原告ハ元來三百圓ノ所得無之タメ同年八月一日ヲ以テ異議申立審査ヲ求メタルニ秋田稅務監督局ハ尙三百六圓二十一錢ノ所得アリト決定通知セリ然ルニ元來柄澤部落ハ他町村トハ大ニ異ナリ地味庵惡ニシテ泥田ナル故ニ所得ノ乏キコト人ノ能ク知ル所ナリ別シテ近來ハ鹿角群小坂嶺山嶺毒ノ爲メ收穫高二割餘ノ損失アルヲ以テ三百圓ノ所得ヲ見タルコトナシ因テ本件秋田稅務監督局ノ決定通知ノ取消ヲ求ムト謂フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ收支計算書ニテ計田反別四町七反九畝十三步計畑反別二町六反五畝十三步及大館町畑反別八反一畝十三步ヨリ生スル所得百七圓七十八錢ニ過キスト云フモ多額ノ控除費ヲ見積レル不確實ノ計算ニシテ事實ト認ムルヲ得ス決定額ハ原告カ現在所有スル田畑反別ヲ根基トシテ之ヲ自作貸付ニ區別シ稅務署及調査委員會カ精密ニ調査シ得タル一反步當所得標準歩合ニヨリ算出シタルモノニシテ不當ニアラス然レトモ尙ホ再查ヲ遂クルニ成田長治分所得金額中其ノ所得ノ根基長木村所在畑ニ於テ自作貸付各々九反八畝二十三步調査洩アルコトヲ發見シタリ

所得金額決定ノ效力

二元



之ヨリ生スル所得金十九圓八十五錢ナリ又同人宅地賃付ノ所得トシテ金七圓七十三錢算入シアレトモ本人店住ノ邸宅ナルコト明カナレハ之ヲ無所得トシテ除算シ差引所得金百四十七圓七十五錢ト爲リ實際ノ所得額ハ決定額ヨリ増加セリ其他反別ニ差違アルモ原告ノ誤調ト認ム第二原告ハ小坂嶺山煙害ノ爲メ收穫高二割以上減損シ且ツ地味粗悪ノ故ヲ以テ其所得金三百圓ニ達セサルコトヲ主張スルモ長木村ハ北秋田郡中上位ノ土地柄ニシテ大字柄澤ハ同村ノ中等ニ位シ小坂嶺山トノ距離直徑約四里其煙害ノ如キハ栗松ノ高木ニ限リ多少之アルハ事實ナルモ田畑作物ニハ被害ノ形蹟アルヲ認メス要スルニ原告ノ所得金額ハ曩ニ所轄稅務署ニ於テ相當調査ノ上所得調査委員會ノ決議ニ依リ決定シ審査請求ニ該リテモ審査委員會ノ審議ヲ經適當ト認メ決定シタルモノニシテ毫モ取消ノ理由ヲ認メス以上ノ次第ナルヲ以テ原告請求棄却ノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ

因テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ被告ノ本件所得金額決定ヲ不當ナリトシ之レカ取消ヲ請求スルモ更ニ其不當ナル所以ヲ證明セサルノミナラス被告ノ決定ヒシ所得金額三百六圓二十一錢ハ所得稅法第四條第三號ニ依リ算定シタルモノニシテ不當ト認ムヘキ點ナシ唯原告成田長治所有宅地ニ付テハ何等ノ所得ナキニ七圓七十三錢ノ所得アリトシテ之ヲ所得金額ニ算入シ又長木村ニ於ケル同人所有自作賃付各九反八畝二十三歩ニ付テハ之ヲ脱漏シテ其所得金十九圓八十五錢ヲ所得金額ニ算入セサル誤謬アルモ彼此差引ヲ爲ストキハ其所得金額ハ反テ決定金額ヨリ増加スルヲ以テ之ヲ不當ナリト謂フヲ得ス右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●旅費日當請求ノ訴 明治三十八年第三百四十三號 (請求不立)

判決要旨

一、村役場書記カ村長ニ對シ數回諸所ニ出張セル旅費及ヒ日當ヲ請求シタルモ其下渡ナキコトヲ不當トスル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ

宮城縣栗原郡津久毛村元役場書記

原告 小野寺 德太郎

宮城縣栗原郡津久毛村村長

被告 千葉 鐵三郎

右原告小野寺德太郎ヨリ被告津久毛村村長千葉鐵三郎ニ對スル旅費日當請求ノ訴訟狀ニ就キ審査スルニ

本件ハ原告カ明治三十四年以來數回諸所へ出張シタル旅費及日當ヲ請求シタルニ理由ナク下渡サレサルニ依リ之ヲ下渡スヘキ旨判決アラシコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタルノ規定ナキヲ以テ受理スヘキ限リニアラス依テ本訴ハ行政裁判法第二十七條ニ則リ之ヲ却下ス

村役場書記ノ旅費日當請求ノ請求



●酒造稅不法課稅納稅告知書取消ノ訴 明治三十七年第七十六號  
明治三十八年十一月二日判決 (請求不立)

判決要旨

一、課稅事件ト刑事事件トハ別個獨立ノモノナレハ稅務署長ニ於テ清酒密造ノ事實ヲ認メタル以上ハ之レニ對スル刑事裁判ノ確定ヲ待ツコトナク直ニ造石稅ヲ賦課スルモ違法ニアラス

佐賀縣神戶千歲村大字迎馬  
百五十三番地平民酒造業

原告 西岡伊三郎

被告 高尾幸次

稅務監督局事務官

訴訟代理人 吉田佐太郎

右當事者間ニ於ケル酒造稅不法課稅納稅告知書取消ノ訴ニ付原告ハ口頭審問ノ期日出頭セザルニ付關席ノ儘被告ノ陳述ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告陳述ノ要旨ハ佐賀稅務署長中島仁之助ハ明治三十七年八月十日原告西岡伊三郎ニ對シ酒造稅

三十七年隨時分金七百七十六圓八十五錢ヲ明治三十七年八月二十五日限り佐賀本金庫へ納付スヘキ旨納稅告知書ヲ發シタルトモ原告ニ於テハ毫モ其納稅ノ義務ナキモノナリ抑稅務署ニ於テ此告知書ヲ發シタル所以ハ前ニ同署長ニ於テ原告ニ對シ酒造稅法第二條ニ背キ清酒五十一石七斗九升ヲ密造シタルモノトシ同第二十二條ヲ適用シ處分通告ヲ爲シタルヲ以テ別紙(イ)號ノ如ク訴願ヲ提起シタルニ被告ハ(ロ)ノ如ク裁決ヲ與ヘタリ其事件ニ關係且ツ原因スルモノト思料シタルヲ以テ原告ハ其密造者ノ原告ニアラサルコトヲ理由トシ被告ニ訴願ヲ提起シタルシニ被告ハ認定ヲ誤マリ原告ノ訴願ヲ却下セリ今其不當ナル所以ヲ列舉スレハ第一、佐賀稅務署カ發シタル通告書中原告ハ免許ヲ受ケヌシテ三回ニ清酒五十一石七斗九升製造シタルモノナリトアリテ事實ヲ認メタル證據ハ田中平太郎荒木喜三郎江口伊之資野中常十井上龜吉ノ各尋問顛末書竝ニ第十九號第二十二號第二十四號證據物件差押目錄ナレトモ田中平太郎辻治三郎ハ酒類製造場所有者ニシテ自ラ其業ニ從事セシ者江口伊之資ハ製造者ノ主タル地位ニ在ルモ荒木喜三郎ハ所謂從業者井上龜吉ハ天神丸ノ先所有者ニシテ田中平太郎トノ間賣買代金未濟ニシテ平太郎ト利害ヲ齊スル者野中常十ハ平太郎等カ行爲ニ直接幫助セシ嫌ヒアリ總テ平太郎等カ責任ノ如何ニ依リ利害相伴フ者ナレハ是レ等ノ者ノ供出ハ信ヲ措クニ足ラス又タ證據物件タル十九號ハ日板ト稱シ江口伊之資カ原告方ニ雇使セラレタル就業日ヲ記シタルモノニテ其日板ニ稅法違犯ニ着手セシ月日ニ雇使セラレタル如キ記事ノ塗抹ヲ以テ稅務署ハ其專述ヲ湮滅センカ爲メ塗抹セシモノナリトスレトモ果シテ然ラハ第八號(告發書ニ用ヒタル番號便宜ノ爲メ費用ス以下同シ)江口伊之資ニ對スル尋問顛末

清酒ノ密造者ニ對スル造石稅ノ賦課



書第二十五問ノ答へ捲リ揚ケタルハ三十六年十二月三十一日迄位ヒトアリ又同書第三問ノ答ニ歸リタルハ一月十二日トアレハ此ノ月日間、日板ニ記シアル可キニ日板ニハ十二月十八日迄記シアリ是即チ酒造終期迄雇傭スヘキ契約ナリシヨリ豫想シテ記シタルモ同月九日解雇ヲ請ヒシカ爲豫記ノ部分ヲ塗抹シタルモノナリ又二十二號ノ物件ハ今村八代吉方ニ於テ差押ヘタル酒粕ニシテ此ノ粕タル第二十一號同人ニ對スル尋問頭末書ノ第七問ノ答以下ト第三號田中平太郎カ二月二日尋問頭末書ノ第六問ノ答以下ヲ參照セハ賣買ハ原告ニアラスシテ平太郎ノ行爲ナルコト明ニシテ第二十四號ノ物件タル買入目録モ千原文治ヨリ田中平太郎ニ宛タルモノニシテ原告ノ行爲ト見認メ得可キ事迹ナク却テ平太郎等カ自己所有ニ屬セル物件ノ處分ヲ爲シタルコトヲ推知スルニ足レリ

第二、佐賀稅務署長カ事實認定ノ資料ニ供セシ第二號乃至第四號田中平太郎及ヒ第五號辻治三郎第八號江口伊之資ニ對スル尋問頭末書ニ依ルモ同人等ハ原告ノ爲メ機械的ニ行動セシモノ、如ク供出スルモ原告ハ製造場ニ在ラスシテ同人等カ専ラ從事セシコト蔽フヘカラサル事實ナリ加之第二號(田中平太郎尋問頭末書)第十九問第四十四問乃至第五十四問第三號(同上)第一第二問第四號(同上)第二十四問乃至第二十七問ノ答ヘニ依レハ製造シタル酒類及ヒ粕ノ賣買場移轉茲ニ酒母ノ投棄器物ノ讓與等ノ處分三名ニ於テ專行シタル等ヲ以テ觀ルモ其行動カ他人ノ指令ノ下ニアラサリシコト明白ニシテ他人ニ備使セラル、モノナリトセハ必ス之レニ對スル報酬契約ナカルヘカラス然ルニ第八號江口伊之資カ第三十三問ノ答ヘニ依ルモ其事ナキコト亦明白ナリ此ノ三名中責任者ノ誰タルコトハ未タ審理不充充分ニシテ處斷ス可カラサルモ田中平太郎カ酒類ヲ辻治三郎

所有ノ蛭子丸ニ移シナカラ其物件ニ追從シ(第二號尋問頭末書第四十四問以下)酒類及ヒ器具ノ處分ヲ爲セシ等ヨリ見レハ或ハ同人ニ可有之ト思料セラル此點ニ對シテハ佐賀稅務署ニ於テモ感ヲ同セシモノト見レハ燒酎ニ變造セシ行爲ニ付テハ同人ニ對シテ處分通告書ヲ發シタリ若シ田中平太郎ノ供出ヲ事實トセハ同人カ燒酎ヲ蒸溜セシモ亦タ其責任原告ニ歸セサルヲ得サルカ如クナルニ其行爲ニ對シテハ平太郎ヲ罰ス可キモノトシ通告書ヲ發シタルハ思フニ同人ノ行爲タルコト蔽フヘカラサル事實アリシ爲メナリ然ルニ被告ハ此不可分ノ田中平太郎ノ供出ヲ採リ一ノ行爲ヲ以テ始メハ原告ノ責任トシ終リハ平太郎ノ責任トシタルハ探證法ニ背キ事實誤認ノ裁決ナリ第三、第二號田中平太郎カ尋問頭末書第二十三問其清酒ハ何レニ陸揚セシヤ答原告ノ使人姓不詳嘉七及長七ト申者カ請取ニ參リ云々ト第三號(同人)第一問ノ答モ亦タ前文ハ前ノ答ト同一ニシテ後文ハ千原文治ニ賣渡シタリトアリ又第二號(同人)第四十九問乃至第五十四問ノ答ニ依レハ田中平太郎ニ於テ千原文治ト清酒ノ賣買又ハ燒酎ノ蒸溜ニ關スル事實ヲ記シ第四號(同人)第一問乃至六問ノ答ニモ亦タ燒酎蒸溜酒粕ノ賣渡酒袋讓與等記事アリ第六問ノ答ニハ第一回ノ製造千代島佐市カ爲セシトアリ第五號(辻治三郎)第十九問ノ答ニモ千原文治ニ酒粕交付セシコトヲ記シアリ第八號(江口伊之資)第六問七問ノ答ニモ第一回分ハ原告カ杜氏千代島佐市カ仕込ヲ爲シ云々トアリ然ラハ本案密造ノ行爲ヲ以テ原告ノ責任ニ歸スヘキモノトセハ以上頭末書ニ散見スル千代島佐市姓不詳嘉七(氏塚本)長七(氏江頭)千原文治ノ尋問ハ調査上必要ナルモノト謂ヘサルヘカラス然ルニ被告ハ之ヲ措テ問ヘサリシハ審理不盡ノ裁決ナリ第四、第五號辻治三郎ニ對スル尋問頭末

清酒ノ密造者ニ對スル違石稅ノ賦課



審ノ冒頭ニ酒造ニ用ヒタル古桶ノ分ニハ熊本管理局ノ烙印アリ云々トアリテ其器具カ熊本管理局ノ管轄ニ屬スルヤ明カナリ之ヲ第二十一號今村八代吉ノ尋問顛末書等ニ參照シテ考覈スレハ其ノ製造者カ熊本管理局管内人ナル田中平太郎等ナルコト推シテ知ルヘシ抑モ納稅ノ義務ヲ有スルハ法律ノ發布ヲ待ツ可キコトハ憲法ノ定ムル所ニシテ酒造稅ノ如キハ明治二十九年法律第二十八號ノ規定ニ從フヘキモノナリ假令第二條ニ違犯スルト雖モ同第二十二條ノ明文ニ從ヒ製造者即チ實行セシ者ヲ科罰シ其他ニ及ボスモノニアラスシテ造石稅ノ賦課モ亦タ製造者ニ止マルヘキハ第四條及ヒ同第三十二條ニヨリ知ラル可シ原告カ本案ニ干與セザリシコトハ前數次ニ縷述セシ如クナルモ假リニ數歩ヲ讓リ原料及ヒ器具ノ供給ヲ爲シタリトスルモ製造者他ニアラレハ法律ノ問フ所ニアラアルヤ明カナリ然ルニ被告ハ原告ノ訴願ヲ理由ナシトシタルハ不當ナリ第五、凡又收稅官吏ハ間接國稅犯則事件取調終リタルトキハ一切ノ書類ヲ管轄稅務署長ニ差出スヘキコトハ間接國稅犯則者處分法ニ規定スル所ナルニ佐賀稅務署收稅官吏ハ本案ノ關係者ナル千代島佐市ニ對シテハ原告居村(佐賀縣神崎郡千歲村大字迎島)駐在巡查百崎某立會取調ヲ爲シ其ノ顛末書ヲ作製シナカラ之ヲ管轄稅務署ニ差出ツル歟將タ署長ニ於テ之ヲ除去シタル歟一件記錄ニ添附セス又第四號田中平太郎ニ對スル尋問顛末書第一問ニ依レハ千原文治ニ對シ取調ヲ爲シタルニ云々トリアテ既ニ取調ヲ爲シタルコト明瞭ナリ然ルニ佐賀稅務署長カ同地方裁判所ニ提出セシ記錄中之ヲ添附ナキハ願フニ千代島佐市及ヒ千原文治ノ顛末書ハ原告ノ利益ニ歸スルヨリ故ラ之ヲ除却セシモノナラン斯ル違法ノ資料ヲ採リ以テ被告カ與ヘシ裁決ハ不法ト云ハサルヲ得サルナリ第六 課

稅ノ事實存否ヲ設定スルハ當該行政廳ノ職權ニ屬ストスルモ既ニ行政處分權ノ範圍ヲ脫シ司法法衙ニ移付セシモノハ判決確定ヲ待ツ可キモノタルコトハ稅法第二十二條ニ云々罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケストアリ此裏面ヨリ見ルトキハ其事實ナカリモノハ從テ課稅ス可カラサルコト理ノ觀易キ所ナリ若シ告發セシ事件ニシテ判決ノ結果ヲ待タス稅務署ニ於テ課稅上更ニ事實ヲ見認メ得可キ獨立ノ權能アリトセハ司法法衙ニ於テ一ノ事實上反對ノ結果ヲ生セシ場合國民ハ適從スル所ヲ失ヒ隨テ國家機關ノ威信ハ殆ント保ツ能ハサルニ至ラン故ニ前顛ノ如ク普通課稅ハ稅務署ノ職權ニ屬スト雖既ニ刑事上ノ責任アリトシ國家ノ機關タル司法法衙ニ告發セシ場合ハ其審理ヲ委セシ裁判所ニ於テ確定セシ事實ノ如何ニ據リ課稅スヘキコト當然ナルニ被告監督局長ハ假令犯罪事件ハ司法裁判所ニ係屬審理中ニ係ルト雖モ稅務署長カ徵稅ニ關スル職權ハ之レカ爲メ何等ノ支障ヲ受ク可キモノニアラストシ佐賀稅務署長カ酒類ノ造石稅ノ納入ヲ命シタルハ正當ニシテ取消ス可キ理由ナキモノトセシハ法律ヲ無視セシ不法ノ裁決ナリ以上ノ理由ナルヲ以テ被告ノ裁決及ヒ佐賀稅務署長ノ納稅告知書ハ之ヲ取消サレシコトヲ請フト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ本件ハ佐賀稅務署長稅務官中島仁之助ニ於テ明治三十六年十月ヨリ同年十二月マテノ間ニ於テ筑後川筋及熊本縣天草郡柳ノ瀬戸附近ニ於テ天神丸及ヒ蛭子丸ノ船舶ヲ使用シ清酒五十一石七斗九升ヲ密造シタルハ之ヲ原告西岡伊三郎ノ所爲ト認メ酒造稅法第二十二條ヲ適用シ間接國稅犯則者處分法ニ據リ明治三十七年五月十六日處分通告シタルモ原告ハ之レヲ履行セサルヲ以テ明治三十七年六月四日佐賀地方裁判所ヘ告發セリ而シテ原告ニ對シテハ明治三十七年

清酒ノ密造者ニ對スル造石稅ノ賦課



八月十日附ヲ以テ清酒五十一石七斗九升ノ造石税金七百七十六圓八十五錢ノ納稅告知ヲ爲シタル事實ニシテ原告ノ提訴理由トシテ第一ヨリ第五ニ於テ列舉シタル所ハ要スルニ天神丸蛭子丸ノ船舶中ニ於ケル清酒密造事件ハ其船舶所有主田中平太郎同辻治三郎及江口伊之資千代島佐市等ノ行爲ニシテ原告ハ干與シタルニアラス即チ田中平太郎等カ清酒及ヒ酒粕ヲ千原文治其他ニ賣却シ又ハ清酒ヲ燒酎ニ變製シ及ヒ製造場ノ移轉腐敗酒母ノ投棄搾リ袋ノ贈與等ヲ獨斷的ニ決行シタルハ其證ナリ而シテ田中平太郎以下數名ノ關係者カ原告ノ依頼者クハ雇傭ニ出テタルカ如ク陳述スルハ彼等中間ニ於テ利害ヲ均フスルモノアレハナリ然ルニ被告ノ審理ハ是レ等ノ點ニ及ハスシテ原告ノ行爲ト認メタルハ探證ヲ徂リ事實ヲ誤認シタルモノナリト云フニ在レトモ元來天神丸等ニ於ケル清酒密造ノ起因ハ原告カ明治三十六年十月十二日頃福岡縣三潞郡江島河岸ニ碇泊中ノ天神丸ヘ來リ其ノ船舶ノ貸與ヲ要請シタルニ在ルハ第一號田中平太郎尋問顛末書(第十四問答)ニ依リ明ニシテ原告カ密造清酒ノ原料品ヲ供給シタルハ原告カ現ニ之ヲ自認シタル所ナレハ本件ノ主宰者カ何人ナルヤ思半ニ過クルモノアランヤ況ンヤ江口伊之資千代島佐市ハ原告ノ酒造業ニ從來ヨリノ從業者ナリシニアラスヤ特ニ清酒密造ニ關スル麴ノ製造人野中常十並ニ天神丸ヨリ醪ヲ積替ヘ其船中ニ於テ清酒ヲ製成シタル蛭子丸ノ船頭辻治三郎等總關係者ハ其關係シタル時、場所、事柄ヲ異ニスルニモ拘ハラズ原告ノ依頼又ハ雇傭ニ過キササル旨ノ陳述ニ至テハ第三號辻治三郎尋問顛末書ノ如ク殆ント其軌ヲ一ニシ居ルニアラスヤ原告カ論シテ以テ彼ノ關係者殆ント同一ノ陳述ヲ爲ス所以ハ彼等ノ利害ヲ均フスルニ依ルト爲スハ探ルニ足ラス而シテ又清酒密造事件ノ發覺ノ

期ニ追ルヤ明治三十六年十二月十日頃原告ノ實弟永原次三郎ハ田中平太郎ノ所在地ナル長崎縣南高來郡港町ニ至リ同町字川尻ノ平野久之助福岡縣三潞郡青木村江島田中作太郎ヲ介シ田中平太郎ヲシテ密造事件ノ責任ヲ引受ケシメントシタルモ平太郎カ之ニ應セザリシ爲メ果サ、リシハ第二號田中平太郎尋問顛末書(第十三問答以下)ニ依リ明ナリ以上ノ事實ヲ綜合スレハ既ニ本件ノ責任者カ原告ニ外ナラサルコトハ明瞭ナリトス縱令田中平太郎等カ獨斷的ニ清酒及酒粕ヲ賣却シ或ハ腐敗酒母ノ投棄搾リ袋ノ贈與ヲ爲シタル事實アルモ斯ハ腐敗ニ陥リ既ニ其用ヲ爲サ、ル酒母ヲ投棄シタルニ屬シ又ハ清酒密造事件ノ發覺セントスル際ニ當リ敢テナシタル應急手段ニ外ナラサルハ是ヲ以テ直ニ其責任カ原告ニアラサル證左ト爲スニ足ラサルノミナラス原告ハ密造ニ係ル清酒十樽或ハ二十樽宛原告ノ使ヒ人姓不詳喜七及長七ノ兩人ヲシテ天神丸ヨリ引取ラシメ且原告自身ニ於テモ天神丸ニ至リ清酒ヲ十樽餘樽詰シテ持チ歸リタルコトハ第一號田中平太郎尋問顛末書(第二十三問答以下)ニ依ルモ明ニシテ原告實弟酒類販賣人永原次三郎宅ニ於テ收稅官吏ノ差押ヘタル清酒ハ其密造ニ係リシモノアルニ徴スルモ亦爭フ可ラサル事實ナリトス故ニ明治三十六年十月ヨリ同年十二月ノ間ニ於テ天神丸及蛭子丸ヲ使用シ清酒五十一石七斗九升ヲ製造シタルハ原告ノ所爲ナルコト明瞭ナリ而シテ原告ハ尙燒酎製造ニ對シ田中平太郎ヲ通告處分シタルヲ理由トスルモ抑燒酎ハ天神丸蛭子丸ニ於テ製造シタルモノニアラスシテ熊本縣天草郡登立村千原文治方ニ於テ十四樽ノ變味清酒ヲ原料トシ獨斷ニ依リ別種ノ酒類即燒酎ヲ製造シタルモノナルハ第一號田中平太郎尋問顛末書(第五十五問答)ニ徴シ明カナレハ平太郎ノ單獨行爲ト見認メタルハ至當ナ

清酒ノ密造者ニ對スル造石稅ノ賦課



リ又原告カ第六ニ掲ケテ理由トスル所ハ本清酒密造事件ハ佐賀稅務署長ノ告發ニ依リ司法法衙ノ審理中ニ屬スルモノニシテ其判決ニ依リ確定セシ事實ノ如何ニ依リ課稅スヘキハ當然ナルニ同署長カ一面ニ於テ清酒五十一石七斗九升ニ對スル造石稅ノ徵收處分ヲ執行シタルヲ至當ナリト認メタル被告ノ裁決ハ法律ヲ無視セシ不法ノ裁決ナリト云フモ處罰事實ノ審理ハ告發ニヨリ司法法衙ノ權限ニ屬スヘキモ課稅事實存否ノ認定ハ獨リ稅務署長ノ職權ニ屬シ彼此司掌ノ範域ヲ異ニスルヲ以テ縱令處罰事實ハ司法法衙ニ係屬審理中ナリト雖モ之カ爲メ稅務署長カ徵稅ニ關スル職權ハ何等ノ支障ヲ受クヘキモノニアラス故ニ佐賀稅務署長カ原告カ清酒ヲ製造シタル事實ヲ認メ之ニ對スル造石稅ヲ賦課シタルハ正當ナル職權ノ執行ニシテ毫モ不法ノ處分ニアラス以上ノ理由ニ依リ被告カ原告ノ提出シタル酒造稅不法課稅取消ノ訴願ニ對シ訴願人ノ請求相立タストノ裁決ヲ爲シタルハ至當ナリ依テ原告ノ請求相立タストノ判決アランコトヲ請フト云フニ在リ

按スルニ原告カ第一乃至第五ニ於テ主張スル要點ハ本件清酒密造者ハ田中平太郎、辻治三郎、江口伊之資、千代島佐市等ニシテ原告ニアラス田中平太郎以下數名ノ者カ原告ノ依頼ニ出テタルカ如ク陳述スルハ彼等仲間ニ於テ利害ヲ均フスル關係アレハナリ然ルニ被告ハ是等ノ點ニ審理セス原告ヲ密造者ト認メタルハ探證ノ方法ヲ誤マリ事實ヲ誤認シタルモノナリト云フニ在レトモ口頭審問ノ期日ニ出廷シテ其主張ヲ證明セス訴狀添附ノ證據書類ノミニテハ之ヲ認メ難シ之ニ反シ被告ノ原告ヲ以テ密造者トシタル事實上ノ判斷ハ原告ノ提出ニ係ル第二號明治三十七年二月一日田中平太郎尋問顛末書第四號同月十日同人尋問顛末書第五號同月二日辻治三郎尋問顛末書第八號同月

七日江口伊之資尋問顛末書ニ依リ之ヲ相當ト認ムルニ足ル又原告カ第六點ニ於テ主張スル要點ハ本件清酒密造事件ハ佐賀稅務署長ノ告發ニ因リ司法裁判所ニ繫屬中ノモノナレハ其判決ノ確定ヲ待テ課稅スヘキハ當然ナルニ之ヲ待タス清酒五十一石七斗九升ニ對スル造石稅ヲ徵收シタルハ不當ニシテ該處分ヲ是認シタル被告ノ裁決モ亦不當ナリト云フニ在レトモ課稅事件ト刑事事件トハ別箇獨立ノモノナレハ稅務署長ニ於テ密造事實ヲ認メ之ニ課稅シタルハ不法ニアラス依テ主文ノ如ク判決ス

●山林下辰請求ノ訴 明治三十六年第八十五號 明治三十八年十二月九日判決 (請求相立)

判決要旨

一、或ル一定ノ地盤カ古來私有ニ屬シ上地セラレタルノ確證ナキ以上ハ其地所ヲ以テ官有ニ編入スルコトヲ得ス

一、豐臣秀頼若クハ徳川家光カ其ノ名ヲ以テ土地ニ對シ下附シタル朱印狀ハ今日ニ於テモ土地ノ官民有ヲ定ムルノ標準タル效力ヲ有ス

大阪府三島郡清水村大字原字 陸有地ノ下辰○豐臣秀頼徳川家光ノ朱印狀  
 陸山寺住職 陸山寺住職  
 原告 近藤 森 大 道  
 外 二 名

訴訟代理人 岸本 辰雄  
 平松 三郎



右當事者間ノ山林下戻請求ノ訴審理判決スル左ノ如シ  
被告ハ大阪府攝津國三島郡清水村大字原字神峯山  
一山林段別六十七町二段六畝十七步餘地上ノ立竹木共原告ニ下戻スヘシ  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告ハ被告ハ本件係争地下戻申請ニ對シ朱印地トシテ不許可ノ處分ヲ爲シタルモ原告ハ慶長十七年豊臣秀頼ヨリ田畑合計七反五畝二步此高十一石二斗五升ノ寄進ヲ受ケタルヲ根基トシ其後慶安二年徳川家光ヨリ先規ニ倣ヒ同一地ニ對シ同石高ヲ寄附スル旨ノ朱印狀ヲ受ケ爾來同家代替毎ニ之ヲ受繼キタルノミニシテ原告ハ此外ニ寸毫モ朱印地ヲ受ケタルコトナシ依テ茲ニ甲第一號證乃至甲第十九號證ヲ提出シ之レカ下戻ヲ乞フト云ヒ被告ハ本訴山林カ朱印地内ニシテ諸役免除ナリシコトハ甲第十一號證慶安二年ノ朱印狀及甲第十二號證慶安貞享享保延享寶曆ノ各朱印狀ニ境内山林竹木諸役等免許如有來云々ノ文ニ據リ明了ナリ而シテ該山林ハ甲第一號證甲乙第二號證等ニ就レモ山林境内東西八町南北二十五町トアリテ古來増減ナクシテ上地セラレタルモノナリ原告ハ甲第三號證ノ一乃至九ヲ以テ目的山林ノ或一部ヲ數回ニ買入レタルコトヲ主張スルモ被告ハ之ヲ認ムルヲ得ス若シ之ヲ正確ノモノトスレハ前述ノ如ク甲第十一號證慶安三年ノ朱印狀ニ境内山

農商務大臣男爵

被告 清浦 奎 吾

訴訟代理人 濱地 八 郎

林竹木諸役等免許如有來トアルヲ以テ其以前既ニ諸役免許ノ境内ナルカ故ニ原告カ其後ニ於テ私  
有權ヲ買入ル、カ如キ必要ナカリシハ最モ親易キ道理ナルヲ以テ之ヲ甲第二號證及乙第二號證等  
ニ對照スルニ請山ナル管理權ニ關スルモノナルコト明カナリ又更ニ一步ヲ讓リ假ニ該證ヲ以テ境  
内ノ地盤ニ關スルモノトスルモ全境内即本訴山林全體ヲ買得シタリトノ證ト爲スニ足ラサルハ勿  
論其一部ト雖買得ノ區域判然セサル以上ハ其所有ヲ證スルニ足ラス依テ原告請求ニ應スル能ハス  
ト答辯セリ按スルニ甲第十一號證徳川家光ノ朱印狀ニハ院内山林竹木諸役等免許如有云々ト書添  
ヘアルモ其先規タル甲第十號證豊臣秀頼ノ寄進狀ニハ高十一石寄附ノ外何等ノ記スル所ナシ然レ  
ハ境内ハ下賜セラレタルモノニアラスシテ古來私有タリシヲ認ムヘク甲第二號證及甲第三號證ハ  
鑑定人三名トモ其成立ヲ認メ裁判所モ正確ト認ムルモノニシテ甲第三號證ニ依レハいも高畑きつ  
ねがおか、白上、池ノ谷等ノ諸字ヲ買入レタルコト明カニ又境内ニ此字ノアリタルコトハ甲第二  
號證ニ依リ明カニシテ此事實タル境内地ノ町歩ヲ増シタルヲ證スルト同時ニ其増シタル部分ノ私  
有ヲ證スルモノナリ被告ハ甲第二號證甲乙第二號證ニ就レモ山林境内東西八町南北二十五町トア  
リテ境内地ハ古來増減ナクシテ上地セラレタルモノナレハ甲第三號證ヲ認ムルヲ得スト云フモ甲  
第十一號證甲第十二號證ニハ境内地町歩ノ記載ナク而シテ右字ヲ買入レタルハ寛文ヨリ享保迄ニ  
シテ甲第一號證及甲乙第二號證成立ノ以前ナレハ同證ノ町歩ハ買入レノ結果如斯ク成リタルモノ  
ト認メサルヲ得ス又被告ハ若シ甲第三號證ヲ正確ノモノトスレハ朱印地ノ内ニ對シ特ニ私有權ヲ  
買入レタリトノ事實ハ信シ難キヲ以テ之ヲ甲第二號證及乙第二號證ニ對照スルニ請山ナル管理權

民有地ノ下戻○豊臣秀頼徳川家光ノ朱印狀



ニ關スルモノハナルコト明カナリト云フモ該證中之ヲ認ムヘキ記事ナキヲ以テ被告主張ノ如ク解釋スルヲ得ス依テ主文ノ如ク判決ス

官有山下戻請求ノ訴 明治三十六年第四百二十二號 (請求不立) 明治三十八年十二月九日第二部宣告

判決要旨

一、國有土地森林原野下戻法第六條ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルニハ先ツ主務大臣ニ下戻申請ヲ爲シ不許可ノ處分ヲ受ケタルコトヲ要ス

秋田縣雄勝郡三關村關口 七十六番地平民農 八柳五兵衛 外三名 農商務大臣男爵 告 清 浦 奎 吾 訴訟代理人 沼田宇源太

右當事者間ノ官有山下戻請求ノ訴審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

原告千葉末吉ノ訴ハ之ヲ棄却ス

原告八柳五兵衛渡邊宇太郎及大山清助ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告陳述ノ要旨ハ本件秋田縣雄勝郡三關村字關口官有山下ノ内小字落シ口二十八番地ノ内左記反別ノ地所ハ往古ヨリ石山ト稱シ原告ニ於テ石材採掘ヲ營業シ自由進退シタルモノニシテ原告ノ所有ナルコト甲第一二號證甲第四號證甲第七號證甲第九號證ニ依リ明カナレハ舊宇堂ヶ澤ノ内三畝歩ヲ八柳五兵衛ニ三畝十三歩ヲ千葉末吉ニ三畝歩ヲ渡邊宇太郎ニ舊宇春木ヶ澤ノ内三畝十歩ヲ同人ニ五畝十二歩ヲ大山清助ニ下戻サレタシ尤原告ノ中千葉末吉ニ訴權ナシトノ被告ノ抗辯ニ對シテハ強ヒテ爭ハスト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ原告中千葉末吉若クハ其先代千葉由松ヨリ被告ニ對シ本件係争地ニ關スル下戻ノ申請ヲナシタルコトナキヲ以テ原告千葉末吉ハ訴權ナシ而シテ原告八柳五兵衛渡邊宇太郎及大山清助ノ主張ヲ證セントスル甲第一二號證甲第七號證及甲第九號證ヲ見ルニ其成立ノ眞否ハ姑ク之ヲ措キ甲第一號證及甲第九號證ニハ單ニ石山一個所ト記載シアリ甲第七號證ニハ單ニ石山二個所内一個所春木ヶ澤内一個所堂ヶ澤ト記載シアアルノミニシテ其何レノ石山ナルカ分明ナラス甲第二號ニ記載シアアル字落シ口ハ一體ノ石山ニシテ其坑口モ多數存スルカ故ニ斯ル單純ノ記載ニテハ到底各自ノ證據カ各自ノ請求箇所ニ該當スルモノト認ムルヲ得ヌ又假ニ甲第一號證甲第七號證及甲第九號證ノ箇所カ原告等ノ主張スル箇所ニ相當スルトスルモ係争地ハ元來運上山ニシテ公地ニ屬シ個人ノ所有權ノ目的ト爲ルヘキモノニアラサレハ各證石山一個所トアルハ只其石山一個所ノ採掘權ヲ指シタルモノニシテ其所有權ヲ意味スルニアラス所有權ノ立證トシテハ何等ノ價值ナキモノナリ原告ノ請求相立タストノ判決ヲ乞フト云フニ在リ按スルニ國有土地森林原野下戻法第六條ニ依リハ下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其處分ニ不服

官有地下戻訴訟ノ要件



アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得トアリテ行政裁判所ニ出訴スルハ主務大臣ニ申請シ不許可ノ處分ヲ受ケタル後ナラサルヘカラス然ルニ原告千葉末吉ハ本件係争地ニ關シ下屆申請ヲ爲サハルニ依リ本訴ヲ提起スルノ權利ナシ而シテ原告八柳五兵衛渡邊宇太郎大山清助ハ甲第一二號證甲第七號證及甲第九號證ニ依リ其主張ヲ證セントスルモ本訴小字落シ口二十八番地ニ請求地ノ外多數ノ坑口アルハ原告モ認ムル事實ナルニ甲第一號證甲第九號證ニハ單ニ石山一个所トアリ甲第七號證ニ單ニ石山二个所内一个所春木ケ澤内一个所堂ケ澤トアルノミニシテ他ニ何等ノ記載ナク何レノ箇所ニ該當スルヤ知ルヘカラサレハ假ニ之ヲ正確トシ地盤ニ關スルモノトスルモ之ニ據リ原告ノ主張ヲ認メ難ク又甲第二號證ハ何等ノ依據スル所ナクシテ單ニ村長一個ノ記憶ヲ述ヘタルモノナレハ信憑スルニ足ラス依テ主文ノ如ク判決ス

●境界査定處分取消ノ訴 明治三十六年第三百四十四號 (請求相立) 明治三十八年十一月二十四日第一號宣告

判決要旨

一 大林區署長カ係争地ニ著シキ増歩アルノ一事ヲ以テ直チニ前査定處分ヲ取消シ其境界ヲ變更シタルハ不當ナリ

原告 長野縣北佐久郡小諸町二百六十六番地平民會社員 小山 五左衛門

訴訟代理人 淺 野 啓

被告 長野縣大林區署長 大林區署事務官

見

訴訟代理人 矢 部 隆

右當事者間ニ於ケル境界査定處分取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告申立ル要旨ハ長野縣北佐久郡小諸町字斧石ハ全部原告ノ所有地ニシテ其中央部ニ宅地及畑地ヲ有シ周圍ハ原野ナリ而シテ同町字高峰國有林ト隣接スルヲ以テ明治二十三年七月當該官廳ニ於テ右兩地間ノ境界ヲ査定セラレ確定シタルモノナルニ被告ハ明治三十六年四月再査定ヲ爲シ舊來ノ境界ヲ變更シ斧石ノ中央部一部分ノミ斧石トナシ其周圍ノ大部分ヲ國有林ト爲シタレトモ其査定ノ場所ハ何等特徵アルニアラス又新ナル事由ノ生シタルニモアラス只從前ノ査定ハ誤謬ナリト稱シ漫然新ニ標杭ヲ打チ之ヲ區劃セラレタルモノナリ抑官民有區分ノ査定ハ各個人間ノ境界ヲ確定スルト同ク一般ノ法則ニ從ヒ雙方ノ地勢事由ヲ參酌シテ定ムヘキモノニシテ官署ノ都合ニ依リ勝手ナル査定ヲ爲スヘキモノニアラス殊ニ一旦確定シタル境界ヲ變更スルニハ相當ノ事由ナカルヘカラス若シ再三査定ヲ行ヒ數々境界ヲ變更セラルハニ於テハ官地ニ接スル民有地ハ何ヲ以テカ安固ヲ保ツヲ得ン然ルニ本件ニ於テハ前段陳述スル如ク漫然確定ノ境界ヲ變更シ原告カ多年丹誠ヲ盡シテ大樹林ヲ培養シタルモノヲ殆ト十分ノ一ニモ足ラサル一小地ニ縮少シ其結果道路ニ接セサル袋地トセラレタルハ甚不當ナルヲ以テ被告ノ爲シタル再査定處分ヲ取消高峰國有林ト原告所有ノ字斧石甲四千七百六十七番トノ境界ハ明治二十三年七月施行ノ査定線即甲第三號證ノ境界線ニ依ルヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在リ

境界査定處分ノ取消



被告答辯ノ要旨ハ原告ハ多年丹誠ヲ盡シテ大樹林ヲ培養シタル箇所ヲ官地トシテ査定セラレタリト云フト雖乙第一號證ノ如ク原告ハ此附近一帯ノ土地ニ部分林植付ヲ出願シ認可ヲ得テ直ニ植付ニ着手シ乙第二號證ノ通明治十八年其植付了シタルモノニシテ原告所有地ナリト稱スル箇所ト此部分林トハ同一林相ニシテ毫モ差異アルナシ如斯事實ナルヲ以テ字斧石ニ小面積ノ所有地アルヲ奇貨トシ明治十九年地押調査ニ際シ漸次其所有地ヲ廣大ナラシメ自己ノ名義タル高峰部分林ヲ侵害シ遂ニ原告提出ノ甲第三號證ヲ作成スルニ至リタルモノナリ又原告ハ字斧石ノ地勢ハ斧形ノ大岩石其中ニ存在シ道路ニ沿フ一畫ノ地面云々ト云フモ乙第三號證地租改正圖ハ斧形石正ニ原告所有地以外ナルモノト立證シ乙第四號證ハ面積僅々一反六畝二十歩ナリシコトヲ證スルモノトス而シテ明治十九年地押調査ニ際シ乙第五號證ヲ作リ乙第六號證ノ如ク出願認可セラレタルモノニシテ一反六畝二十歩ノ土地カ一町歩トナリタルモ其境界ハ地租改正圖ニ依ル界線ヲ脱出スヘキモノニ非サルヤ論ヲ俟タス且前記證據書類ニ徴スルニ地租改正當時ニアリテハ字斧石ハ該民有地一筆存在セシノミニテ其周圍ハ大里村大字菱平字高峰官有地タリシモノニシテ現今右地番ノ外二甲又四千七百六十七番イ號宅地五畝歩同番口號畑五畝歩ノ二筆アルハ地押調査ノ當時脱落申請ノ手續ニ依リ公認セラレタルモノニシテ其位置ハ字斧石ノ範圍内ニ存在セリ以上ノ諸點ヨリ審按スルニ甲第三號證ハ全然信賴スル價值ナキモノナリ又原告ハ明治二十三年七月査定シタリト云フモ當時實地ノ調査ハ爲シタルモ境界ヲ確定シタルニアラス其他原告ノ立證ハ一モ主張ヲ確認スルニ足ルモノナキヲ以テ明治三十六年六月十七日被告カ原告ニ對シ發シタル境界査定處分ハ取消スヘキ

買

モニアラスト判決ヲ請フト云フニ在リ  
依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
第一被告ハ明治二十三年七月係争線ノ境界調査ヲ爲シタルコトアリシモ該境界ヲ確定シタルニ非スト主張スルモ甲第一號證ニ「去ル明治二十三年七月中施行セシ(中略)境界調査ハ誤謬有之ニ付之ヲ取消シ更ニ當年融雪ヲ待テ再査定施行可致候條云々追テ右再査定ハ林野法ニ依リ後日改メテ日ヲ期シ通告可致添テ申進候也」トアルニ依レハ明治二十三年七月中施行ノ境界調査ハ一應査定ヲ了シタルモノト認定セサルヲ得ス第二被告ハ原告ノ所有地ハ明治八年地租改正當時ハ乙第八號證ノ通ニシテ其反別ハ僅カニ一反六畝二十歩ナリシニ地押調査ニ際シ増歩ヲナシ一町歩トナセシノミナラス原告主張線ノ如キ境界ト爲ストキハ其反別著ク増加スト云フモ乙第三號證ハ被告主張線ニ該當セス亦實地ノ形狀ニモ適合セサル頗ル杜撰ノモノナレハ信用スルヲ得ス又原野ノ反別ノ確實ナラサルコトハ其類例不尠現ニ係争線ニ接續スル高峰國有林ニ於ケルモ著キ増歩アルハ被告モ争ハサル事實ナリ故ニ原告所有地カ著キ増歩アリトノ一事ヲ以テ直ニ前査定ヲ取消其境界ヲ變更シタルハ正當ノ處分ニアラス第三被告ハ原告カ明治二十三年調査圖ノ謄本ヲ請求シタルニ對シ下付ノ限ニ無之ト指令シタルニ依リ當裁判所ハ被告ニ提出ヲ命シタルモ紛失シタリト稱シ提出セサルヲ以テ知ルニ由ナシト雖右査定ト殆ト同時代ニ成立セル甲第五號證甲第三號證ノ圖面ニハ各所有地ノ境界ヲ明瞭ニ示セル線アルヲ以テ見レハ明治二十三年七月施行ノ査定ハ右兩圖ノ境界線ニ依リタルモノト推定スルニ足レリ

境界査定處分ノ取消



右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ  
被告カ明治三十七年六月十七日附信第五七號ヲ以テ原告ニ通告シタル信濃國北佐久郡小諸町字高  
峰園有林ト原告所有地トノ境界査定ヲ取消該境界ハ明治二十三年七月施行ノ査定線トス訴訟費用  
ハ被告ノ負擔トス

●境界査定處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第三百四十五號 明治三十八年十一月二十四日第一號宣告 (棄却)

判決要旨

一、國有林野ノ境界査定ヲ終了スルモ其ノ通知ヲ受ケサル以上  
ハ之ニ對シテ行政訴訟法ヲ提起スルコトヲ得ス

原告 長野縣北佐久郡小諸町二百六十六番地平民會社員 小山 五左衛門 訴訟代理人 淡 嶋 吾  
被告 長野縣區署長 大林區署事務官 戸 澤 重 見 訴訟代理人 矢 部 廉

右原告ヨリ被告ニ對スル境界査定處分取消ノ訴ニ付被告ハ妨訴抗辯ヲ爲セリ之ニ付審理ヲ遂クル  
處

被告抗辯ノ要旨ハ本件ハ明治三十六年四月中境界査定官吏ヨリ原告ニ對シ實地立會ヲ通告シ現場  
ヲ調査シタル結果原告主張ノ所有存在ヲ認ムヘキ確證ナキニ依リ不取敢之ヲ口達シ置キタルニ過

キス而シテ被告應ニ尙未タ審理中ニ屬スルヲ以テ原告ハ出訴シ得ヘキコトニアラサレハ本訴ハ棄  
却セラレタシト云フニ在リ

原告辯駁ノ要旨ハ被告ノ抗辯書中査定處分終了セストノ意味不明ナリ被告ハ査定處分決定通知書  
ヲ與ヘサルニヨリ其處分終了セストノ意ナリトセハ是査定處分終了セスト云フニアラスシテ單ニ  
通知ヲ與ヘスト云フニ過キス而シテ行政訴訟ノ提起期間ハ通知書ノ交付ノ日ヨリ起算セラルト雖  
是唯出訴時間ノ起算點ヲ定メラレタルニ止リ之ニ依テ出訴權ヲ發生スルモノニアラス故ラ査定處  
分其物カ終了セラレタル事實アルニ於テハ出訴スルニ妨クナキモノナレハ被告ノ抗辯ハ理由ナキ  
ヲ以テ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
國有林野ノ境界査定ハ國有林野法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ而シテ其境界査定ヲ終了シタルトキ  
ハ同法第五條ノ規定ニ依リ隣接地所有者ニ通告ヲ要スルモノトス然ルニ本件ハ未タ其通告ヲ爲サ  
ハルモノナレハ之ヲ終了シタリト謂フヲ得ス從テ原告ハ同法第七條ニ依リ出訴シ得サルモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

本訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●違法課稅取消ノ訴 明治三十八年第三百四十四號 (不受理) 明治三十八年十二月十一日第一號判決

判決要旨

稅務署長ノ處分ニ對スル行政訴訟



一、課稅物件ノ數量ニ關スル稅務署長ノ查定通知ヲ違法トシ之  
カ取消ノ訴訟ヲ提起スルニハ先ツ稅務監督局長ニ訴願シ其  
裁決ヲ受ケサルヘカラス

原告 濰州縣東濰井郡濰田村大字  
三田三十九番屋敷  
無限責任三田購買組合  
同組合長  
法定代理人 清水 定 松  
被告 長濱稅務署長  
矢部 成 行

右原告無限責任三田購買組合長清水定松ヨリ長濱稅務署長矢部成行ニ對スル違法課稅取消ノ訴訟  
訴狀ニ就テ審査スルニ  
本訴ハ被告カ明治三十八年六月二十日原告ノ所有スル鹽ノ數量ニ對シ爲シタル查定通知ヲ違法ナ  
リトシ之カ取消ヲ請求スルニ在レトモ右查定通知ニ付テハ地方上級廳タル稅務監督局ニ訴願シ其  
裁決ヲ經ルノ手續ヲ爲ササルモノナレハ即チ行政裁判法第十五條第一項ノ規定ニ違背セルモノナ  
ルヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

●郡會議員選舉ノ效力ニ關スル訴 明治三十七年第五百六十六號 (請求不立)  
明治三十八年十二月二十日第一號宣告

選舉ノ當日ヨリ一ケ年以前ニ郡内ノ土地ヲ買得シタル者ト  
雖モ所有權移轉土地臺帳ノ名義書換ノ手續ヲ爲シタル日ヨ  
リ起算シ選舉ノ當日迄一ケ年ニ滿タサルトキハ郡會議員ノ  
被選舉權ヲ有セス

原告 廣島縣參事會  
長井 孫 太郎  
廣島縣知事

被告 山 田 春 三

右當事者間ニ於ケル郡會議員選舉ノ效力ニ關スル訴審理ヲ遂クル處  
原告訴求ノ要旨ハ原告ハ國稅營業稅金三圓五十錢從來所有セル土地ノ地租金九十二錢明治三十五  
年一月松田伊太郎ヨリ買得シタル土地ノ地租金一圓三十六錢明治三十四年十二月長井ハツヨリ買  
得シタル土地ノ地租金二圓九十六錢一厘合計金八圓七十四錢一厘ノ直接國稅ヲ納ムル者ナルヲ以  
テ明治三十六年九月三十日執行シタル郡會議員ノ選舉ニ當選シタリ然ルニ訴外人川井讓ハ原告ヲ  
以テ直接國稅五圓以上ヲ納ムル者ニ非ストシテ郡參事會ニ異議申立ヲ爲シ郡參事會カ之ヲ排斥シ

郡會議員ノ被選資格



タルニ依リ更ニ縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ハ地租條例ニ依リ土地臺帳記名者ヨリ徵收シアラサル地租ヘ之ヲ認メストノ故ヲ以テ原告ノ當選ヲ無効トスト裁決シタルモ地租條例第十二條ノ規定ハ徵稅官カ地租ヲ徵收スル上ニ於テ適用スルモノニシテ決シテ選舉資格ノ要件タル納稅資格ヲ計算スルニ當リ之ヲ應用ス可キモノニアラス故ニ登記ヲ經サル土地ハ村役場ニ地租代納届ヲ提出シ村長カ之ヲ公認シテ徵收シタル地租ヲ納稅資格中ニ算入スルハ正當ナリ依テ被告縣參事會ノ裁決ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ地租條例第十二條ニ依リ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス可キモノナルニ原告等カ買得シタリト稱スル地所ハ土地臺帳ニ登錄セラレサリシモノナルニ原告ハ法律上納稅義務者ニアラス且原告主張ノ賣買契約モ公正證書ニアラサレハ當事者間ニ於テ何時ニテモ集意ニ作製シ得ヘキモノナレハ土地賣買シタリト稱スル事實モ確認スルニ足ラス要スルニ原告カ買得シタリト稱スル土地ニ對スル地租ハ到底原告ノ納稅額ニ算入ス可キモノニアラス隨テ原告ハ被選舉資格ヲ有セサルモノナレハ被告ノ裁決ハ正當ナリ依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ甲第一號乃至第六號證ヲ提出シ原告カ地所ヲ買得シタル明治三十四年十二月八日及同三十五年一月八日ニシテ該地所ニ對スル原告ノ納稅義務ハ之ト共ニ發生シタルモノナレハ選舉當日ヨリ前ニ遡リ滿一一年以上繼續シテ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ナリト云フモ原告ハ選舉當日ヨリ既往ニ遡リ一ヶ月前ニ於テ買得シタル地所ノ所有權移轉ノ手續ヲ爲サレハ郡制第一

六條第二項ニ所謂一年以來云々ノ規定ニ該當スル者ニアラス隨テ郡會議員ノ被選舉權ヲ有スル者ト云フヲ得ス故ニ被告縣參事會ノ裁決ハ結局相當ニシテ取消ス可キ限ニアラス其他原告ニ於テ尙ホ陳述スル所アルモ裁決ニ必要ナキヲ以テ逐一説明ヲ爲サス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●郡會議員得票無効ノ訴 明治三十七年第四百三十二號 明治三十八年十一月二十日第一號第一審宣告 (請求不立)

判決要旨

一、町村制第六十四條第一項ノ規定ニ依ラサル區長ハ縱令區長ノ名アルモ同制第七十三條ニ該當セス從テ郡會議員ノ被選舉權ヲ有スルモノトス

(參照) 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ各職トス(町村制第六十四條第一項)  
區長及其代理者ハ町村長ノ關機トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス(町村制第七十三條)

新潟縣佐渡郡二見村大字二見 九十二番戸平民院物商  
原告 告 市野重太郎

町村區長ノ郡會議員被選舉權



例判政行卷七拾第報彙判例

右當事者間ニ於ケル郡會議員得票無効ノ訴原被雙方ヨリ書面審理ノ申立ヲ爲シタルニ依リ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十六年九月二十日舉行セシ郡會議員第二區選舉ニ於テ候補者大場辻藏ト原告トノ競争ノ結果大場辻藏ノ得票高點ナリシモ大場辻藏ハ公設五十里區ノ區長トシテ其所有財產ヲ管掌スル事實アルノミナラス町村制第七十三條ニ依リ町長ノ指揮命令ヲ受ケ行政事務ニ從事ス可キ職責アル者ト認メラレ郡制第六條第八項選舉事務ニ關係アル吏員ナリトシ同制第十七條ニ依リ之ヲ否認シテ其得票ヲ無効ト爲シ次點者原告ヲ當選者ト決定セラレタリ而シテ佐渡郡參事會モ亦之ヲ認メ區長タル大場辻藏ハ被選舉權ヲ有セサルモノト決定シタルモ被告縣參事會ハ之ニ反シ五十里區ハ特別ナル區有財產ノ爲メ町村制第一百四條ニ依リ設ケタルモノニシテ町村行政事務ノ爲メ同制第六十四條ニ依リ設ケタルモノニアラザレハ其區長ハ町村行政事務ニ關係ナク隨テ同制第七十三條ニ依リ町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノニアラスシテ郡制第六條第八項ニ該當セサルモノナリト裁決シタルモ是レ其當ヲ得サルモノナルニ依リ被告參事會ノ裁決ヲ取消シ原告ノ當選ヲ正當ナリトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

爲メ五十里區限リ便宜上區長ヲ設ケタルモノナレハ區長ノ名アルモ之ヲ以テ直チニ町村制ニ所謂町長ト認メ難キモノナリ故ニ郡制第六條ノ選舉事務ニ關係アル吏員トアルニ該當スヘキモノニアラス依テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ大場辻藏ハ町村制第六十四條第二項ノ手續ニ依リ選舉セラレタルモノナレハ法律上ノ區長ニシテ同制第七十三條ニ該當スルモノナリト云フモ同制第六十四條第二項ハ區長選舉ノ手續ヲ規定シタルニ過キスシテ區長ノ設置ニ付テハ同條第一項ノ規定ニ依ラサル可カラズ然ルニ本件區長ノ設置ハ該規定ニ依リタルモノト認ムルニ足ル可キ確證ナシ然レハ大場辻藏ハ假令區長ノ名アリトスルモ其實町村制ニ所謂區長ナリト云フヲ得サルカ故ニ同制第七十三條ニ該當セサルモノニシテ被選舉權ヲ有セサルモノニアラス依テ被告縣參事會ノ裁決ハ相當ニシテ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由チルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●所得金額決定ニ對スル不當裁決取消ノ訴 明治三十八年第三百四號 (却下)  
明治三十八年十一月二十日第一號

判決要旨

一、稅務監督局長ノ所得金額決定ヲ不當トシ大藏大臣ニ訴願シ

町村區長ノ郡會議員被選舉權

五



タル者ハ縱令其裁決ニ不服アルモ行政訴訟ヲ提起スルコト  
ヲ得ス

長崎縣北松浦郡神浦村  
三百六十番戸平民巖

原告 福田直吉

大藏大臣男爵

被告 會 福 荒 助

右原告福田直吉ヨリ被告大藏大臣男爵會福荒助ニ對スル所得金額決定ニ對スル不當裁決取消ノ訴  
訴狀ニ就キ審査スルニ

本件訴訟ハ原告カ長崎稅務監督局長ヨリ所得金額決定ノ通知ヲ受ケ之ヲ不當トシテ大藏大臣ニ訴  
願シ其裁決ニ不服ナルヲ以テ提起シタルモノナレハ行政裁判法第十七條末項ノ規定ニ該當シ行政  
訴訟ヲ提起シ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

●戸數割賦課不當ノ訴 明治三十七年第一〇八七號 明治三十八年十一月十三日判決 (請求相立)

判決要旨

一、戸數割(明治十三年布告第十六)ハ戸主家族又ハ本籍寄留ヲ問ハス一

戸ヲ構フルモノニ限り之ヲ賦課スヘク若干ノ賄料ヲ支辨  
人ノ家ニ同居スル者ニ賦課スルモノニアラス

和歌山縣那賀郡田中村新聞記者

原告 前川 虎造

岡山縣參事會岡山縣知事

被告 會 檜 垣 直 右

岡山縣屬 河合 春吉

右當事者間ノ戸數割賦課不當ノ訴審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ原告ハ明治三十六年四月ヨリ岡山市大字下田町一番地ニ家屋ヲ借り受ケ明治三  
十七年二月下旬マテ居住シ同年度下半年期ニ於ケル戸數割ノ賦課ヲ受ケ居リシモ同年三月ヨリ同町  
十一番地旅人宿業杉本ノ方ニ止宿シ一定ノ宿料ヲ支辨スル身トナリシニ岡山市役所ハ尙ホ戸數  
割負擔ノ義務アルモノトシ明治三十七年度前期分ノ賦課ヲ爲シタリ依テ原告ハ府縣制第四百條及  
ヒ第五百條ノ規定ハ原告ノ如キ宿泊人ニ戸數割ヲ賦課スヘキモノニアラサレハ府縣制ノ規定ニ準  
シ縣參事會ニ異議ノ申立ヲ爲シタルニ被告ハ原告ニ戸數割ヲ賦課セシハ正當ニシテ理由ナシトシ  
決定ヲ與ヘタリ然レトモ原告ハ現ニ當時旅人宿業タル杉本ノ方ニ止宿シ居リシ者ニシテ一戸ヲ  
形成シ居リシ者ニアラサレハ戸數割ノ賦課ヲ受ク可キ身分ニアラス即チ明治三十七年四月二十五  
日行政裁判所ノ判決例ハ明カニ原告ノ如キ宿泊者ニ對シ縣稅ヲ賦課スヘキモノニ非ラサル事ヲ確  
實ニ保證スルモノナリ以上ノ次第ナルヲ以テ右被告ノ本件ニ對スル決定ヲ取消シ岡山市役所カ原

戸數割ノ賦課







●漁業免許取消請求ノ訴 明治三十六年第四百五十三號  
明治三十八年十二月二十五日第一審官告

判決要旨

一、行政官廳カ從來ノ慣行ニ依ラサル新規ノ漁業免許ヲ與ヘタル場合ト雖モ他人ノ漁業權ヲ侵害セサル以上ハ之ヲ目シテ違法處分ナリト云フヲ得ス

京都府加佐郡東大浦村字田井  
五十七番地平民漁業

原告 告 倉内 田ノ

外八名

訴訟代理人 奥三郎

被告 京都府知事 大森 健一

訴訟代理人 藤川中 野充 安一

京都府加佐郡東大浦村字成生  
二番地

從參加人 高井 定五郎

訴訟代理人 太田 資時

外十九名

右當事者間ノ漁業免許取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ

一、原告共ハ京都府加佐郡東大浦村大字成生地先ニ於テ舊慣ニ依リ往古ヨリ漁具ヲ定置シ漁業ヲ

營ミ居ルモノニテ則チ同地先字サカキニ於テ原告倉内ヨシハ鯉刺網ヲ定置シ字丸島ニ於テ原告倉内榮太郎同倉内定三郎ハ共同ニテ鯉刺網ヲ定置シ又同所ニ於テ右兩人共同ニテ柔魚落網ヲ定置シ字石ヶ濱ニ於テ原告倉内定三郎ハ鯉刺網並ニ柔魚落網ヲ定置シ字福良ニ於テ原告倉内ヨシ同言上權次郎ト共同ニテ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網ヲ定置シ字オモアシニ於テ原告倉内ヨシ同倉内榮太郎ハ共同ニテ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網ヲ定置シ字桃崎ニ於テ原告嵯峨根松兵衛ハ柔魚ノ落網ヲ定置シ字風島ニ於テ原告倉内ヨシ同倉内榮太郎ハ鯉刺網ヲ定置シ字宮ヶ崎ニ於テ原告倉内定三郎ハ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網ヲ定置シ字スビスカ濱ニ於テ原告倉内定三郎ハ柔魚ノ落網ヲ定置シ字木ノ下ニ於テ原告倉内定三郎ハ鯉刺網ヲ定置シ字立栗ニ於テ原告言上權次郎ハ立網大敷ヲ定置シ同字ニ於テ原告嵯峨根孫兵衛ハ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網ヲ定置シ字小崎ニ於テ原告水上與兵衛同赤井千代太郎ハ共同ニテ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網ヲ定置シ同字ニ於テ原告水上與兵衛同倉内ヨシハ共同ニテ鯉刺網ヲ定置シ字木ノ下ニ於テ原告水上増太郎同倉内榮太郎ハ共同ニテ立網大敷ヲ定置シ字立栗ニ於テ原告倉内ヨシ同田中仲左衛門ハ共同ニテ鯉刺網並ニ柔魚ノ落網並ニ刺網ヲ定置シ居ルモノニシテ去ル明治三十一年ニモ漁業免許ノ登錄ヲ受ケ尙ホ亦漁業法施行後即チ明治三十五年十二月ヨリ明治三十六年三四月ニ至ル間ニ於テ從來ノ慣行ニ基キ以上ノ場所ニ於テ右ノ漁具ヲ定置シ漁業ヲ營ムノ免許ヲ受ケタルモノニシテ漁具定置ノ場所ニ來ルヘキ魚族ノ通路ハ常ニ一定シ居ルモノナレハ其通路ヲ阻害サル、トキハ直ニ免許ニヨリ得タル漁業權ヲ侵害サルヘキ結果ヲ惹起スヘキモノトス

戶數制ノ賦課慣行ニ依ラサル漁業免許



一 本件免許ノ取消ヲ求ムル漁場ハ前項記載ノ原告カ既ニ免許ヲ得タル漁場十九ヶ所ノ間ニ點々散在シテ新規ニ免許ヲ與ヘラレタルモノニシテ何レモ原告共ノ漁場ニ於ケル魚族ノ通路ノ要所ヲ扼シテ漁場ヲ設クルモノナルヲ以テ原告共ノ漁場ニ來ルヘキ魚族ヲ其中途ニ於テ殆ント漁シ盡クス結果ヲ惹起シ原告共既得ノ漁業權ヲ侵害セラル、コト鮮ナカラス

一 右ノ如ク被告ハ原告カ從來ノ慣行ニ基キ取得シタル既得ノ漁業權ノ存スルヲモ顧ミス其權利ヲ侵害スル結果ヲ惹起スヘキ箇所ニ於テ更ニ他人ニ漁業ノ免許ヲ與ヘタルハ是即違法ノ處分ナルニ付被告ノ與ヘタル左ノ免許ヲ取消スヘシトノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ

免許業目略

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ被告カ京都府加佐郡東大浦大字成生地先ニ於テ同村大字成生漁業者上野貞藏外十六名ニ左記漁業ノ免許ヲ與ヘタルハ原告カ從來慣行ニ基キ免許ヲ得タル同地先ニ於ケル倉内ヨシ外八名ノ定置漁業ノ場所ニ來ルヘキ魚族ノ通路ヲ阻害シ既得ノ漁業權ヲ侵害スルノ結果ヲ惹起シ即違法ノ處分ナルヲ以テ被告カ與ヘタル前記漁業免許ヲ取消スヘシト云フト雖本來本件漁業ヲ免許シタルハ其處分ノ内京都府加佐郡東大浦村大字成生小字奈良ニ於テ同村成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字葛島ニ於テ同村同字十一番戸水島小兵衛ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字葛島ニ於テ同村同字九番戸水島春藏ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字葛島ニ於テ同村同字二十一番戸高井安藏ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字石ヶ濱松ヶ崎ニ於テ同村同字二十番戸市瀬平右衛門ニ與ヘタル柔魚落網付締網ノ漁業同所小字磯島ニ於テ同村同字十六番

戸市瀬幸吉ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字溝尻カツ崎ニ於テ同村同字六番戸高井字吉ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字磯島ニ於テ同村同字二十番戸市瀬平右衛門ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字石ヶ濱馬栗ニ於テ同村同字二番戸高井定五郎ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字黒地小崎ニ於テ同村同字十九番戸上野貞藏ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字溝尻カツ崎ニ於テ同村同字三番戸代表者高井幸太郎ニ與ヘタル鯉ノ落網ノ漁業同所小字風島ニ於テ同村同字二十二番戸上野定吉ニ與ヘタル鯉落網ノ漁業同所小字桃崎ニ於テ同村同字四番戸高井増藏ニ與ヘタル鯉落網ノ漁業同所小字葛島ナベ栗崎ニ於テ同村成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與ヘタル鯉刺網定置漁場十四ヶ所同小字葛島スベ栗崎ニ於テ同村成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與ヘタル落付大敷網ノ漁業同所小字葛島ニ於テ同村成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業ハ從來慣行ノ事實ヲ認メ漁業法第三十四條ニ基キ免許ヲ與ヘタルモノニシテ本件ニ關シテハ行政官廳ハ苟クモ慣行ノ事實アルモノト認ムルトキハ必ス免許ヲ與ヘサルヘカラサルハ法律ノ規程ニシテ是等ハ特ニ魚道ノ阻害如何ヲ論スヘキ限リノモノニアラス況ンヤ從來ノ實歴ニ照シ魚道ヲ侵害スル患ナキモノニ於テオヤ

又免許處分ノ内京都府加佐郡大浦村大字成生小字磯島ニ於テ同村同字十九番戸上野貞藏ニ與ヘタル柔魚落網付締網漁業同所小字平栗ニ於テ同村同字五番戸高井友三郎ニ與ヘタル柔魚落網付締網漁業同所小字福浦下栗ニ於テ同村同字十五番戸市瀬定次郎ニ與ヘタル柔魚落網付締網漁業同所小字鼻杉網栗ニ於テ同村同字四番戸高井増藏ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業同所小字溝尻カツ崎下栗ニ於テ



六

同村同字五番戸高井友三郎ニ與ヘタル鯉刺網漁業同所小字溝尻カッ崎ニ於テ同村同字八番戸中川  
 渡次郎ニ與ヘタル柔魚落付縮網漁業同所小字水走ニ於テ同村同字十八番戸市瀬萬吉ニ與ヘタル柔  
 魚落網付縮網ノ漁業同所小字櫻濱小屋坊ニ於テ同村同字二十二番戸上野定吉ニ與ヘタル柔魚落付  
 縮網ノ漁業ハ漁業者ニ於テ制規ノ手續ヲ經テ被告ニ出願シタルヲ以テ被告ハ實地検査ノ結果原告  
 定置漁業ノ魚道ヲ侵害スルモノト認メサルニ由リ之ニ免許ヲ與ヘタルモノナリ故ニ被告ハ違法ノ  
 免許ヲ爲シ原告ノ權利ヲ傷害シタルモノニアラス前記理由ノ如ク第一其多數ハ慣行ニ依リ免許シ  
 タルモノナリ第二新規免許ノモノモ魚道ヲ侵害スヘキモノニアラスシテ共ニ違法ノ處置ニアラス  
 故ニ原告請求棄却ノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ  
 從參加人陳述ノ要旨ハ原告ハ被告カ從參加人ニ漁業免許ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フモ違法ノ點  
 ヲ立證セス又慣行ナシト云フモ慣行ノ有無ハ行政廳ノ認定權ニ屬スルモノナリ又原告ハ從參加人  
 ノ漁業カ原告漁業ノ魚道ヲ侵害スト云フモ海灣ニハ魚道ナキモノナリ因テ原告請求相立タストノ  
 判決ヲ求ムト謂フニ在リ  
 因テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 原告ハ甲第一號證ヲ提出シ被告カ從參加人ニ與ヘタル本訴漁業免許ハ慣行ニ依ラサル新規免許ニ  
 シテ原告カ既得漁業ノ魚道ヲ侵害スル違法處分ナリト云フモ甲第一號證ハ文政三年ノ裁許繪圖ナ  
 レハ該證成立後新タニ漁業ノ慣行ヲ生シタルコトナシト謂フヘカラス隨テ該證ニ記載ナキヲ以テ  
 直チニ漁業ノ慣行ナキモノト斷定シ難シ而シテ被告カ從參加人成生漁業組合理事水島小兵衛ニ與

ヘタル鯉刺網定置漁業落付大敷網ノ漁業鯉刺網ノ漁業從參加人水島小兵衛外九名ニ與ヘタル鯉刺  
 漁業同市瀬平右衛門ニ與ヘタル柔魚落付縮網ノ漁業同高井幸太郎ニ與ヘタル鮎ノ落網ノ漁業同上  
 野定吉外一名ニ與ヘタル鯉落網ノ漁業ニ付テハ被告ハ乙第一號證乙第二號證ノ如ク實地ニ就ク慣  
 行ノ有無等ヲ調査シ所轄村長ノ上申ニ參照シ從參加人ニ從來漁業ノ慣行アル事實ヲ認メ漁業法第  
 三十四條ニ依リ免許ヲ與ヘタルモノニシテ其免許ニ不當ト認ムヘキ點ナケレハ之ヲ違法處分ナリ  
 ト謂フヲ得ス又被告カ從參加人上野貞藏外五名ニ與ヘタル柔魚落網付縮網漁業同高井增藏外一名  
 ニ與ヘタル鯉刺網ノ漁業ハ慣行ニ依ラサル新規免許ナルモ漁業法其他ノ法令中新規ノ免許ヲ與フ  
 ハカラサル規定ナク且被告ハ實地ニ就キ原告漁業ノ魚道ヲ侵害セサルコトヲ認メ免許ヲ與ヘタル  
 モハナレハ之レヲ違法處分ナリト謂フヲ得ス  
 右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ  
 原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

營業稅課稅標準決定取消請求ノ訴 明治三十八年十二月二十五日第一號部宣告 (請求不立)

判決要旨

- 一 船渠業及ヒ製造業ハ二箇各別ノ營業ナリトス
- 一 船渠業ト製造業トハ二者各別ノ營業ナリト雖モ之ヲ兼營セ

船渠業ト製造業ト兼營シ製造業ノ兼營ト課稅標準ノ算定

七



ル株式會社カ資本金額ノ區別ヲ爲サ、ルトキハ二箇ノ營業ニ對シ各別ノ課稅標準ヲ定ムルコトヲ得ス

北海道函館區辨天町 八十八番地

原告 函館船渠株式會社

同會社取締役

法定代理人 岡田實徳

札幌稅務監督局長

被告 告楠正篤

訴訟代理人 一色養山

八木橋榮吉 高野金重

右當事者間ニ於ケル營業稅課稅標準決定取消請求ノ訴審理ヲ遂ケル處

原告陳述ノ要旨ハ原告會社ハ船渠船架並ニ造船臺及ヒ鐵工場ヲ建設シ船舶ノ新造修理機關諸器械ノ新造修理等ノ營業ヲ爲スヲ目的トシテ明治二十九年十一月ニ成立シ爾來船渠ノ築造工場ノ建設ニ着手シタルモ明治三十四年度ニ於テハ工事中ニ屬シ未タ竣工ノ運ニ至ラザリキ原告會社ノ主要ノ目的ハ船渠業ナルモ前述ノ如ク船渠ノ築造ヲ完成セサルカ故ニ船渠業ヲ開始スルニ至ラス而シテ明治三十年四月會社ハ株主總會ノ決議ヲ經テ資本金ノ内十五萬圓迄ヲ限度トシ支出流用シ函館眞砂町ニ在ル舊函館造船所ヲ買収シ原告會社分工場ノ名稱ヲ以テ造船所ノ營業ヲ繼續シ船舶及ヒ機關諸器械ノ製造修繕ヲ業トスル事トナレリ船渠業ハ未タ開始ノ運ニ至ラザリシモ船舶機關及ヒ諸機械製造修繕ノ業ヲ繼續シ原告會社ノ分工場トシテ業ヲ執ルニ至リシヲ以テ會社ハ製造業者ト

シテ資本金ヲ七萬四千八百八十五圓七十五錢六厘トシ營業稅課稅標準ノ届出ヲ爲シ爾來此標準ニ基キ納稅シ來レリ原告會社ノ資本金額ハ百二十萬圓ニシテ拂込濟ノ分七十一萬三百圓十八錢ナルモ其資本ハ殆シト悉ク船渠工事ニ使用セラレ分工場ノ製造業ニ支出流用セラレタルハ僅ニ其一部分タル十五萬圓ニ過キス而シテ船渠事業ト製造事業即チ分工場トノ間ニハ明確ナル經濟上ノ區域アリテ互ニ交叉混淆スルコトナシ右ノ次第ナルニ明治三十六年六月十一日函館稅務署長ハ原告會社ニ對シ營業稅課稅標準決定通知書ヲ發シ原告會社ノ資本金拂込濟ノ分即チ金七十一萬三百圓十八錢ノ全部ニ對シ課稅スヘキ旨ノ通知ヲ爲シタルヲ以テ原告會社ハ營業稅法第二十七條ニ因リ異議ノ申立ヲ爲シタルニ被告ハ其異議ヲ排斥シタリ是原告カ本訴ヲ提起スルニ至リタル次第ニシテ其理由ハ第一營業稅法第二十條ニ依レハ「營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月十一月ヲ以テ納期トス」トアリ而シテ本件明治三十四年度ノ營業稅ハ其納期ニ於テ已ニ納稅ヲ終リタルモノナリカ故ニ其後ニ至リ資本ノ増加若クハ營業ノ情況ニ變更ヲ生スルモ其追徵ヲ爲スヲ得サルハ勿論其當時ノ資本及營業ノ情況ニ因リ既ニ徵收シタル以上ノ課稅ヲ爲スヘカリシモノト雖モ其處分ノ完了シタル後ニ至リ處分ヲ變更シ更ニ營業稅ヲ賦課スルヲ得サルハ論ヲ俟タサル所ナリ第二原告會社ハ製造業者トシテ營業稅課稅標準ノ届出ヲ爲シ而シテ實際ニ於テモ其主要ノ事業ナル船渠業ヲ開始セサルカ故ニ只其製造業ニ要スル資本ニノミ課稅スヘキモノニシテ製造業ニ何等ノ關係ナキ資本即チ船渠ノ築造ニ使用サレツ、アル資本ニ課稅スルヘ不當ナリ第三營業稅法第二十一條ニ因レハ船渠業ハ其開業ノ翌年ヨリ尙ホ三ヶ年間ハ營業稅ヲ免除セラル、モノトストアリ然ルニ被告決定

船渠業ト製造業ト製造業ノ營業ト課稅標準ノ算定

六



ノ如ク原告會社ノ拂込資本全部即船渠築造ニ使用セラレツ、アル資本ニ對シ課税セラル、ニ至レハ原告會社ハ營業税法第二十一條ニ因リテ得ヘキ權利ヲ剝奪セラル、ニ至ル要スルニ營業税賦課ノ標準ト爲ルヘキ資本ハ其ノ營業ノ爲ニ使用セラレツ、アル資本ニ限ルヘキモノニシテ從テ原告會社ノ製造業即テ分工場ニ使用セラレツ、アル資本ヲ量定シ之ヲ標準トスヘキモノトス依テ被告カ明治三十六年十一月二十七日原告ニ對シ爲シタル原告會社ノ資本金額七十二万三百圓十八錢ヲ標準トシ營業税ヲ賦課スヘキ旨ノ決定ハ之ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辭ノ要旨ハ原告會社ハ船舶機關諸器械ノ新造修繕ヲ爲スヲ營業ノ目的トシ明治二十九年十一月成立以來製造場ノ建設中明治三十年七月ニ於テ舊國館造船所即チ渡邊熊四郎外二名ノ所有ニ係ル眞砂町一番地製造場ヲ讓受ケ其ノ業務ヲ繼承シ國館船渠株式會社眞砂町分工場トシテ原告會社營業ノ目的タル船舶機關諸器械ノ製造修繕ノ業務ヲ開始シタリ原告會社ノ目的トスル營業ハ其定款ニ示スカ如ク船舶機關諸器械ノ製造修繕ニアリ而シテ原告會社ハ明治二十九年成立シタルモ直チニ營業ヲ開始セス明治三十年七月ニ於テ原告會社ノ目的トスル營業ト同一ナル營業即チ渡邊熊四郎外二名ノ製造業ヲ繼續シタルヲ以テ營業税法第二十三條ニヨリ原告會社ハ製造業者トシテ營業税ノ賦課ヲ受クルニ至レリ原告ハ營業税法第二十三條ノ繼續營業者ナルヲ以テ爾後年々營業名及課税標準ノ届出ヲナシ來レリ而シテ原告ハ株式會社ナルカ故ニ其資本金額ハ營業税法施行規則第五條ニヨリ計算スヘキモノナルニ明治三十六年分課税標準ハ資本金額七萬四千八百八十五圓七十五錢六厘建物賃借價格六千四百六十六圓八十七錢八厘從業者百三十二人内職工勞役者百十四

人トシテ申告シタリ然ニ國館稅務署長ハ原告ノ申告ハ營業税法施行規則第五條及第十二條ノ計算ニ依據セザリシ事實ヲ發見シタルヲ以テ明治三十六年六月十一日更ニ原告會社ニ對シ三十四年營業課税標準即チ資本金額七十一萬三百圓十八錢建物賃借價格六千四百六十六圓八十七錢八厘從業者百九十六人内職工勞役者百七十四人ト算定通知セリ原告ハ國館稅務署長ノ爲シタル算定通知ニ對シ資本金額ニ異議アリトノ審査ヲ請求シタルニ依リ被告ハ其ノ事實ヲ審査シタルニ國館稅務署長ノ爲シタル算定ハ原告ノ提出シタル第八回第九回報告ニ基キ營業税法施行規則第五條ニ依據シタル適法ノモノナルヲ以テ審査委員會ニ諮問シ明治三十六年十一月二十七日國館稅務署長ノ爲シタル算定ト同一ナル課税標準即チ資本金七十一萬三百圓十八錢ト決定通知セリ原告ハ納期ヲ過クシハ直チニ納税義務完了スルカ如ク主張スト雖モ營業税法第二十條ハ納期ヲ一定シタル規定ニ過キスシテ納税義務ノ終了如何ト何等關係ヲ有スルモノニアラス何トナレハ營業税ハ課税標準ノ基礎ヲ前年ノ事實ニ採リシコトハ該法第十六條ニ明ニシテ一旦法定納期ニ於テ完納シタル後ト雖モ若シ其事實ニ相違アルコトヲ發見スルニ於テハ之レカ變更ヲナスハ當然ニシテ而カモ會計法ノ時效ヲ經過セサル以上ハ其正當ナル事實ニ基キ適實ニ課税標準ヲ算定シ之ニ據リ税金ヲ追徴スヘキモノナルハ毫モ疑ノ存セサル所ナリ原告ハ營業税法第二十三條ニ依リ繼續營業ナルヲ以テ繼續ノ事實アリシ以後營業税納付ノ義務アルコトハ既ニ之ヲ認メタリ而シテ原告ノ三十四年營業税課税標準ノ申告ハ全ク事實ニアラサル不當ノモノナリシ事ヲ發見シタルヲ以テ國館稅務署長ハ營業税法施行規則第十六條ニ依リ算定シ法第二十六條ニ依リ原告ニ之ヲ通知シタルモノニシテ適法

船渠築造製造業○船渠築造製造業ノ兼管ト課税標準ノ算定



ノ處分ナリ從テ被告カ審査請求ニ對シ與ヘタル決定モ亦相當ナリトス原告ハ會社ノ目的ハスル營業  
業ハ船渠業ニシテ眞砂町分工場ノ營業ハ製造業ナリト主張セリ然レトモ原告ノ目的トスル營業モ  
眞砂町分工場ノ營業モ全然同一ニシテ均シク船舶機關諸器械ノ製造修繕ヲ營業トセルモノニシテ  
其間何等ノ差異ナキハ定款ニ依リテ明カナリ然ルニ原告ハ前者ヲ製造業トシ後者ヲ船渠業トナサ  
ントスルハ事實ニ於テ矛盾スルモノト云ハサルハカラス假リニ原告ノ主張スルカ如ク後者ヲ船渠  
業ナリトスルモ資本金額ノ計算ハ株式會社ナルカ故ニ營業稅法施行規則第五條ニ依據スヘキモノ  
ニシテ更ニ資本區分ノ有無ヲ爭フノ要ナシ原告ハ營業稅ノ課稅標準トスヘキ資本金額ハ現實ニ使  
用シタルモノヲ量定スヘキモノナリト主張スト雖モ既ニ株式會社タル以上ハ之カ資本金額ノ計算  
ハ全然營業稅法施行規則第五條ニ依據セサル可カラズシテ別ニ資本ノ用途如何ヲ云々スルノ要ナ  
シ以上陳述ノ次第ナレハ原告請求相立タストノ裁判ヲ乞フト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
本訴裁判上ノ要點ハ本件船渠業及製造業ニ對スル營業稅ハ各別ノ課稅標準ニ依リ賦課ス可キモノ  
ナルヤ否ニ在リ依テ審査スルハ船渠業製造業ナルモノハ其性質上及營業稅法上二箇各別ノ營業ナ  
リト言ハサルヘカラス而シテ原告會社ハ其定款第三條ニ依リ二箇ノ營業ヲ兼業スルモノト認ムル  
ヲ以テ相當トス故ニ各別獨立ノ營業ニ非スト云フ此點ニ對スル被告ノ主張ハ理由ナシ然レト原告  
會社ノ定款及目論見書ナルモノニ依ルニ課稅ノ標準ト爲ルヘキ資本金額ノ區別及其使用ノ區別ナ  
キヲ以テ事實上二箇ノ營業ニ對シテハ各別ノ課稅標準ヲ設定スルコトヲ得サルモノナレハ被告カ

營業稅法施行規則第五條ノ規定ニ依リ算定セラレタル課稅標準ニ關スル本件決定ハ相當ニシテ之  
ヲ取消スヘキ限ニ在ラス以上ノ理由ニ依リ原告ノ所謂製造業ノ運轉資本タル七万四千八百餘圓ヲ  
標準トシテ課稅セラルヘキモノナリト云フ原告ノ主張ハ之ヲ採用スルニ由ナキモノトス又原告ハ  
既ニ法定ノ納期ニ納稅ヲ終了シタルモノナレハ後ニ誤謬等ヲ發見スルモ更ニ追徵ヲ爲スヲ得スト  
主張スルモ納期ノ終了ノ爲メニ當然負擔スヘキ納稅義務ノ消滅スヘキ理由ナキモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ、

原告ノ請求相立タス 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●縣稅戶數割賦課取消ノ訴 明治三十七年第五百五十六號 (請求不立) 明治三十九年三月五日判 決

判決要旨

- 一、戶數割ハ本籍寄留ヲ不問特ニ戶竈ヲ構ヘ居ヲ占ムル者ニ對シ之ヲ賦課ス
- 一、他人ノ家屋内ヲ釘付ケノ建具類ヲ以テ之ヲ區劃シ其ノ一部ヲ借受ケ辯護士事務ヲ取扱フ場所ト定メ同所ニ寢食ヲ爲シ現ニ竈ヲモ備付タルトキハ出張事務所タルト本事務所タルトヲ問ハス又タ假リノ住居タルト永久ノ住居タルトヲ區タ

船渠業ト製造業○船渠業製造業ノ兼業ト課稅標準ノ算定



ス之ニ對シテ戸數割ノ負擔ヲ免カル、コトヲ得ス

兵庫縣津名郡洲本町  
士族辯護士

原告 高田直次郎

兵庫縣津名郡  
兵庫縣知事

被告 兵庫縣知事

訴訟代理人 一 赤池信一

右當事者間ノ縣稅戸數割賦課取消ノ訴訟事件ニ付原告ノ書面ニ就キ被告ノ陳述ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

原告ノ請求相立タス 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理 由

原告ニ於テハ原告ハ兵庫縣津名郡洲本町ノ内上清水町十六番屋敷藤田庄平方ニ於テ賄ヲ受ケ同所ノ内上清水町三十一番屋敷ニ建設シアル家屋ノ一部ヲ借受ケ出張シ辯護士事務ヲ取扱フモノニシテ竈ヲ異ニシ居ヲ占ムルモノニアラサルヲ以テ本件ノ戸數割ヲ賦課セラルヘキ理由ナシト主張シ被告ニ於テハ原告ハ明治三十六年九月以來洲本町ノ内上清水町三十一番屋敷ニ建設シアル家屋ヲ借受ケ辯護士事務所ヲ設置シ同所ニ現住シ寢食ヲ爲シ而シテ該家屋ハ一棟ナルモ内部ハ建具襖ヲ釘付トシテ二戸ニ區割シ原告ハ其一戸ヲ借受ケ現ニ右家屋ニ竈ヲモ備付ケアリ偶々原告カ獨身

生活ノ都合上之ヲ使用セサルモ他ヨリ賄ヲ受ケ其料金を支拂ヒ至ク獨立ノ生計ヲ營ミ以テ一戸ヲ構フルモノナレハ本件ノ戸數割ヲ賦課セラルヘキハ當然ナリト答辯セリ按スルニ原告ハ洲本町ノ内上清水町三十一番屋敷ニ建設シアル家屋ヲ區割シテ其一部ヲ借受ケ辯護士ノ事務所ヲ取扱フ場所ト爲セルコトハ自認スル所ニシテ而シテ原告カ右家屋ニ於テ寢食ヲ爲シ現ニ竈ヲモ備付ケアリテ偶々原告カ獨身生活ノ都合上之ヲ使用セサルハミトノ被告事實上ノ主張ニ對シ原告ニ於テ論争スル所ナシ以上諸般ノ事實ヲ綜合スレハ原告ハ明治三十六年九月以來前記ノ場所ヲ以テ辯護士ノ事務所ヲ取扱フ所ト定メ同所ニ於テ寢食ヲ爲シ以テ茲ニ一戸ヲ構ヘタルモノト認ムルヲ相當トス然レハ原告ハ明治三十五年兵庫縣令第十六號郡部縣稅賦課規則ニ依リ本件戸數割ノ賦課ヲ受クヘキハ當然ナルヲ以テ原告ハ之ヲ拒ムル理由ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

縣參事會ノ裁決取消ノ訴 明治三十八年第三百四十七號 (請求相立) 明治三十九年三月八日第二部宣告

判 決 要 旨

一、町村ノ出納及ヒ現金ノ保管ハ町村制第七十一條ニ依リ專ラ收入役ノ職責ニ屬スルモノナレハ失金ニ付テノ賠償責任ハ收入役之ヲ負擔スヘク町村長ヲシテ賠償セシムヘキ規定ナシ

町村收入役ノ職責

壹



宮崎縣兒湯郡富田村大字  
下富田六十一番戸平民  
元富田村長

原告 比江島 矩則

補佐人 (比江島) 清松

宮崎縣參事會  
宮崎縣知事

宮崎縣屬

被告 戸田 恒太郎

訴訟代理人 (成合) 徳次  
磯貝 大二郎

右當事者間ニ於ケル縣參事會ノ裁決取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

明治二十八年七月二十日被告カ本件ニ對シ與ヘタル裁決中原告ニ關スル部分ヲ取消ス 訴訟費用  
ハ被告ノ負擔トス

理 由

原告陳述ノ要旨ハ明治三十七年十一月二十九日宮崎縣兒湯郡富田村役場ニ於テ金庫内ニ保護セル  
諸税金合計金千七百四十二圓十一錢八厘ヲ竊取セラレ同村法人ノ損失ニ歸シタルニ因リ同村ハ之  
レカ賠償責任者決定ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ兒湯郡參事會ハ前記被害金額中ヨリ同村農會所屬ノ  
現金九十九圓三十九錢ヲ控除シ殘額金千六百四十二圓七十二錢八厘ハ當時收入役タリシ長友竹  
次ニ於テ賠償スヘシトノ裁決ヲ與ヘタリ長友竹次ハ該裁決ニ服セス宮崎縣參事會ニ訴願セシニ同  
縣參事會ハ前記郡參事會ノ裁決ヲ更正シ該金額ハ當時收入役タリシ長友竹次及本村長タル比江島  
矩則ニ於テ連帶ヲ以テ賠償スヘシトノ裁決ヲ與ヘタリ然レトモ原告ハ之ニ服スル能ハス茲ニ出訴

ニ及ヒタル次第ニ付其取消ヲ請フト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ本件事實ハ原告供述ノ通ナルモ  
元來町村長ハ國稅徵收法第五條同施行細則第三條及府縣稅徵收ニ關スル件第一條第四條及町村制  
第六十八條ニ依リ町村ノ收入ハ勿論府縣稅ノ徵收ヲ管理シ會計及出納ヲ監視シ且町村ノ行政事務  
ヲ總理スヘキ職責ヲ有スルモノナレハ多額ノ收入アル場合ニ於テハ本縣町村役場規定第二十三  
條ニ依リ不寢番ヲ付シ嚴重ニ格護スヘキモノナルニ本村長比江島矩則ハ當時諸稅ノ納期ニ際シタ  
ルコトヲ知レルハ勿論殊ニ本人ノ提出セル始末書ニ依レハ當日退場ノ際金庫ヲ檢視セリト云ヘル  
ヲ以テ見ルモ多額ノ收入アルコトヲ知レルハ明カナリ隨テ相當ノ格護ノ措置ヲ爲サルヘカヲ  
サルニ不寢番ヲ付セス殊ニ宿直室ヲ金庫ヲ距ル九間餘ノ別室ニ定置キタルカ如キ不注意ノ甚シキ  
モノト謂フヘシ如此效力薄弱ナル護格ニ放任シ遂ニ盜難ニ罹リタルハ其職務ヲ怠リタルヨリ生ス  
ル結果ニシテ原告ハ本件盜難金ヲ賠償スヘキ義務ヲ免ル、コトヲ得サルモノナレハ原告ノ請求ニ  
應ジ難シト云フニ在リ

按スルニ町村長ハ町村ノ收入國稅府縣稅ノ徵收其他會計及出納ヲ監視シ且町村ノ行政事務ヲ總理  
スヘキ職責ヲ有スルモノタルヤ被告所論ノ如シト雖町村實地ノ出納及現金ノ保管ハ町村制第七十  
一條ニ依リ專ラ收入役ノ職責ニ屬シ町村長ニ對シテ斯ル職責ヲ規定シタルモノニアラス故ニ盜難  
亡失金ニシテ不可抗力ニ出テサル限リハ其保管責任者タル收入役ニ之ヲ賠償セシムヘク町村長ニ  
對シテ賠償責任ヲ負擔セシムヘキニアラス本件原告ニ於テ盜難ノ當時多額ノ收納金アルニ拘ラス  
不寢番其他盜難ヲ防止スルニ足ルヘキ必要ノ設備ヲ爲サス殊ニ宿直室ヲ金庫所在室ヨリ九間餘

町村收入役ノ職責

主



距リタル別家屋ニ定メタルカ如キ職務執行上相當ノ注意ヲ缺キシ嫌疑無キニアラスト雖果シテ之ヲ事實トセハ之ニ對シテ相當ノ責罰ヲ加フルハ格別之ニ對シテ賠償責任ヲ負擔セシメタルハ其當ヲ得サルモノトス然ラハ被告ノ裁決ハ之ヲ取消スヘキ理由アルモノニシテ原告ノ主張ハ結局相當ナリ仍テ主文ハ如ク判決ス

夫

●縣參事會裁決不服ノ訴 明治三十八年第三百六十四號 (請求不立)

判決要旨

一、町村收入役ハ執務時間ノ内外ヲ問ハス現金保管ノ職務ヲ有シ不可抗力ニ因ル場合ノ外其責任ヲ免ル、コトヲ得ス從テ盜難其他ノ危險ノ豫防上相當ナル設備ヲ爲サ、ルカ爲メ保管金ヲ亡失シタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

宮崎縣兒湯郡富田村  
收入役

原告 長友竹次

宮崎縣參事會  
宮崎縣知事

被告 戶田恒太郎

宮崎縣廳

訴訟代理人 成合徳次  
磯貝大二郎

八六

右當事者間ニ於ケル縣參事會裁決不服ノ訴ニ付原告ノ訴狀ヲ閱シ被告ノ辯論ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告ニ於テハ明治三十七年十一月二十九日宮崎縣兒湯郡富田村役場ニ於テ金庫内ニ保護セル諸税金合計金千七百四十二圓十一錢八厘ヲ竊取セラレ當時原告ハ同村收入役タリシヲ以テ被告ハ該被害金額中ヨリ同村農會所屬ノ現金九十九圓三十九錢ヲ控除シ殘額金千六百四十二圓七十二錢八厘ハ本村長タル比江島矩則ト連帶ヲ以テ賠償スヘシトノ裁決ヲ與ヘタルトモ原告ハ盜難當日收入セシ金員ハ凡テ村長ノ檢閲ヲ受ケ村役場備付ノ金庫内ニ納メ尙ホ同村長ノ檢視ヲ受ケタル上金庫ノ錠ヲ下シ同日午後五時頃村長ト同道退場シタリ其退場ノ際同夜ノ宿直員タル同村役場書記兒玉徳依ニ對シ金庫内ニハ既收税金納メアルヲ以テ充分ノ注意ヲ加ヘ宿直スヘキ旨ヲ告ケ置キタル次第ニテ原告ハ十分ノ注意ヲ以テ職務ヲ盡シ居ルヲ以テ盜難金員ヲ賠償スヘキ義務無シト云フト雖該事實上ノ供述ハ訴願ノ際原告カ被告ニ提出シタル追申書、村長比江島矩則ノ始末書及郡長久保田源吉ノ取調書ノ事實ト齟齬スルノミナラス何等原告ノ主張ヲ證明スヘキモノ無ケレハ之ヲ信認シ難シ又原告ハ町村制第百二十九條ニハ町村吏員其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲云々トアリ而シテ町村吏員カ職務ヲ盡サ、ル場合トハ爲スヘキ事柄ヲ爲サ、ル場合即チ不行爲ヲ稱

町村收入役ノ賠償責任

克



ヌルニ過キス竊取ノ行爲ハ不行爲ニアラサルヲ以テ竊取ノ行爲ヲ以テ町村吏員ノ職務ヲ盡サ、  
 シ爲ノ損害ト稱スルコト能ハサルハ勿論收入役ノ職務ハ税金ヲ受領シ之カ保管ノ義務ハ出務時間  
 中ノミニシテ退場ノ際村長ノ檢閲ヲ受ケ金庫内ニ納メタル上ハ金庫保管ノ義務無キモノナリト云  
 フト雖町村收入役ハ町村制第七十一條ニ依リ現金保管ノ職務ヲ有シ執務時間ノ内外ヲ問フヘキモ  
 ノニアラスト解釋スヘキヲ以テ現金ヲ金庫内ニ保管シタリトノ一事ヲ以テ其責ヲ免ル、ヲ得ス面  
 シテ本件盜難金ニ付原告ハ其職務ヲ盡シテ遺漏無カリシヤ否ヲ按スルニ明治二十五年宮崎縣訓令  
 第三號町村役場規程第二十三條ニハ多額ノ金員其他重要ナル物件ヲ保管スル場合ニ於テハ不寢番  
 ヲ付シ嚴重ニ格護スヘシトアリ又明治三十七年同縣訓令第七號町村會計規程第二十四條ニハ收入  
 役ハ其取扱ニ屬スル收入若ハ支出アリタル日毎ニ其ノ收支殘額ト現金在高シ照査シ其金高ヲ現金  
 在高通知簿ニ記載シ町村長ニ通知スヘシトアルニ拘ラス原告ハ是等ノ手續ヲ爲サズ殊ニ金庫在所  
 ハ室ハ宿直室ヲ距ル九間餘ノ別家屋ニアルニモ拘ラス何等危險豫防ノ設備ヲ爲サ、リシモノナレ  
 ハ本件盜難亡失ヲ以テ原告カ職務ヲ盡サ、リシ結果ニ出テタルモノト認メサルヲ得ス又原告ハ宿  
 直室ノ設備及不寢番ノ存否等ハ村長ノ見込ニ依ルヘク收入役ニ於テ何等ノ職權ナシ故ニ之カ爲責  
 任アルモノトセハ這ハ宜シク村長ニ歸セシムヘク收入役ニハ何等ノ責任ナシト云フト雖前段説明  
 ハ如ク原告ハ盜難當日町村會計規程第二十四條ノ通知ヲ村長ニ爲サズ從テ村長ヲシテ町村役場規  
 程第二十三條ノ手續ヲ爲スノ機會ヲ得セシメサル怠慢アルノミナラス己ニ説明セル如ク町村收入  
 役ハ現金保管ノ責任ヲ有シ不可抗力ニ因ル時ノ外ハ其責任ヲ免ル、コトヲ得サルモノナレハ盜難

其他ノ危險ヲ豫防スル爲相當ノ手段ヲ講スルハ即チ原告ノ當ニ爲スヘキ事ニシテ他人ニ過失アル  
 コトヲ理由トシテ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス要スルニ原告ノ主張ハ一モ理由無キヲ以テ主文ノ如  
 ク判決ス

●酒造納稅保證不當課稅取消ノ訴 明治三十八年第三百四十六號 明治三十九年二月三日判決 (請求不立)

判決要旨

一、酒類製造ニ關シ納稅ヲ保證スル者ハ正當ノ造石ニ限り保證  
 ノ義務ヲ負擔スヘク不正ノ造石ニ對シテハ保證ノ義務ヲ負  
 擔スルモノニアラス  
 一、造酒者カ豫定ノ造石中ヨリ查定ヲ免カル、爲メ其ノ幾部ヲ  
 窃ニ汲取リタル場合ハ其製造ニ違法アラザルノ限りハ之ヲ  
 以テ不正ノ造石ト云フヲ得サルヲ以テ納稅保證人ハ汲取リ  
 タル部分ニ付テモ尙ホ保證ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス

納稅保證者ノ責任

原

告 眞島 眞三郎  
 新潟縣北蒲原郡濁川村千七百  
 四十一番地平民農

訴訟代理人

原 野 田 貞 男



新發田稅務署長

被告 柴田信重

右當事者間ニ於ケル酒造稅納稅保證不當課稅取消請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告陳述ノ要旨ハ原告カ訴外人佐藤熊次ノ納稅ニ付保證義務ヲ負擔シタルハ同人カ正當ニ製造スヘキ酒造ニ付其保證ヲ爲シタルニ止マリ決シテ密造其他犯罪行爲ヨリ生スル納稅ノ義務ヲモ保證シタルニアラス又酒造稅法ニ所謂納稅保證義務者ナルモノハ其主タル義務者ノ不法行爲ヨリ生スル結果ヲモ負擔スヘキ性質ノモノニアラス何人ト雖主タル義務者ノ不法行爲ヲ豫想シテ之レカ保證ヲ爲スヘキ筈ナク法律上又此ノ如キ保證ヲ認ムルノ道理アルコトナシ蓋シ納稅ノ保證ハ主タル義務者ノ身元保證ニアラサレハナリ而シテ納稅契約モ亦他ノ一般契約ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ若シ原告カ始メヨリ佐藤熊次ノ犯罪ヨリ生スル納稅ノ義務ヲ豫想シ其保證ヲ爲シタリトセンカ不法行爲ヲ爲サ、ルコトヲ目的トスル契約カ當然無効ナルカ如ク原告ノ保證契約モ亦始メヨリ無効ノモノト謂ハサルヘカラス故ニ酒造稅法ノ納稅保證ナルモノカ一般契約ノ原則ヲ無視シテ故ラニ主タル義務者ノ犯罪ヨリ生スル納稅義務ヲモ包含スヘキ特種ナル性質ノ保證義務ヲ認メタルモノト見ルヘキ規定ナキ限ハ正當ナル酒造ニ對スル納稅義務ヲ保證シタルモノト解スルヲ當然トス故ニ被告カ原告ニ對シ佐藤熊次ノ密造ニ係ル部分ニ對スル納稅ノ保證義務アリトシ金四百三十三圓

二十錢ノ納付ヲ命シタルハ不法ノ處分ナレハ之ヲ取消サレタシト云フニ在リ  
按スルニ佐藤熊次ノ行爲ハ乙第一號證ニ依レハ明治三十三年十一月十六日ヨリ翌三十四年三月十日迄ノ間ニ於テ其製造セル清酒ノ内三十五石八斗ヲ竊ニ汲取リ之レカ査定ヲ免カレ又三十四年三月二十七日ヨリ同年四月一日迄ノ間ニ於テ三斗ヲ竊ニ汲取リ其査定ヲ免カレタルモノニシテ其製造ニ違法アルモノニアラス既ニ其製造ニ違法アラサル以上ハ原告ハ乙第二號證ニ依リ佐藤熊次ノ製造ニ係ル全部ノ酒類ニ對シ納稅保證ノ義務アル者ナレハ被告ニ於テ本件酒造稅納付ヲ原告ニ命シタルハ不法ニアラス依テ主文ノ如ク判決ス

縣參事會裁決取消ノ訴 明治三十八年第二百四十四號 明治三十九年二月十九日第一號裁決 (却下)

判決要旨

一、普通水利組合會議員ノ選舉人名簿ニ選舉權者ノ氏名ヲ遺脱シタルコトヲ不當トスル事件ニ付テハ水利組合條例其他ノ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ

長野縣南安曇郡豊科村四百六十三番地平民農

原告 水谷甚二 外一名

普通水利組合議員選舉人名簿ニ關スル異議



長野縣參事會  
長野縣知事

被告 大山 綱昌

右原告水谷甚二外一名ヨリ被告長野縣參事會長野縣知事大山綱昌ニ係ル縣參事會裁決取消ノ訴狀ニ就キ審査シ裁決スル左ノ如シ  
本訴ハ之ヲ却下ス

理由

原告ハ長野縣南安曇郡拾ヶ堰普通水利組合管理者カ明治三十八年二月二十五日同組合議員半數改選選舉執行ノ爲メ同月九日ヨリ關係者ノ縱覽ニ供セシ選舉人名簿ニ原告等ノ名ヲ登載セサルニ付異議申立ヲ爲シ之ニ對スル組合會ノ議決ニ服スルヲ得スシテ南安曇郡參事會ニ訴願シタルモ却下セラレタリ依テ更ニ長野縣參事會ヘ訴願シタルニ是亦却下セラレタリ然レトモ原告ハ其却下ノ裁決ニ服スル能ハサルヲ以テ長野縣參事會ノ裁決ヲ取消シ更ニ審議ヲ命スルノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如キハ明治二十三年法律第四十六號水利組合條例及其他ノ法律勅令ニ出訴ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス依テ行政裁判法第二十七條ニ基キ主文ノ如ク裁決ス

縣會議員失職決定取消ノ訴 明治三十七年第九百五十六號  
明治三十九年二月二日判決 (請求不立)

判決要旨

一、現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタル者ハ町村會議員ノ選舉權ヲ有セス從テ又々府縣會議員ノ選舉權ヲ有スルコトヲ得ス

原告 告 菊池 儀藏

愛媛縣參事會  
愛媛縣知事

被告 安藤 謙介

愛媛縣屬

訴訟代理人 柳生 宗茂

右當事者間ニ於ケル縣會議員失職決定取消ノ訴原告ハ出廷セサルニ依リ書面ニ就キ被告ノ辯論ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告ハ愛媛縣會議員就職中ナリシニ被告ハ原告カ陸軍ノ後備兵役ニ在リテ戰時召集セラレタルヲ以テ町村制第九條第三項及第十二條第一項但書ニ該當シ從テ府縣制第六條第二項ニ定ムル縣會議員ノ被選舉權ヲ有セサルモノトシ失職ノ決定ヲ與ヘタレトモ町村制第九條第三項ハ現役外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ一時町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得

兵役召集ト府縣會議員選舉條トノ關係



六

サルニ過キスシテ公民權ヲ喪失スルモノニ非ス原告ハ當初完全ナル被選舉權ヲ有シ一旦有效ニ當選シタル以上ハ單ニ戰時ノ爲メ召集ニ應ジタルノミヲ以テ直ニ縣會議員ノ職ヲ失フモノニアラス又町村制第十二條第一項但書ノ規定ハ町村會議員ノ選舉ヲ行フ爲メニ制定セラレタル要件ナレハ之ヲ府縣會議員ニ適用スルハ不法ト謂ハサルヘカラス要スルニ府縣會議員ニ關スル事項ハ府縣制ノ規定ニ據ルヲ當然トス然ルニ同制中斯ノ如キ規定ナキノミナラス町村制ノ規定ヲ府縣會議員失職ノ場合ニ準用スヘキ規定ナシ依テ被告カ明治三十七年七月二十五日原告ニ對シ與ヘタル縣會議員失職決定ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ陸海軍現役以外ノ兵役ニ在ルモノニシテ戰時ニ際シ召集セラレタルトキハ町村制第九條第三項ニ依リ町村ノ公務ニ參與スルヲ得サルモノニシテ隨テ同制第十二條第一項ニ依リ町村會議員ノ選舉權ヲ有セサルコトナルモノナレハ府縣制第六條第二項ノ要件ヲ失ヒタルモノトス然レハ被告ノ決定ハ相當ニシテ取消スヘキモノニアラスト云フニ在リ

按スルニ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有スルニハ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有セサルヘカラスハ府縣制第六條第二項ニ明定スル所ニシテ而シテ町村制第九條第三項末段ニハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ時變ニ際シ召集セラレタルトキハ町村ノ公務ニ參與セサルコトヲ規定シ又同制第十二條第一項ニ町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス(但中略)第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラズト規定セリ然レハ原告ハ戰時ニ際シ召集セラレタル以上ハ府縣制第六條第二項ニ據ル資格ノ要件ヲ缺ク者ナレハ被告ノ決定ヲ違法ナリト謂フヲ得ス依テ主文ノ如ク判決ス

判決要旨

一、稅務署長ハ法律命令ヲ執行スル獨立官廳ニシテ稅務監督局長ハ稅務署長ヲ指揮監督スル上級官廳ナリトス

明治三十七年第四百號  
明治三十八年十月二十四日第二部宣告

原告 告 千田 利吉  
秋田縣南次郡五城目町  
四百七十番地

被告 告 久保 要藏  
秋田縣南次郡五城目町  
四百七十番地

訴訟代理人 小笠原 勇藏  
秋田縣南次郡五城目町  
四百七十番地

訴訟代理人 原田 宗藏  
秋田縣南次郡五城目町  
四百七十番地

右當事者間ニ於ケル酒造稅不當賦課取消請求ノ訴ニ付被告ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲セリ依テ審理判決スルコト左ノ如シ

本訴ハ之ヲ棄却ス 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

被告ハ本件訴訟ハ秋田稅務署長カ其職務ニ於テ爲シタル處分ニ對シ其取消ヲ請求スルモノナルヲ以テ右稅務署長ヲ相手取ルハ格別本件訴訟ニ直接關係ナキ被告ヲ訴訟當事者トスルハ不當ナリ又原告ハ訴願ヲ經スシテ直ニ本訴ヲ提起シタルモノナレハ行政裁判法第十七條ノ規定ニ違背シ隨テ

稅務署長ノ官制上ノ地位



同法第二十七條ニ依リ却下セラルヘキ者ナリト抗辯シ原告ハ元來稅務署長ノ職務タル稅務監督局長ノ監督ヲ受ケ行動スル者ニシテ法律上獨立ノ權限ヲ有スルニアラサルカ故ニ稅務署長ノ違法處分ニ對シ之レカ救濟ヲ求ムル爲メ其直接監督官タル被告ヲ相手取ルハ固ヨリ當然ナリ又稅務監督局及之ニ屬スル稅務署ハ何レモ大藏省ノ直接官廳ニシテ行政裁判法ノ所謂地方行政廳ニ屬セサルモノナレハ同法第十七條ヲ適用セラル、限リニアラサルヲ以テ被告ノ此點ニ於ケル抗辯モ亦理由ナキモノト辯駁セリ按スルニ現行稅務署官制第四條ニ署長ハ稅務監督局長ノ指揮監督ヲ承ケ内國稅ニ關スル法律命令ヲ執行シ云々トアレハ稅務署長ハ法律ヲ執行スル獨立官廳ニシテ稅務監督局長ハ稅務署長ヲ指揮監督スル上級官廳ナリト解釋セサルヘカラス然ラハ原告ニ於テ行政訴訟ヲ提起セントスルトキハ行政裁判法第十七條ニ依リ稅務監督局ニ訴願セサルヘカラス然ルニ原告ハ此手續ニ依ラス直ニ出訴シタルモノナレハ適法ノ手續ニ違背シタルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十八年第三百五十六號  
明治三十九年三月二十九日第二部宣告 (請求不立)

判決要旨

一 住所トハ生活ノ本據ヲ云フ其本籍地タルト寄留地タルトヲ問フノ要ナシ然レモ戶籍ハ通常現實ノ住居ニ伴フモノナレハ人ノ住所ヲ認識セントスルニハ他ノ情況ト共ニ戶籍ヲモ觀察スヘク決シテ之ヲ輕視スヘキニアラス

一 納稅人カ二箇所ニ戶籍ヲ有シ其本籍地ニ於テ督促狀ノ送達ヲ遂ケ能ハサルトキハ更ニ寄留地ニ於テ之カ送達ヲ試ムルコトヲ要ス從テ本籍地ニ不在ナル一事ヲ以テ直ニ公示送達ノ方法ヲ採リタルハ違法ナリ

一 郡長カ府縣稅滯納處分ヲ爲スニ當リ滯納者ノ住所ヲ査定スルハ其ノ職責ニ屬スルカ故ニ必スシモ町村長ノ滯納報告ヲ是認セサル可ラサルノ義務ナシ

住所ノ認定○納稅督促狀ノ公示送達



長野縣南安曇郡長  
 原告 黒川 光 徳  
 長野縣參事會  
 長野縣知事  
 被告 大 山 綱 昌  
 訴訟代理人 長野縣屬  
 木 藤 昌  
 早 川 繁 夫  
 訴訟代理人

右當事者間ニ於ケル不當裁決取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理 由

本件ハ長野縣南安曇郡温村四百三十三番地平民農墾カフ所有同村字北原六千五百四十七番イ號畑七畝十歩ニ對スル明治卅七年度縣稅地租金六錢ノ滯納處分ヲ爲スニ當リ原告ハ温村長二木森三郎ノ滯納報告ニ基キ所屬使丁ヲシテ前記住所ニ向テ督促狀ヲ送達セシメタルモ不在ニシテ其送達ヲ完了スル能ハサリシヲ以テ公示送達ヲ爲シタル上前記畑地ヲ差押ヘ尋テ公賣ヲ決了シ滯納者ニ計算書ヲ交付セシニ被告ハ墾カフノ訴願ニ基キ墾カフハ明治廿六年以來東筑摩郡里山邊村百三十八番地實父金井新八方ニ同居寄留ヲナシ同時ニ原籍地タル温村長ニ對シ出寄留ノ届出ヲナシタルモノナルニ拘ラス當時墾カフカ住居セサル原籍地ニ督促狀ヲ送達セシメ居所不明ノ故ヲ以テ公示送達ノ方法ニ依リタルハ違法ナリトノ旨ヲ以テ原告ノ滯納處分ヲ取消シタル事實ニシテ所争ノ要點ハ明治三十三年勅令第八十一號第十四條ニ所謂住所居所ノ不明ナル場合如何ニ在ルモノトス按ス

ルニ住所トハ生活ノ本據ヲ謂ヒ其本籍地タルト寄留地タルトハ敢テ問フヘキ所ニアラズト雖戸籍ハ通常現實ノ住居ニ伴フモノナルカ故ニ人ノ住所ヲ認識セントスルニハ他ノ情況ト共ニ戸籍モ亦之ヲ觀察スヘク決シテ輕視スヘキモノニアラス本件墾カフハ里山邊村ニ現實ノ住居ヲ有スルヤ否不明ノ事實ニ屬スト雖里山邊村ハ公然届出ヲ爲シタル寄留地ナルヲ以テ其本籍地タル温村ニ於テ督促狀ノ送達ヲ遂クル能ハサルニ於テハ里山邊村ニ於テ送達ヲ認ムルコトヲ要ス何トナレハ二箇所ニ戸籍ヲ有スル場合ニ於テ一方本籍地ニ住居セサルコトヲ確メタル以上ハ他ノ一方寄留地ニ住居スルモノト推定スヘキハ當然ナレハナリ然ルニ原告ハ墾カフノ寄留地ニ於ケル住居ヲ調査セズ單ニ本籍地ニ不在ノ故ヲ以テ公示送達ノ方法ヲ採リタルハ即チ未タ住所居所共ニ不明ト謂フヘカラサル場合ニ公示送達ヲ爲シタルモノニシテ明治三十三年勅令第八十一號第十四條ニ違背セル處分ト謂ハサルヲ得ス原告ハ人ノ住所若クハ居所ヲ認識スルニハ生活ノ實質ニ據ルヘク單ニ制度上ノ形式ニ過キサル戸籍ノ如何ニ據ルヘキニアラスト云ヒ各種ノ事實ヲ援引シテ墾カフノ住所ハ其寄留地ニアラス滯納報告ノ當時本籍地ニ滞在シタル旨ヲ主張スレトモ本件ノ争點ハ前述ノ如ク墾カフヲ以テ住所居所共ニ不明ト爲シタルハ相當ノ手續ヲ盡シタル後ナルヤ否ノ點ニアリテ他人ノ住所カ本籍寄留其孰レノ地ニアリヤノ點ニアラサレハ之ニ對シテ説明ノ必要ヲ認メス又原告ハ滯納者ノ住所若クハ居所ヲ調査スルハ村長獨特ノ職權ナレハ其滯納報告ニ信ヲ置キタルハ不當ニアラスト主張スレトモ原告ニ於テ府縣稅滯納處分ヲ爲ス職責ヲ有スル以上ハ督促狀ノ送達ニ方リ滯納者ノ住所又ハ居所ヲ調査スル權限ヲ有スルコト勿論ナレハ村長ノ滯納報告ヲ是認セサルヘカラ

住所ノ認定○納稅督促狀ノ公示送達



サ、理由ナキニ漫ニ之ヲ採用シテ公示送達ヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス然ラハ被告カ  
覽カフノ訴願ニ基キ原告ノ滯納處分ヲ取消シタルハ相當ニシテ其裁決ヲ取消スヘシトノ原告ノ論  
旨ハ一モ其理由ナキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

●不當免許取消ノ訴 明治三十七年第五百八十三號 (請求相立)  
明治三十九年三月三十日第一號官告

判決要旨

一、北海道漁業取締規則第二十三條ニ第十七條規定ノ外第十九  
條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ストアルハ各種ノ漁業ニ適  
應スル條項ヲ適用スヘキ趣意ニシテ即チ鯨ノ定置漁業特別  
漁業ノ漁場區域變更ニハ之ニ付キ定メタル第十七條ノ規定  
ヲ適用シ又鮭鱒ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ同  
漁業ノ免許出願ニ付キ定メタル第十九條ノ規定ヲ適用スヘ  
シトノ旨趣ニ外ナラス

原告 北海道前部前村大字力登  
村字力登二十六番地平民漁業  
金澤友次郎  
訴訟代理人 松中幾  
四井武三  
志野三三  
嘉二  
賀部

被告 北海道宗谷支廳長  
松方勇助

右當事者間ノ不當免許取消ノ訴訟審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ明治三十七年三月二十四日附ヲ以テ北見株式會社ニ與ヘタル北見國宗谷郡稚内町大字聲間  
村海面圭第二十五號鮭漁場ノ區域變更免許ヲ取消ス  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告請求ノ要旨ハ北見國宗谷郡稚内町大字聲間村海面圭第二十五號鮭漁場ハ北見株式會社其漁業  
權ヲ有シ原告カ漁業權ヲ有スル同所圭第二十四號鮭漁場ノ表網俗ニ手先ト稱スル隣接漁場ナル處  
被告ハ曩ニ北見株式會社ノ漁場區域變更願ニ對シテ魚道遮斷ノ虞アリトノ理由ヲ以テ不免許ノ處  
分ヲ與ヘタルニ北海道廳長官ハ此處分ニ對スル北見株式會社ノ訴願ニ對シ甲第五號證ノ裁決ヲ與  
ヘ被告宗谷支廳長ヲシテ明治三十七年三月二十四日附ヲ以テ遂ニ該變更願ヲ免許セシメタリ原告  
ハ此不當處分ニ依リ右圭第二十四號ノ漁業權ヲ侵害セラレ、ヲ以テ本訴ヲ提起セリ而シテ原告カ  
之ヲ不當ナリトスル所以ハ該漁場區域變更免許ノ爲メニ原告漁場ノ魚道ヲ遮斷セラル、カ故ナリ  
元來北見地方ニ於ケル鮭魚ノ來游及遷移ノ状態ハ北方ヨリ陸地ニ向ツテ南下シ海岸ニ沿フテ河川  
ヲ求メ湖上産卵スルヲ以テ地方一般ノ鮭漁場ハ凡テ其右方ヨリ漸次左方ニ遷移回游スル魚群ヲ漁

北海道漁業取締規則第二十三條ノ旨趣



獲センカ爲メ纏網ノ左方ニ偏シテ手網ヲ引キ右方ニノミ網口ヲ設ケアルコト甲第四號證宗谷水産組合ノ證明書ニ依リ明カナリ之ヲ圖面ニ就テ説明センニ舊來圭第二十五號沖出方位ハ圭第二十四號ニ對シテ著シク傾斜シ且ツ沖出間數モ亦甚タ短キノ故ヲ以テ二十五號網ニ觸レテ方向ヲ變シ捕獲ヲ免カレタル魚群モ未タ沖合ニ出テサル内早クモ二十四號網ニ罹ルコトヲ得テ相互其漁利ヲ保チ得タリシニ今被告カ免許シタル區域變更ニ從フトキハ二十四號ノ方位北六十度東ナルニ對シニ十五號ハ北五十二度十分東トナリテ殆ント兩網並行線ノ姿ヲナスニ至レリ抑モ鮭魚游泳進行力ノ強大ナル進行中些少ナリトモ障害物ノ前路ニ横ハルアレハ直チニ之ヲ避ケテ遠ク沖合ニ去ルコト約一里以上甚シキハ二里ニ上ルコトアリトハ甲第六號證被告宗谷支廳長ノ具申書ニモ明記シアリテ手先網即チ表網ニシテ沿岸線ト直角ノ度ヲ保ツ場合ニ於テハ鈍角ノ度ノ場合ニ比シテ後網ニ乗ルヘキ魚群ノ數ヲ著シク減少スルハ爭フヘカラサルノ事實ナレハ本件漁業區域變更免許ハ原告ノ漁業權ヲ侵害シタルモノナリ又明治三十七年三月改正前ノ北海道漁業取締規則第二十三條ノ規定ヲ按スルニ「定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニ付テハ第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用スルコトアリ而シテ本條ハ其前條ナル第二十二條ノ「練以外ノ定置漁業云々」ノ文詞ヲ受ケテ同シク練以外ノ漁業ニ關スル規定ナルハ明カナルヲ以テ鮭漁場ノ變更ニ關シテハ此條ニ基ク可キモノナルモ而カモ「第十七條ノ規定ノ外」ナル字句ハ第十七條ヲ適用スル外尙第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用スルノ意味ナルカ或ハ第十七條ヲ除クノ外ノ意味ナルカ頗ル難解ノ條文ナリトス鮭漁業ト鮭漁業トハ新規ノ出願ニ對シテ頗ル寬嚴ノ差異アルハ取締規則ノ全體ニ通シ

テ之ヲ窺知スルヲ得ヘク從テ殆ント絶對ニ新規ノ出願ヲ許サ、ル鮭鱒等ノ漁業ト尙ホ多少ノ除外餘地ヲ殘存シアル鮭漁業トハ其適用ノ條文ニ於テ全ク差異アルヲ要スルハ自明ノ理ナルヲ以テ立法ノ趣旨ハ專ラ「第十七條ノ規定ヲ除クノ外」ノ意味ナリシナラン去レハ明治三十七年三月二十五日該取締規則ノ改正ニ際シ本條ノ字句ヲ修正シ立法趣旨ニ反スル解釋ヲ容ル、ノ餘地ナカラシメタルモノナリ甲第七號證北海道廳水産課員ヨリ宗谷支廳楠美技手ニ宛テタル公文通牒ニ依レハ道廳長官カ取締規則制定ノ趣旨ハ確カニ「第十七條ヲ除クノ外」ノ意味ヲ以テ法文ヲ綴ラシメタルコト分明ナリ假リ第十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノトスルモ之ニ依リ第十五條ヲ本件ニ適用スルヲ得ス何トナレハ本件ト其場合ヲ異ニスレハナリ何レノ點ヨリスルモ第十七條ノ規定ヲ應用シテ免許ヲ爲シタル被告宗谷支廳長ノ處分ハ不當タルヲ免レサルヲ以テ被告カ明治三十七年三月二十四日附ヲ以テ北見株式會社ニ與ヘタル北見國宗谷郡稚内町大字聲間村海面圭第二十五號鮭漁場ノ區域變更免許ヲ取消スヘシトノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ原告ハ北海道漁業取締規則第二十三條中ニ第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ストアルヲ以テ第十七條ハ取除ニシテ第十九條乃至第二十二條ヲ適用スヘキモノ、如ク解釋セルカ如キモ右ハ誤解ニシテ北海道廳長官ノ與ヘタル訴願裁決書ニ「練定置漁業ヲ除クノ外他ノ定置漁業免許ノ變更ニ關シテハ北海道漁業取締規則第二十三條ニ規定アリト雖モ同條ニ於テ同第十七條ヲ適用セラレタル結果同第十五條第四號但書ヲモ適用セサルヘカラス」トアルヲ以テ見ルモ原告ノ解釋ノ誤謬ナルヲ見ルニ足ルヘシ要スルニ被告ハ該變更願ニ對シテハ適法ノ處分ヲ爲シタルモノニシテ漁業法第



二十四條ニ所謂違法ノ許可ヲ爲シタルモノニアラス又原告ハ漁業權ハ一ノ權利ニシテ其隣接漁場ノ間相互ノ位置關係ハ免許ノ漁期間ハ當然漁業權者ノ權利區域タルモノナリ然ルニ被告ハ北見株式會社所屬圭第二十五號免許變更願ヲ免許シタルハ原告ノ權利ヲ侵害シタルモノナリト主張スルモ決シテ然ラス原告ノ所謂隣接漁場間相互ノ位置關係トハ果シテ何ヲ指シタル意ナルヤ分明ナラスト雖モ定置漁業ノ漁場區域トハ明治三十五年五月十七日農商務省令第七號第六條「本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在テハ漁具ヲ建設シ又敷設スル區域ヲ謂ヒ」トアルヲ以テ見ルモ網及垣網建設箇所以外ニ漁場區域アルヲ認ムル能ハサルハ論ナキモノトス若シ又隣接漁場間ノ距離ヲ漁業權利者ノ權利區域トスルモノトセンカ抑モ隣接漁場間ノ距離ナルモノハ營業者カ投網ノ位置ヲ誤ラサラシメンカ爲メ其間隔ヲ明カニシタルモノナレハ此ノ間ノ距離ハ原告ノ占有ナリト云フコトヲ得ス若シ原告ノ占有ト云フヲ得ハ隣接漁業者モ亦タ占有區域ナリト云フヲ得ヘシ故ニ假令隣接漁場間距離ニ縮少ヲ來シタリト假定スルモ原告ノ漁業權ヲ侵害シタルモノト云フヲ得サルハ勿論ナリ況ンヤ其漁場區域ヲ侵サハルノミナラス隣接漁場間距離ヲ從來ヨリ延長シタルモノナレハ被告ノ處分ハ原告カ主張スルカ如キ圭第二十四號漁業權者ノ權利侵害ヲ爲シタルモノニアラス以上ノ理由ナルヲ以テ本訴却下ノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ

案スルニ本件所爭ノ要點ハ北海道漁業取締規則第二十三條ノ解釋如何ニ在リ而シテ被告ハ該條ニ於テ第十七條ノ規定ヲ適用セラレタル結果鯨漁業ニ關スル第十五條第四號但書ヲ適用セサルヘカラスト云フモ該第二十三條ハ「定置漁業特別漁業ノ漁場區域ノ變更ニ付テハ」トアリテ博ク各種

六

ハ漁場區域變更ノ場合ニ適用スヘキ第十七條及第十九條乃至第二十三條及之ニ關係スル條項ニ參照スルニ各種漁業ニ付キ漁場ノ制限距離ニ關スル特別ノ規定アリテ各種漁業ニ就キ右ノ諸條ヲ悉ク適用スル能ハサルコト明カナレハ右第二十三條ニ第十七條規定ノ外第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用スルハ各種ノ漁業ニ適應スル條項ヲ適用スヘキモノト解釋セサルヘカラス即チ鯨ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ之レニ付キ定メタル第十七條ノ規定ヲ適用スヘク鯨ノ定置漁業特別漁業ノ漁場區域變更ニハ同漁業ノ免許出願ニ付キ定メタル第十九條ノ規定ヲ適用スヘシトノ旨趣ニ外ナラス然レハ被告カ本件北見株式會社ノ出願ニ係ル鯨漁業ノ漁場區域變更ニ鯨漁業ニ付キ定メタル第十七條ノ規定ヲ適用シテ免許ヲ與ヘタルハ違法ノ處分ナリトス而シテ此違法處分タル北見株式會社ノ漁場區域變更ノ爲メ原告ノ免許ヲ得タル漁業ニ障害ヲ來タスコトハ被告モ爭ハサル所ナレハ原告ハ被告ノ違法處分ニ因リ權利ヲ傷害セラレタルモノト謂ハサルヲ得ス因テ前記主文ノ如ク判決ス

○不當裁決取消請求ノ訴 明治三十七年第九百六十八號 明治三十九年三月十四日第一號宣告 (請求不立)

判決要旨

一 糊貼シタル投票ト雖モ其紙質粗薄ニシテ被選舉人ノ何人ナルカヲ外部ヨリ容易ニ透見シ得ルトキハ町村制第二十二條ニ所謂封緘ヲ施シタルモノト云フヲ得ス從テ其投票ハ無効

封緘シ施スモ氏名ヲ見達スコトヲ得ヘキ投票

七



ナリ

原告 長野縣更級郡牧郷村  
村長代理 垣 森 内

訴訟代理人 吉 原 多 一

被告 長野縣參事會  
長野縣知事 山 綱 昌

訴訟代理人 長野縣屬  
早 川 繁 夫

右當事者間ノ不當裁決取消請求ノ訴訟審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理 由

原告ニ於テハ明治三十七年三月二十九日並ニ同月卅日執行シタル更級郡牧郷村村會議員一級及二級ノ定期半數改選ノ選舉效力ニ關シ牧郷村中澤鹿治外二名並ニ同村坂井裂裂市ヨリ異議ノ申立ヲナシタルニ對シ同村會ハ右選舉ヲ取消スヘキ理由ナキ旨ノ裁決ヲ與ヘタルニ各申立人其裁決ニ服セス更級郡參事會ニ訴願ニ及ヒ同參事會ハ中澤鹿治外二名ノ訴願ニ對シ牧郷村會カ明治三十七年四月十九日中澤鹿治外二名ニ與ヘタル裁決ヲ取消シ明治三十七年三月二十九日同三十日牧郷村ニ於テ執行シタル村會議員定期半數改選選舉ハ總テ之ヲ取消ストノ裁決ヲ爲シタリ原告ハ更ニ右裁決ニ對シ長野縣參事會ニ訴願ニ及ヒタル處同會ハ明治三十七年八月二十七日附ヲ以テ訴願人ノ申立相立タストノ裁決ヲ爲シタリ被告カ右選舉ヲ取消スヘシト裁決シタルハ一、選舉ニ用ヒタル投

票ノ本紙ニ全ク糊貼ノ痕跡ヲ存セサルモノアリ二、假リニ之等投票カ糊貼セラレタルモノナリトスルモ其用紙粗薄ナレハ外部ヨリ被選舉人ノ氏名ヲ洞見シ得ラルヘキヲ以テ投票ノ全部ハ封緘シタルノ效ナシトノ二箇ノ理由ニ基クモノナリ然レトモ右選舉ニ用ヒラレタル投票ハ一モ糊貼セラレサルモノアルコトナシ然ルニ偶々糊ノ薄カリシト投票使用以來數多ノ月日ヲ經過シタル爲メ其痕跡ノ顯著ナラサリシモノヲ指シテ糊貼セラレサルモノト斷定シタルハ失當ナリ假リニ投票中糊貼ノ痕跡ナクシテ糊貼セラレサリシモノアリトスルモ爲メニ選舉ノ全部ヲ無効ト爲スヘキ道理アルコトナシ又町村制ニ於テハ投票用紙ニ一定ノ規定ナケレハ便宜ニ應シ如何ナル種類ノ紙ヲ用フルモ差支ナカルヘク唯記載ノ人名ヲ外部ヨリ洞見シ得ラル、カ如キ紙質ノモノヲ故意ニ用ヒタル場合ニミ選舉ヲ無効トナスヘキモノナリ本件ノ投票用紙ハ相當ナル厚サヲ備フルカ故ニ普通ノ筆ヲ以テ普通ニ姓名ヲ記ス場合ニ於テ決シテ洞見シ得ヘキモノニアラス特ニ大字ニ濃墨ヲ以テ記シ日光燈火ニ透シ見ルトキハ之ヲ洞見シ得ヘキハ何レノ投票用紙ニ於テモ免レサル所ナレハ斯ル方法ニ依リ或ル投票ヲ窺知シ得ヘキ事實ヲ以テ投票ヲ無効ナラシムルハ不當モ亦甚シキモノナリト主張シ原裁決ヲ取消シ明治三十七年三月二十九日同三十日ニ於テ執行シタル牧郷村村會議員選舉ハ取消スヘキ限ニアラストノ判決ヲ求メ」被告ニ於テハ本選舉ニ於ケル投票ヲ檢スルニ糊貼ノ痕跡ノ存スルモノアリ或ハ毫モ之ヲ存セサルモノアリ假リニ之等カ折疊シ糊貼セラレタルモノナリトスルモ原告モ自認スルカ如ク別ニ封筒ヲ用ヒタルニアラスシテ投票記載ノ人名ヲ外部ヨリ洞見シ得ヘキ方法ナレハ選舉ノ秘密ヲ嚴正ニスヘキ封緘ノ效ナキヲ以テ町村制第二十二條ノ所謂封緘

封緘ヲ施スモ氏名ヲ見透スルコトヲ得ヘキ投票



ヲ施シタルモノト謂フヲ得ス右ハ選舉全體ノ瑕瑾ニ屬スルモノナルヲ以テ該選舉ハ之ヲ取消スヘキ者トス尙原告ハ明治三十年第十五號明治三十一年第九十一號第九十五號及明治三十四年第五百十九號判決ヲ援用スト雖モ右ハ何レモ秘密投票ノ精神ニ反セス選舉全體ニ瑕瑾ナキ場合ノ事實ニ屬シ本件トハ全ク其爭點ヲ異ニスル事件ニ對スル判決ナレハ本問題解決ノ資料トナラズト主張シ原告ノ申立相立タストノ判決ヲ求メタリ一按スルニ原被告所爭ノ要點ハ本件投票ハ糊貼シアリシモノナリヤ又其糊貼ハ町村制第二十二條ノ所謂封緘ナリヤニアリ原告ハ其投票全部糊貼シアリシモノナリト云フモ之ヲ檢スルニ一級選舉二級選舉ノ投票共糊貼ノ痕跡存スルモノアリ存セサルモノアリテ全部糊貼シタルモノト認ムルヲ得ス假リニ糊貼シタルモノトスルモ本件投票ハ全部封筒ヲ用ヒタルモノニアラスシテ其投票ノ紙質ハ執レモ粗薄ニシテ被選舉人ノ何人ナルカヲ外部ヨリ容易ニ透見シ得ルモノナレハ其糊貼ハ選舉ノ秘密ヲ嚴正ニスヘキ封緘ノ效ナキヲ以テ町村制第二十二條ノ所謂封緘ト云フヲ得ス隨テ本件村會議員選舉ハ同條ノ規定ニ違背スルモノナリ而シテ其投票全部カ同規定ニ違背シ無効ノモノナル以上ハ町村制第二十九條第三項ノ規定ニ依リ本件選舉全部ヲ取消スヘキモノニシテ原裁判ハ相當ナリトス以上ノ理由ナルヲ以テ前記注文ノ如ク判決ス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十八年第三百四十號 明治三十九年三月十五日第二部宣告 (却下) 請求不立

判決要旨

一、甲者ノ酒造稅滯納處分ノ爲メ納稅保證物タル乙者所有ノ土

地ヲ公賣ニ付シタル場合ニ於テハ乙者モ亦タ滯納處分ヲ受ケタル者ニ外ナラス從テ乙者ハ明治二十三年法律第六號ニ依リ之レニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得一、酒造稅法第十三條第一項ノ規定ハ酒類製造主カ保證物トシテ豫メ提供スヘキ物件價格ノ限度ヲ定メタルニ止マリ保證物件ニ依リテ擔保セラルヘキ稅額ノ限度ヲ示シタルモノニアラス

新潟縣中蒲原郡小合村 平民 股

原告 小林 富平 訴訟代理人 幸太郎  
右親權者 小林 富作  
被告 飯塚 忠成 訴訟代理人 進藤 嘉三  
長野稅務監督局長 稅務監督局事務官

右當事者間ニ於ケル不當裁決取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

被告ノ妨訴抗辯ハ却下ス。原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス。

租稅滯納處分○酒造稅法第十三條一項ノ解釋



理由

被告ハ妨訴抗辯トシテ本件公賣處分ハ酒造稅滯納者タル飯野與三郎ニ對シ爲シタルモノニシテ原告ハ滯納處分ヲ受ケタル者ニアラサレハ假令利害ノ關係アリトスルモ之カ爲メ出訴ヲ爲シ得ヘキモノニアラスト云フモ本件ハ飯野與三郎ノ酒造稅滯納處分ノ爲メ納稅保證物タル原告所有ノ土地ヲ公賣ニ付セラレタルモノニシテ即チ原告ハ滯納處分ヲ受ケタル者ニ外ナラサレハ明治二十三年法律第六號第二ノ所謂租稅滯納處分ニ關スル事件ニ該當ス故ニ被告ノ妨訴抗辯ハ其當ヲ得ス原告ハ自己所有ノ土地ヲ飯野與三郎カ明治三十一年十月以後製造スル每酒造年度酒類製造見込石數百四十一石ニ對シ納稅保證物トシテ金五百六十四圓ト價格ヲ定メ土地抵當權設定證書ニ基キ新潟稅務管理局長ニ提供シ置キタルニ右惣太郎相續人與三郎カ酒造稅滯納處分ヲ受クル場合ニ至リシヲ以テ原告ハ公賣執行以前ニ於テ新津稅務署ニ現金五百六十四圓ヲ提供シテ該物件公賣ノ中止並ニ抵當權解除ヲ申請シタリ然ルニ稅務署長カ之ヲ採用セスシテ物件ヲ公賣ニ付シ其全額ヲ徵收シタルハ酒造稅法第十三條第一項ノ規定ニ違背セルモノナルニ依リ該公賣處分ハ之ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト云フモ右第十三條第一項ノ規定ハ保證物トシテ豫メ提供スヘキ物件價格ノ限度ヲ定メタルニ止マリ保證物件ニ依リ擔保セラルヘキ稅額ノ限度ヲ示シタルニアラス故ニ土地抵當權設定證書ニ金五百六十四圓ト記載シタルハ物件ノ價格ヲ示シタルニ過キスシテ擔保セラルヘキ稅額ヲ掲ケタルモノニアラス然レハ新津稅務署長カ本件ノ抵當物件ヲ公賣ニ付シタルハ相當ニシテ原告ノ請求ハ其理由ナキモノトス 以上ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス。

判決要旨

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル不服ノ訴 明治三十八年第二百十號 明治三十九年四月二日判決(請求相立)

- 一、町村會議員ノ選舉效力ニ關スル裁決ハ訴願訴訟ノ方法ニ據ルニアラサレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
- 一、町村制施行ノ始メニ於テ(町村制第百三十一條)郡長又ハ其ノ指命ヲ受ケタル官吏カ町村吏員ニ代テ町村ノ事務ヲ行フハ一時ノ便宜ニ據ルト雖モ其ノ行フヘキ事項ハ必スシモ一時的ノモノニ限ルニアラス永久ニ亘リ町村條例ヲ以テ定ムヘキ事項モ亦之ヲ定ムルノ權限ヲ有シタリ
- 一、町村制第二十五條第一項ニ依ル町村ノ區畫ハ之ヲ永久ニ定ルモ違法ニアラス

千葉縣香取郡佐原町長

原告 香 百 太 郎

訴訟代理人

〔坂〕 船 曳 倉 濱 次 中

裁決ノ取消○町村制第百三十一條ノ解



千葉縣選舉會  
千葉縣知事 石原健三

千葉縣事務官  
訴訟代理人 堀田實

右當事者間ニ於ケル町會議員選舉ノ效力ニ關スル不服ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

被告カ明治三十八年三月二十五日附ヲ以テ久保木萬吉ニ與ヘタル裁決ハ之ヲ取消ス、訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告ハ第一本件ハ訴外人久保木萬吉カ町會議員選舉ノ效力ニ關シ佐原町長ヘ異議ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ明治三十七年五月二十五日佐原町會ハ申立人ノ請求相立スト裁決シタルニ同人ハ之ニ服セヌ同年六月七日郡參事會ヘ訴願ニ及ヒタリ然ルニ郡長ハ佐原町長ニ再議ヲ命シ同町會ハ之ニ基キ同年七月二十七日再議ヲナシ前ノ裁決ヲ取消スト同時ニ更ニ裁決ヲ爲シタリ茲ニ於テ郡參事會ハ右萬吉ノ訴願ニ對シ同年九月十七日佐原町會カ與ヘタル裁決ハ取消サレタルモノナレハ訴願ノ目的タル事件ハ消滅シタリトノ理由ヲ以テ却下ストノ裁決ヲ與ヘタリ而シテ萬吉ハ尙ホ之ニ服セズ被告ニ訴願シ被告ハ之ヲ受理シテ裁決シタリト雖モ凡上司ニ提出スル訴願ハ下級行政廳ノ裁決ニ對スル不服ヲ根據トスヘキモノナルニ萬吉ノ訴願ハ既ニ取消サレタル裁決ヲ根據トシタルモノニシテ更ニ町會カ與ヘタル裁決ニ對スルモノニ非サレハ郡參事會カ之ヲ却下シタルハ當然ニシテ被告カ之ヲ受理シ裁決シタルハ違法ノモノタリ第二假リニ前項ニ於ケル被告ノ裁決ハ不當ナラス

トスルモ本案ノ爭點タル選舉分會ハ明治廿二年町村制施行ノ際町村制第三百三十一條ノ所定ニ從ヒ當時ノ吏員ニ於テ北岸五大字ニハ選舉分會ヲ設置スヘキ者ト決定セラレ爾來十七年間選舉ヲ行フコト七回ヲ經タルモ固ヨリ其事情ニ異動ナキヲ以テ當初定メラレタル所ノ分會設置ノ事ヲ是認シ以テ永制ト爲シテ之ヲ踏襲シ依然トシテ選舉ヲ行ヒ來レリ斯クテ監督官廳モ之ヲ是認シテ嘗テ異議アリタルコトナク町會ニ於テモ素ヨリ之ヲ是認シテ其分會ニ關スル經費ヲ可決シ來リタル次第ニテ毫モ違法ノ點ナシト主張シ被告ハ第一久保木萬吉カ町會ニ提出シタル訴願ハ其目的町會議員選舉ノ取消ヲ求ムルモノナルコトハ明確ニシテ單ニ町會カ其裁決ヲ取消シタルノ故ヲ以テ訴願ノ目的消滅シタリト云フヲ得ス殊ニ一旦町會ニ於テ訴願人ニ對シ裁決ヲ與ヘタル以上ハ其裁決ハ訴願訴訟ニ依ルノ外町村會ニ於テ之ヲ取消シ又ハ再議ニ付スコトヲ得サルモノナリ故ニ町會カ明治三十七年七月二十七日爲シタル裁決ハ無効ニシテ郡參事會ノ裁決モ亦不法ナリトス第二町村制第三百三十一條及同第二十五條第一項ヲ引用シ係爭ノ選舉分會ハ適法ノ者ニアラサルヲ以テ本件選舉ハ取消スヘキモノナリト答辯セリ按スルニ(一)町村會議員ノ選舉效力ニ關スル裁決ハ訴願訴訟ノ結果ニ依ルノ外取消スコトヲ得ヘキ規定ナシ然ルニ明治三十七年七月二十七日久保木萬吉ニ對シ與ヘタル佐原町會ノ裁決ハ訴願ニ依ラス郡長ノ命ニ基キ爲シタルモノナレハ其裁決ハ違法ナリ從テ同年九月十七日香取郡參事會カ爲シタル裁決モ亦不法ノ者ナレハ此點ニ於ケル原告ノ主張ハ理由ナキモノトス(二)町村制第三百三十一條ニハ「此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付云々」トアリテ其規定ハ町村制施行ノ際ニ於ケル一時的ノモノナルコト明ナルモ「町村長及町村會ノ職務並町村條例

裁決ノ取消○町村制第三百三十一條ノ解



ヲ以テ定ムヘキ事項ハ云々之ヲ施行スヘシトアリテ即チ當該吏員ヲシテ町村會ノ職務ヲ行ハシムヘキ趣旨ナルカ故ニ別段ノ制限ナキ限リハ凡ソ町村會ノ職務ニ屬スルモノハ一時ノ爲メニスルト將タ永續ノ爲メニスルトヲ問ハス總テ當該吏員ノ權能ニ屬スルモノト解釋セサルヘカラス又町村制第二十五條第一項ニ「町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ云々」トアルハ市制第十四條ノ區域廣濶又人口稠密ナル場合ニ於ケル規定ト同性質ノモノニシテ町村制第二十五條第一項ニ於ケル町村會ノ議決ニ對シ別ニ限定シアラサル限リハ其權能ニ依リ永續的ノ議決ヲ爲スモ之ヲ違法ナリト云フヲ得ス然リ而シテ佐原町ニ於テ町村制實施ノ際當該吏員カ選舉分會ヲ設置シタルコトハ被告モ認ムル所ニシテ其分會タルヤ設置以來十七年間ノ久シキ何等ノ異議ナク七回選舉ヲ實行シ來リシコト町會ニ於テ異議ナキノミナラス却テ甲第一號乃至四號證ノ如ク分會ニ關スル費用ノ支出ヲ承認シタルコト、監督官廳ニ於テモ數年間之ヲ看過シ來リシ事實ニ徴スレハ最初當該吏員ハ永續的ノ趣旨ヲ以テ選舉分會ヲ設置シタルモノト認定スルヲ相當トス然レハ係争ノ選舉分會ハ適法ノモノニシテ毫モ違法ノ點ナキヲ以テ本件選舉ハ取消スヘキ限ニ在ラズ然ルニ被告カ該選舉ヲ取消シタルハ其ノ當ヲ得サルヲ以テ本文ノ如ク判決ス

108

●不當公賣取消請求ノ訴 明治三十九年第三三號 明治三十九年五月三日第二部宣告 (請求相立)

判決要旨

一、酒類製造主カ清酒ノミニ付キ納稅保證物ヲ提供シタル場合ニ稅務署長ニ於テ之ヲ清酒及ヒ濁酒ニ對スル保證物ト爲シ公賣處分ヲ行ヒタルハ不當ナリ

原告 秋田縣平鹿郡福地村平民 酒造業 福岡三治郎  
秋田縣平鹿郡福地村 訴訟代理人 沼田宇源太  
從參加人 福岡友二  
被告 橫手稅務署長稅務廳 橫山時雍

右當事者間ニ於ケル不當公賣取消請求ノ訴審理判決スル左ノ如シ

主文 秋田稅務監督局長カ爲シタル本件ニ關スル裁決並ニ秋田縣平鹿郡福地村深井字深井 不當ノ公賣處分



二十七番

一郡村宅地一反六畝十二步外二筆及建物三棟  
ニ對スル公賣處分ハ之ヲ取消ス。訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告ハ酒造營業者ニシテ明治三十四年度以降每酒造年度清酒見込石數五百七石ノ申立ヲ爲シ之ニ對スル保證物ヲ提供シ釀造シ來リタル處尙又増加釀造見込石數二百一石ノ申立ヲ爲シ從參加人福岡友二ノ所有ニ係ル宅地建物即チ係争物件ヲ借受ケ右二百一石ニ對スル保證物トシテ提供シ抵當權ヲ設定シタルモ同年度以降右増加見込石數ハ更ニ釀造セサルノミナラス清酒ノ釀造高毎ニ五百七石ニモ達セサルヲ以テ増加見込石數ニ對スル保證物ハ全ク其效力ヲ發セサルニ至リタルモノナリ然ルニ被告カ原告ニ對シ滯納處分ヲ爲スニ當リ係争物ヲ差押ヘ公賣ニ付セントスルヲ以テ秋田稅務監督局長ニ訴願シタルニ訴願人ノ請求相立タストノ裁決ヲ與ヘ其理由トシテ清酒濁酒ヲ合計シテ五百七石ニ超過シタルヲ以テ増加見込石數二百一石ノ範圍内ニ入りタルモノト認メサルヲ得ストノ趣旨ヲ説明シタルモ増加見込石數ニ對スル保證物ハ清酒ノミニ對スルモノニシテ濁酒ニ何等ノ關係ヲモ有セサルコトハ原裁決中ノ横手稅務署長ノ辯明ノ要旨ニ依ルモ明カナルノミナラス濁酒ニ付テハ保證人ヲ供シテ納稅保證物ノ免除ヲ得タルモノナルニ拘ハラヌ之カ爲メ係争物ヲ公賣セントシタルハ不法ナルニ依リ原裁決並ニ係争物タル宅地建物ノ強制公賣ヲ取消サレタシト主張シ從參加人モ原告ト同一ノ主張ヲ爲シ被告ハ本訴ノ目的物タル係争物ハ原告ノ所有ニ係ル物件

ト共ニ明治三十四年十一月十四日附ヲ以テ提供シタルモノニシテ原告カ更ラニ増石ヲ爲サント欲シ提供シタルニアラス又其提供書ニハ酒類二百一石ニ對シ云々ト記載シアリテ清酒ニ對スルモノト限定シアラサルヲ以テ其效力清酒増加石數二百一石以外ニ及フ可キモノニ非スト云フヲ得ヌ又酒造稅法第十三條ニ依レル保證物ハ一酒造年度ノ全見込石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ提供スルモノナレハ提供物件價格ノ都合上五百七石又ハ二百一石ト區分シアルモ其實全石數ヲ保證シタルモノナレハ決シテ五百七石以上ノ釀造石數ヲ生シタル場合ニ限り本件ノ保證物ヲ以テ其超過石數ノミヲ擔保シタルモノト云フヲ得ヌ又濁酒ニ對スル保證人ハ三十五酒造年度ニ於テハ見込申告石數ノ一部分ニ對シテノミ之ヲ設ケ三十六酒造年度ニ於テハ全然之ヲ設ケサルカ故ニ本件ノ保證物ヲ以テ之ニ充當シタルハ不法ニアラス依テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト答辯セリ  
按スルニ乙第一號證ノ一ニハ酒類製造人福岡三治郎一酒造年度見込石數二百一石ニ對シ云々トアリテ被告ノ云フカ如ク總テノ酒類ニ對スル保證物ト認メ得ヘキ記載ナキノミナラス原裁決中横手稅務署長辯明ノ要旨ニ「清酒製造見込石數(中略)二百一石ニ對シテハ福岡友二所有ノ土地建物云々」トアリ又甲第一號證ノ一ニ「清酒二百一石ニ對シ云々」トアルモ又乙第三號證ノ如ク乙第一號證成立ノ當時濁酒ニ對シテハ保證人ヲ供シテ納稅保證物ヲ免除セラレアル事實ニ參照スルモ係争物件ハ清酒ノミニ對シ提供シタル保證物ナリト認メサルヲ得ヌ然ルニ被告稅務署長カ清酒及濁酒ニ對スル保證物トシテ公賣處分ヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス依テ本文ノ如ク判決ス

不當ノ公賣處分



●村會議員選舉ニ關スル不當裁決取消ノ訴

明治三十八年第五百二十八號  
明治三十九年五月二十五日判決

(請求不立)

判決要旨

一、甲者カ相續ニ依リ取得シタル不動産ノ名義書換ヲ爲サス依然前戸主タル乙者ノ名義ヲ以テ地租其他ノ税金ヲ納附シ來リタルモ其ノ實甲者ノ納税ニ外ナラサレハ甲者ハ町村制第七條ノ所謂其ノ町村内ニ於テ租税ヲ納メトアル條項ニ該當スルモノトス

一、村長カ村會議員選舉ノ日時ヲ定メテ公告シタル後其ノ開會時間ヲ増加スルモ違法ニアラス

原告 大分縣宇佐郡天津村 田所權九郎 訴訟代理人 松本隆治  
被告 小倉久 訴訟代理人 佐藤益三  
大分縣參事會 外二名 井上太郎

右當事者間ノ村會議員選舉ニ關スル不當裁決取消ノ訴訟審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス、訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告請求ノ要旨ハ被告ハ原告村會及宇佐郡參事會カ與ヘタル明治三十七年四月二十八日原告村役場ニ於テ執行セシ同村村會議員定期半數改選ハ瑕瑾アルニヨリ之ヲ取消ストノ裁決ニ對シ相手方ノ訴願ニ基キ前裁決ヲ取消シ右選舉ヲ維持ストノ不當ナル裁決ヲ下シタリ然レトモ該選舉ハ(第一)無資格投票アルモノナリ即チ中村光次郎新貝政次郎ハ何レモ自己ノ名義ニ於テ納稅義務ヲ盡シタルモノニアラス即チ光次郎ハ身分相續ノミニシテ課稅標準タルヘキ丈ノ行爲ヲ完フセス又政次郎ハ同年二月ニ至テ財產相續アリタルモ未タ資格享有ノ法定年限ニ達セス(第二)又選舉人佐々木陸三郎ハ已ニ無資産トナリテ選舉資格ヲ喪失シ何レモ選舉ニ參與シ能ハサルモノニシテ同人家投票ヲ爲シタルハ違法ナリ(第三)封緘ナキ投票ヲ有効投票ニ混同シテ選舉ノ効力ヲ決定セシメタルモノナリ(第四)選舉掛長ハ決定ニ基キ已ニ公告シ且ツ郡長ヘ報告シタル選舉ノ日時明治三十七年四月二十八日午前八時ヲ同月二十六日即チ期日前三日ニ至リ擅ニ之ヲ同日午前七時ト變更シタル違法アルモノナルヲ以テ被告カ大分縣宇佐郡天津村村會議員二級選舉ニ關シ爲シタル裁決ハ之ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ原告ハ本件選舉人中新貝政次郎ト中村光次郎ノ二名ハ家督相續後未タ外部ニ對抗シ得ヘキ行爲ヲ完了サセル無資格者ナリト云フモ町村

村會議員ノ選舉ニ關シ選舉開會時間ノ増加



制第七條中地租ヲ納メトアルハ原告ノ言フカ如ク必シモ其登記ヲ爲シタルコトヲ必要トスルモノニアラスシテ法律上納稅者タルコトヲ確認シ得ヘキ行爲ヲ完了スルヲ以テ充分ナリトス依テ之ヲ本件事實ニ照合スルニ前記新員政次郎ハ明治三十年四月二十四日中村光次郎ハ明治三十四年五月二十四日戸主亡ニ衣リ其家督ヲ相續シ戸籍吏ニ於テ已ニ其登録ヲ了シタルヲ以テ假令其不動産ニ付未タ登記ヲ經サルモ法律上前戸主ノ權利ヲ承繼シ其納稅者タルコトヲ確認シ得ヘク之ヲ無資格者ト云フコトヲ得ス何トナレハ財產權ヲ以テ資格ノ要件ト定メタル場合ニ於テ其財產ヲ適法ニ所有スルヤ否ヤヲ決スルハ一ニ民法ノ規定ニ依ルヘキハ言フ俟タサル所ナレハナリ又原告ハ投票中封緘ヲ施サ、ルモノ數箇ヲ有効トシテ決定シタリト主張スルモ其主張ニ關シテハ何等ノ舉證ヲ爲サ、ルノミナラス選舉錄ニヨレハ無封緘ノ投票一箇アリテ之ヲ無効トシタル旨明ニ記載シアリ是ニ依リテ之ヲ觀ルモ原告主張スルカ如ク無封緘ノ投票數箇アリタルモノト認ムルヲ得ス又原告ハ村長ニ於テ選舉前三日ニ至リ豫定ノ時刻ヲ變更シタルハ選舉ノ定規ニ違背シタル不法ノ選舉ナリト云フモ抑モ町村制第二十九條第三項ノ規定ハ選舉全體ニ影響ヲ及ホスヘキ瑕瑾アル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ本件ノ如キ選舉人ノ權利ヲ障害シ又ハ選舉全體ニ何等ノ影響ヲ及ホサル場合ニ適用スヘキモノニアラス又原告ハ無資格者タル佐々木睦三郎カ本件選舉ニ參與シタリト云フモ該事實ハ之ヲ認ムルニ足ルヘキ證左ナキノミナラス假リニ一步ヲ讓ルモ之カ爲メニ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキニ依リ之ヲ取消スヘキ限ニアラサルヲ以テ原告請求排斥ノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

按スルニ第一、原告ハ中村光次郎新員政次郎カ自己ノ名義ニ於テ納稅義務ヲ盡ササルヲ以テ村會議員ノ選舉權ナシト主張スルモ中村光次郎ハ明治三十四年五月二十四日新員政次郎ハ明治三十年四月二十四日孰レモ前戸主タル父ノ死亡ニ因リ其家督ヲ相續スルト共ニ父所有ノ地所ヲ獲得シタルモ其所有名義書替ノ手續ヲ爲サ、ルニヨリ父ノ名義ヲ以テ地租及村稅地價割等ヲ納來レルモノニシテ其實中村光次郎新員政次郎ノ納稅ナレハ町村制第七條ノ所謂「其町村内ニ於テ地租ヲ納メ、トアルニ該當スルヲ以テ同人ニ村會議員ノ選舉權ナシト云フヲ得ス第二、原告ハ佐々木睦三郎ハ無資產トナリ選舉資格ヲ喪失シ選舉ニ參與シ能ハサルモノニシテ同人カ投票ヲ爲シタルハ違法ナリト云フモ佐々木睦三郎カ投票ヲ爲シタルコトハ信憑スルニ足ルヘキ立證ナキヲ以テ之ヲ事實ナリト認ムルコトヲ得ス第三、原告ハ本件選舉ハ封緘ナキ投票數箇ヲ加算シテ其効力ヲ決定シタルモノナリト云フモ選舉錄ヲ閱スルニ「一票封緘ナキ投票ハ同掛ニ於テ無効ト決定セリ」ト記載シ此他ニ無封緘ノ投票アリシコトヲ記載セス而シテ原告ハ此點ニ付信憑スルニ足ルヘキ反證ヲ提出セサルヲ以テ別ニ無封緘ノ投票數箇アリシモノト認ムルコトヲ得ス第四、原告ハ選舉ノ日時明治三十七年四月二十八日午前八時ヲ選舉期日前三日ニ至リ擅ニ之ヲ同日午前七時ト變更シタルハ違法ナリト云フモ別ニ其期日ヲ短縮シタルニアラスシテ其選舉會ノ時間カ午前八時ヨリ同十一時マテナリシヲ午前七時ヨリ同十一時マテトシ開會時間ヲ増加シタルニ過キサレハ選舉權行使ニ何等ノ障害ヲ及ホサルヲ以テ之ヲ違法ナリト云フヲ得ス以上ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

村會議員ノ選舉開會時間ノ増加



●國有林下戻處分取消請求ノ訴

明治三十七年第九十五號  
明治三十九年五月二十二日第二部裁決

(却下)

二頁

判決要旨

一、大字代表者ノ訴訟ハ村會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス  
一、大字代表者ノ訴訟ニシテ村會ノ決議ヲ缺ク場合ニ裁判所カ  
期間ヲ定メ村會決議書ヲ提出スヘキ旨ヲ命シタルモ該期間  
内ニ之ヲ提出セザルトキハ其訴訟ヲ却下ス

原告 奈良縣生駒郡南生駒村  
南生駒村長 中川 清吉

被告 農商務大臣 松岡 康毅

右原告村長中川清吉ヨリ被告農商務大臣松岡康毅ニ對スル國有林下戻處分取消請求ノ訴ニ就キ裁  
決スルコト左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ却下ス

理由

本訴ハ大字代表者ノ訴訟ニシテ訴訟提起ニ關スル村會ノ決議ヲ要スルモノナルニ依リ明治三十九  
年四月二十三日三週内ニ村會決議書ヲ提出スヘキ旨ヲ達シタルニ原告ハ右期間内ニ提出セザル  
ヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ主文ノ如ク裁決ス

八七

八六

●町稅滯納處分取消ノ訴

明治三十八年第三百九十號  
明治三十九年五月二十二日第二部宣告

(請求不立)

判決要旨

一、町村稅ノ納入義務ハ町村制第百二條第三項ニ依リ會計法第  
十九條ノ要件ヲ具備シタルモ其期滿免除ニ由テ消滅ス  
一、會計法第十九條ニ所謂上納ノ告知トハ期滿得免ヲ中斷スル  
行爲即チ賦課令狀納入告知若クハ督促令狀等ヲ指稱シタル  
ニ止マリ賦課令狀又ハ納入告知ヲ發シタルモノニハ期滿得  
免ヲ適用セサルノ旨趣ヲ含ミタルモノト解スルヲ得ス

原告 茨城縣久慈郡大子町  
黒崎 大輔 訴訟代理人

鈴木 濟美  
丸岡 東治

被告 茨城縣知事  
寺原 長輝 訴訟代理人

益子 庄次

町村稅ノ期滿得免ノ會計法第十九條ノ旨趣○大字代表者ノ訴訟

二七



右當事者間ニ於ケル町税滞納處分取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主 文  
明治三十六年九月十七日大子町長カ原告ニ對シテ爲シタル町税滞納處分中明治三十年度分地價割營業割戸別割合計金二圓五十八錢六厘ノ滞納處分ハ之ヲ取消ス  
其他原告ノ請求相立タス 訴訟費用ハ各自辨トス

理 由

原告陳述ノ要旨ハ大子町長ハ明治三十六年九月十七日原告ニ町税區費及授業料等明治三十年度ヨリ明治三十五年度ニ至ルマテ合計金三十八圓七十錢九厘ノ滞納アリトシテ滞納處分ヲ爲シタルトモ原告ハ該滞納金ニ付未タ一回モ督促令狀ヲ受ケタルコトアラス假ニ被告主張スルカ如ク明治三十六年九月中督促令狀ヲ受ケタルモノトスルモ該滞納金中明治三十年度分金二圓五十八錢六厘及明治三十一年度分金八十二錢六厘ハ其納付スヘキ年度後五年ヲ經過シタルヲ以テ町村制第二百二條及會計法第十九條ニ依リ納稅義務ヲ免レタルモノナリ然ルニ大子町長ハ是等ノ區別ヲ爲サズ滞納處分ヲ爲シタルハ不法ナルヲ以テ其取消ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ大子町ノ住民ニシテ同町ニ納ムヘキ町税區費及授業料等明治三十年度ヨリ明治三十五年度マテ合計金三十八圓七十錢九厘ヲ滞納シタルヲ以テ大子町長ハ明治三十六年九月九日督促令狀ヲ發シタルニ原告ハ住所ニ於テ之レカ受取ヲ拒ミタルヲ以テ其旨公告シ而シテ滞納處分ヲ爲シタル原告ハ該處分ヲ不法ナリト主張スレトモ原告カ滞納シタル金額ニ付テハ各其年

度ニ於テ賦課令狀又ハ納入告知ヲ發シタルモノニシテ町税其他町ノ收入ニ付テハ法律勅令中賦課令狀又ハ納入告知ヲ發シタルモノニ對シテ時効ノ規定無キヲ以テ假令滞納處分カ後レタリトスルモ納入義務消滅シタルモノト謂フヲ得ス假ニ會計法第十九條ヲ適用ス可キモノトスルモ本件滞納金ニ付テハ大子町長ヨリ數回督促ヲ爲シタルヲ以テ時効ヲ中斷セリ然ラハ大子町長ノ爲シタル處分ハ適當ニシテ原告ノ請求ハ理由無キモノナリト云フニ在リ

按スルニ町村税ノ期滿得免ニ付テハ町村制第二百二條第三項ノ規定ニ依リ會計法第十九條ヲ適用スヘキモノトス而シテ本件原告ノ滞納金中明治三十年度分ハ甲第一號證ノ通り同年度内ニ納ムヘキモノナレハ其年度經過後明治三十一年會計年度ノ始ヨリ起算シテ明治三十五年會計年度ノ終即チ明治三十六年三月三十一日ヲ以テ滿五箇年ニ達スルモノニシテ大子町長カ原告ニ對シ發シタル督促令狀ハ其レヨリ後レテ明治三十六年九月九日ナレハ明治三十年度分町税ハ期滿得免ニ依リ原告ニ納稅ノ義務無キモノトス原告ハ明治三十一年度分町税モ期滿得免ニ依リ納稅義務ヲ免レタルモノナリト云フモ該年度分ハ甲第二號證ノ通り明治三十一年度内ニ納ムヘキモノナレハ其年度經過後明治三十二年會計年度ノ始ヨリ起算シテ明治三十六會計年度ノ終即チ明治三十七年三月三十一日ニ至ラサレハ滿五箇年ニ達セス然ルニ大子町長ハ明治三十六年九月九日原告ニ對シテ督促令狀ヲ發シタルコト乙第四、五號證ノ如クニシテ期滿得免ハ該督促令狀ニ依リ中斷セラレタルモノナレハ原告ハ明治三十一年度分及其以後ノ納稅義務ヲ免レサルモノトス被告ハ賦課令狀又ハ納入告知ヲ發シタル町税其他町ノ收入ニ付テハ期滿得免ノ規定無シト云フモ會計法第十九條ニ滿五箇年内ニ上

町村税ノ期滿得免○會計法第十九條ノ旨趣



納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ルモノトアル上納ノ告知トハ期滿得免ヲ中斷スル行爲即チ賦課令狀納入告知若クハ督促令狀等ヲ指稱シタルニ止マリ賦課令狀又ハ納入告知ヲ發シタルモノニハ期滿得免ヲ適用セサル趣旨ヲ含ミタルモノト解釋スルヲ得ス又本件滯納金ニ付テハ大子町長ヨリ數回原告ニ對シテ督促ヲ爲シタリト云フモ乙第一號證乃至第三號證ハ議事録、引繼書等ニシテ之ニ原告ニ督促スル旨ノ記事アルモ果シテ該記事ノ通り原告ニ對シテ適法ノ督促ヲ爲シタルヤ否不明ナルヲ以テ被告ノ主張ヲ認ムルニ足ラス以上ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

●違法租稅滯納處分ニ對スル訴 明治三十八年第四百十九號 明治三十九年五月二十九日第二部宣告 (請求相立)

判決要旨

一、稅務署長カ所得稅法及ヒ國稅徵收法ノ規定ニ依リ滯納處分ヲ行ハンニハ先ツ納稅告知書玆ニ督促狀ヲ納稅人ノ住所又ハ居所ニ送達シ其住所居所共ニ不明ナルトキハ公告ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス  
一、二箇所ニ戶籍ヲ有スル納稅人ニ對シ其寄留地ニ於テ納稅告知書及ヒ督促狀ノ送達ヲ遂ケ能ハサル一事ヲ以テ直チニ住

所居所共ニ不明ナルモノトシテ公示送達ヲ爲シ滯納處分ヲ行ヒタルハ違法ナリ

茨城縣稻敷郡長竿村大字長竿  
三千八百七十七番地  
原告 安達仙太郎  
辯護士  
訴訟代理人 板倉中  
被告 江戶崎稅務署長  
稅務屬 猪早秀

右當事者間ニ於ケル違法租稅滯納處分ニ對スル訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告江戶崎稅務署カ原告ニ對シ爲シタル滯納處分ハ之ヲ取消ス 訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告陳述ノ要旨ハ原告ハ明治三十五年四月二十八日ヨリ單身茨城縣稻敷郡長竿村大字長竿三千八百七十七番地ニ寄留シ同地ニ於テ醫業ニ從事セシモ明治三十七年三月第一師團へ見習醫官ノ志願ヲ爲シ同年五月召集セラレタルヲ以テ休業ヲ爲シ同年一月ヨリ五月ニ至ル所得ハ僅カニ百圓ニ滿タサルニ因リ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲サ、リシモノナリ政府カ所得稅ヲ賦課セントスルニハ同法第三十五條ニ依リ所得決定額ヲ通知セサルヘカラサルニ被告ハ其手續ヲ爲サルノミナラス納

租稅滯納處分ノ要件○違法ノ滯納處分



税告知書及督促状ヲモ送達セズ佐原稅務署ニ囑託シテ突然原告ノ財産ヲ差押ヘ滯納處分ヲ爲シタルハ不法ナルヲ以テ該處分ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ原告ハ明治三十七年四月二十日附ヲ以テ所得金額三百圓ト記シタル自己署名ノ申告書ヲ提出シタルモノニシテ被告ハ之ニ基キ明治三十七年八月四日決定通知書ヲ原告ノ居村タル長竿村ニ送達セシモ原告ハ當時廣島豫備病院ニ滯在スルニ付同所ヘ送達アリタキ旨ヲ以テ家族ハ受取ヲ拒ミタリ依テ同月二十日之ヲ其滯在地ニ郵送セリ原告ハ納稅告知書及督促状ノ送達ヲ受ケタルコトナシト云フモ納稅告知書ハ明治三十七年九月一日長竿村役場ヨリ原告ノ留守宅ニ送付シ其後原告ヨリ納稅セラレサルニ付十月八日督促状ヲ長竿村原告ノ留守宅ニ送達セシモ家族ハ他ニ移轉シ居所不明ナルニ依リ公務ノ手續ヲ爲シ滯納處分ヲ爲シタルモノニシテ固ヨリ適法ノ處分ナレハ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ按スルニ原告ハ乙第一號證申告書ヲ被告稅務署ニ提出シタルコトナシト主張スルモ該證中原告名下ノ印影ハ原告ノ實印ナルコト原告ノ認ムル所ナレハ他ニ反證ナキ限りハ該申告書ハ原告ヨリ提出シタルモノト認メサルヲ得ス隨テ原告ハ此所得金額ニ對シテハ納稅ノ義務アルモノトス而シテ所得稅法及國稅徵收法ノ規定ニ基キ滯納處分ヲ爲サントスルニハ納稅告知書及納稅督促状ヲ滯納者ニ送達スヘク是等ノ書類ハ孰レモ納稅者ノ住所又ハ居所ニ送達スヘキモノニシテ住所共ニ不明ナルトキハ公告ノ手續ヲ爲シ初メテ滯納處分ニ着手スヘキモノトス被告カ明治三十七年八月四日所得金額決定書ヲ廣島豫備病院ニ滯在セル原告ニ送付シタルコトハ乙第六號證ニ依リ認メ得ヘキモ其後納稅告知書及督促状ヲ長竿村ニ送付セシ當時原告カ同村ニ住居セザルコトハ乙第

二號證及乙第四號證ノ如ク被告モ之ヲ認知セシ所ナリ甲第二號乃至甲第五號證ノ各村長證明書ニ依レハ原告ハ明治三十五年四月二十八日原籍地タル千葉縣香取郡神崎町ヨリ單身茨城縣稻敷郡長竿村ニ寄留シタルモノニシテ斯ノ如ク二箇所ニ月籍ヲ有スル場合ニ於テハ寄留地ニ住居セザルコトヲ確メタル以上原籍地ニ住居セルモノト看做スヘキモノナレハ長竿村ニ於テ該書類ノ送達ヲ爲ス能ハサル場合ハ神崎町ニ於テ送達ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ被告ハ單ニ決定通知書ヲ原告ニ送付シタルノミニシテ納稅告知書及督促状ヲ原籍地タル神崎町ニ送達ヲ試ミタルコトナク漫然原告ノ住所居所共ニ不明ナリトシ公告送達ヲ爲シ滯納處分ヲ爲シタルハ其手續ヲ誤リタルモノニシテ違法ノ處分ナリトス依テ主文ノ如ク判決ス

相續稅課稅價格決定取消ノ訴 明治三十九年五月三十日第二號裁決 (却下)

判決要旨

一、稅務署長ノ課稅價格決定ニ不服アルモ稅務監督局ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

原告 三枝久兵衛  
 東京市日本橋區本石町二丁目  
 十六番地平民吳服商



辯護士 三宅 碩 夫

訴訟代理人 新大橋稅務署長

被告 川村 信成

右原告三枝久兵衛ヨリ被告新大橋稅務署長川村信成ニ對スル相續稅課稅價格決定取消ノ訴訟訴狀ニ就キ審査シ裁決スルコト左ノ如シ

主 文

本訴ハ之ヲ却下ス

理 由

原告訴訟ノ要旨ハ原告ハ明年三十八年六月二十一日姉以て死亡シタルニ因リ其遺產相續ヲ爲シタルニ被告ハ何等據ル所ナキニ拘ラス其課稅價格ヲ三万一千九百圓ト決定シタルヲ以テ再審査ヲ求メタルニ被告ハ尙其課稅價格ヲ三万一千九百圓ト決定シタルハ不當ナルヲ以テ之カ取消ヲ求ムト謂フニ在レトモ凡ソ行政訴訟ハ行政裁判法第十七條ニ依リ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クハ外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノナリ本件原告ハ被告ハ右處分ニ對シ地方上級行政廳タル稅務監督局ニ訴願シタルコトナク又本件ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノニアラサルヲ以テ當裁判所ニ於テ受理スヘキ限リニアラス右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ前記主文ノ如ク裁決ス

官有荒蕪地使用許可不當ノ訴

明治三十九年第五十三號  
明治三十九年五月十一日第一節裁決

(却下)

判 決 要 旨

一、縣知事ニ對シ官有荒蕪地貸渡ノ許可ヲ出願シ却可ノ處分ヲ受ケタル者ハ縣參事會ニ訴願シ得ヘキ規定ナケレハ縱令同參事會ニ訴願シ裁決ヲ經ルモ出訴期限ハ最初ノ却下處分ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算セサルヘカラス

宮城縣志田郡高倉村堤根  
十二番地平民

原 告 樋口 林 吉

外二名

宮城縣志田郡高倉村長

被 告 柏倉 嘉右衛門

右原告ヨリ被告高倉村長柏倉嘉右衛門ニ對スル官有荒蕪地使用許可不當ノ訴訟狀ニ就キ審査シ裁決スルコト左ノ如シ

主 文

本訴ハ之ヲ却下ス

官有地貸渡不許可處分ト出訴期限ノ起算點



理由

原告訴求ノ要旨ハ原告ハ明治三十七年七月二十八日附ヲ以テ宮城縣廳ニ官有荒蕪地砂寄地貨渡ノ許可ヲ出願シタルニ宮城縣知事ハ明治三十九年一月十九日附ヲ以テ却下ノ處分ヲ爲シタルニ依リ縣參事會ニ訴願シタルニ是又却下ノ裁決ヲ受ケタルヲ以テ其處分及裁決ノ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如キ場合ニ縣參事會ニ訴願スヘキ規定ナキヲ以テ本件ノ出訴ニ付テハ最初ノ却下處分ヲ受ケタル日ヨリ其期限ヲ算定セサル可カラス然レハ原告ハ右處分書ノ交付ヲ受ケタル明治三十九年一月二十二日ヨリ法定ノ期間六十日ニ民事訴訟法第六十七條ヲ適用シ里程ニ對スル伸長日數十三日ヲ加ヘ七十三日以内即チ明治三十九年四月五日マテニ出訴セサル可カラサルニ原告カ本訴ヲ提起シタルハ本年四月十日ナレハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下スヘキモノナリ依テ主文ノ如ク裁決ス

三六

九六

●村會議員選舉効力ニ關スル訴

明治三十八年第三百十七號  
明治三十九年六月十一日宣告

(請求不立)

判決要旨

一、町村制第十八條第二項ノ名簿修正ニ關スル選舉前十日ノ期間ハ之ヲ減縮スルコトヲ許サス而シテ該期間ヲ計算スルニハ普通ノ場合ト同シク修正ノ當日ヲ算入セサルヲ相當トス

一、町村長カ町村制第十八條第二項ノ法定期間ヲ減縮シ選舉前九日ヲ以テ名簿ニ修正ヲ加ヘタルハ選舉全體ニ影響ヲ及ホスヘキ瑕瑾ナルカ故ニ其選舉ハ之ヲ取消スヘキモノトス

福井縣南條郡北山山村

原告 井上彌次右衛門

福井縣參事會  
福井縣知事

被告 本杉之助

訴訟代理人

〔佐下 義一〕

右當事者間ニ於ケル村會議員選舉効力ニ關スル訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

選舉人名簿ノ修正ニ關スル期間ノ計算

二七



被告カ明治三十八年六月十五日北杣山村村長關莊助ニ與ヘタル判決及明治三十七年五月十三日同十四日執行シタル同村會議員ノ選舉ハ之ヲ取消ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告陳辯ノ要旨ハ第一明治三十七年五月十三日十四日ノ兩日ニ執行シタル北杣山村會議員選舉ハ村長ニ於テ村會ノ裁決ヲ經スシテ同年四月十九日選舉原簿中岩崎平太郎外一名ヲ删除シ其翌二十日高木久兵衛外三名ヲ加ヘタル不法ノ原簿ニ依ルモノナルヲ以テ該選舉ハ違法ナリ第二本件選舉人名簿ハ縦覽期限中澤崎丈右衛門外三名ノ訴願ニ依リ選舉人名簿ニ登載セラレタル結果二級選舉人タル澤崎嘉藏ヲ一級選舉人中ニ組入ルヘキニ之ヲ組入レサルハ級別ヲ誤リタル名簿ナリ第三前項澤崎丈右衛門外三名ノ訴願ニ對シ村會ノ裁決ヲ口頭ヲ以テ告知シタリト云フモ訴願法ニ依レハ裁決ハ書面ヲ以テ告知スヘキモノナリ假リニ口頭ヲ以テ告知スモ妨ナシトスルモ右裁決ハ未タ確定スヘキ期間ヲ經サルモノナレハ村長カ裁決ノ日ニ於テ名簿ヲ修正シ之ニ依リ選舉ヲ執行シタルハ違法ナリ第四二級選舉人トシテ名簿ニ登載シタル山本治五衛門ハ一級選舉人ニ屬スヘキモノナルヲ二級ニ屬セシメタルハ是亦等級別ヲ誤リタル違法ノモノナリ第五井上庄左衛門ハ選舉權ナキモノナルニ之ヲ二級選舉人トシ選舉投票ヲ爲サシメタルハ違法ナリ第六甲第六號證ニ列記シタル選舉有權者二十八名ハ何レモ投票ヲ他人ニ代書セシメタルモノナレハ是亦違法ナリ第七澤崎丈右衛門外三名ノ訴願ニ對シ選舉權アリト村會ニ於テ裁決セシハ明治三十七年五月三日午後五時十八分ナリ故ニ其翌日ヨリ起算シテ同月十二日ニ至ル迄ハ九日間ニ過キス然ルニ村長ハ第三ニ陳述ス

八〇

ル如ク濫リニ名簿ヲ修正シ之ニ依リ選舉ヲ執行シタルハ違法ナリ以上ノ理由ニ依リ被告ノ裁決及本件選舉ノ取消ヲ請フト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ第一原告ニ於テ主張スル所ハ何等立證ヲ認ムヘキモノナキノミナラス假リニ選舉原簿ヲ修正シタリトスルモ村會ノ裁決ヲ經ヘキモノニアラス第二原告ハ澤崎嘉藏ハ一級選舉人ニ組入ルヘキモノナリト云フモ其證明書ハ村稅ノ種類納期等其算出ノ基ク所ヲ示サス且村役場書記ハ此等ノ證明ヲ爲シ得ヘキ權能ナキノナレハ證據ノ力ナシ第三明治三十七年五月三日村會ニ於テ乙第二號證ノ如ク裁決ヲ爲シ口頭ヲ以テ訴願人ニ告知シタルハ唯其形式ヲ缺キタルニ止リ裁決ノ効力ニハ何等影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス而シテ訴願ノ裁決ニ依リ選舉前十日ヲ限リ名簿ヲ修正シテ確定名簿ト爲スヘキコトハ町村制第十八條ノ明示スル所ニシテ同制理由書第二章ニ依ルモ其旨趣明瞭ナリ第四原告ハ山本治五右衛門ヲ選舉人名簿二級ノ部ニ組入レタルハ級別ヲ誤レリト云フモ之カ立證ハ第二ニ於テ排斥シタル如ク證據力ナキノミナラス其級別ヲ誤リタリト認ムルヲ得ス第五井上庄左衛門ハ乙第四號證ノ如ク土地ヲ所有シ地租及村稅ヲ納ムルモノニシテ選舉權ニ欠クル所ナシ第六原告ハ選舉人ノ内數名ハ個人ノ私宅ニ於テ他人ニ代書セシメ投票シタリト云フモ其證明書ハ隨時作製シ得ヘキ個人ノ私書ニ過キサレハ證據力ナシ第七本件選舉人名簿ハ町村制第十八條ノ規定ニ基キ明治三十七年五月三日確定名簿ト爲セシコトハ第三ニ於テ辯明シタリ然ルニ原告ハ名簿ノ修正ハ村會ニ於ケル裁決ノ翌日ニ於テ爲スヘキカ如ク論スルモ同條ニ因レハ修正ノ日時ヲ限定セサルヲ以テ訴願裁決ノ當日ニ於テ修正シ得ヘキハ當然ナリ然ラハ村會ノ議事終了ハ午後五時十八分ナリト雖一般ノ計算法トシテハ午後十二

他事記入ノ遺漏(町村制第二十三條)



時ニ至ル迄ハ名簿ヲ修正シ得ヘキニ依リ村長カ村會ノ裁決ニ基キ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ依リ選舉ヲ執行シタルハ違法ニアラス要スルニ本件選舉人名簿ハ前項ニ陳辯スル如ク適法ニ確定シタルモノナルハ該簿中瑕瑾アリト假定スルモ之ヲ以テ本件選舉ヲ無効ナリト云フヲ得ス依テ原告ノ請求ハ排斥ヲ請フト云フニアリ

按スルニ被告ハ明治三十七年五月三日午後五時十八分澤崎丈右衛門外三名ノ訴願ニ對シ村會ニ於テ爲シタル裁決ニ基キ直ニ村長カ名簿ノ修正ヲ爲シ之ニ依リ選舉ヲ執行シタルハ違法ニアラスト主張スルモ町村制第十八條第二項ニ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘ云々トアル以上ハ選舉前十日ノ期間ヲ減縮スルヲ得ス而シテ普通期間ヲ計算スル場合ニ於テハ事柄ノアリタル當日ヲ算入セサルモノナルカ故ニ本件ノ争點タル町村制第十八條第二項ノ期間ニ於テモ修正ノ當日ヲ算入セサルヲ相當トス然レハ本件ハ法定ノ期間ヲ減縮シ選舉前九日ニ於テ修正ヲ爲シタルモノナルハ之ヲ違法ニアラスト謂フヲ得ス而シテ右期間ノ減縮ハ選舉全體ニ影響ヲ及ホスヘキ瑕瑾ナルヲ以テ該選舉ハ同制第二十九條ニ依リ取消スヘキモノトス已ニ此點ニ於テ選舉ヲ取消スヘキ理由アル以上ハ他ニ雙方論争スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ説明セス依テ主文ノ如ク判決ス

●不當裁決取消ノ訴

明治三十八年第四百二十五號  
明治三十九年六月十一日第一號部宣告 (請求不立)

判決要旨

一、町村制第二十三條第二項ノ四ハ選舉ニ有害ナル事項若クハ

雜事等ヲ投票ニ記入スルコトヲ禁止セルモノトス從テ單ニ被選舉人ノ住所ヲ明ニスル爲メ其番地ヲ記入シタル投票ノ如キハ之ヲ無効ト爲スヘキモノニアラス

秋田縣山本郡上岩川村

原告 川村 徳吉 外一名

訴訟代理人 安達元之助

被告 秋田縣選舉會  
秋田縣知事 清野長太郎

主文

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

本訴ノ要點ハ被選舉人氏名ノ外其ノ住居スル番地ヲ記入シタル投票ハ無効ナルヤ否ヤニ在リ原告ハ係争投票ハ町村制第二十三條第二項ノ四ニ被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノトアルニ該當シ無効ナリト主張シ被告ハ該投票ハ被選舉人ノ住所ヲ明カニスル爲メ其ノ番地ヲ記入シタルニ外ナラサルヲ以テ無効ニ非スト答辯セリ按スルニ町村制第二十三條第二項ノ四ハ選舉ニ有害ナル事項若クハ雜事等ヲ記入スルコトヲ禁止スルノ法意ナルカ故ニ係争投票ノ如キ單ニ被選人ノ住所ヲ

他事記入ノ意義(町村制第二十二條)



明カニスル爲メ其ノ番地ヲ記入シタルモノト認ムルモノハ該法條ニ依リ無効ト爲スヘキモノニ非  
ス然レハ被告カ本件係争投票ヲ有効トシタルハ不當ニアラサルヲ以テ被告ノ裁決ハ取消スヘキ限  
ニ非ス依テ主文ノ如ク判決ス

●縣參事會裁決取消請求ノ訴  
明治三十八年第三百十八號  
明治三十九年六月十一日判決  
(請求不立)

判決要旨

一、郡會議員選舉ノ投票ニシテ暗ニ選舉者ノ何人タルヲ示サ  
トスル寓意の記入ヲ爲シタルモノハ法律ニ所謂他事記入ノ  
投票ニ該當シ無効ナリトス

原告 長崎縣選舉區 松阪嘉十郎 輔佐人 元田 肇  
被告 長崎縣知事 荒川義太郎 訴訟代理人 永野悦治郎

右當事者間ノ縣參事會裁決取消請求ノ訴ニ付審理判決スル左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告ハ明治三十八年六月十九日附ヲ以テ被告カ與ヘタル明治三十六年十一月十九日壹岐郡參事會  
ノ與ヘタル決定ハ之ヲ取消ストノ裁決ヲ取消シ更ニ原告ノ壹岐郡會議員ノ當選ヲ有効トストノ判  
決ヲ求ムト申立テ之カ請求ノ原因トシテ供述セル事實ノ要旨ハ明治三十六年九月三十日長崎縣壹  
岐郡柳田村選舉區郡會議員選舉會ニ於テ原告ハ六十五票許斐英一郎ハ五十八票ヲ得タルモノトシ  
原告ヲ壹岐郡會議員ノ當選者ト決定セラレタル處山田某外數名ハ該決定ニ異議ヲ申立テ尙亦郡參  
事會ノ決定ニ對シ長崎縣參事會ニ訴願ナセシニ被告ハ原告ノ得票ヲ七十一票許斐英一郎ノ得票ヲ  
七十六票ト査定シ明治三十六年十一月十九日壹岐郡參事會ノ與ヘタル決定ヲ取消ストノ裁決ヲナ  
セリ然レトモ甲一號證ノ第十七號(許斐英一郎)第十八號(許斐與一郎)第二號(コノミユイ一ロ)第  
八號(コノミエイ一)第七號(コノミエイニロー)第十一號(許斐寅一郎)第十二號(許斐榮郎)ノ投  
票ハ許斐英一郎ニ投票セシモノト云フ能ハス又第三號第四號第五號第六號ハ各票裏面ニ「一」  
「コケ」及ヒ第三號第十號第十二號第十四號各票紙ノ表面ニ「一」  
「フ」等ノ記號様ノモノ  
付シアルハ偶然ノ汚點ニアラスシテ一種ノ符號ナリ第十六號「右選舉候也」トアルモ是亦一種ノ符  
號トナシ得ヘキモノニシテ何レモ選舉人ノ何人タルカヲ暗示セントスルノ手段ニ出テタルモノニ  
シテ無記名投票ノ本質ヲ没却シタル無効ノ投票ナリト云フニアリ被告抗辯ノ要領ハ原告ハ第二號  
乃至第八號第十號乃至第十二號及第十四號第十六號乃至第十八號ノ各票ハ一種ノ符號ヲ付シタル  
モノ又ハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノナレハ無効ノ投票ナリトスルモ第三號乃至第六號  
第八號第十號第十二號第十四號ノ各票ハ筆ヲ落シ墨汁ヲ散逸シタル等過失ノ汚點ニ過キス第二號

他事記入ノ投票



第七號第八號第十一號第十二號第十七號第十八號ノ各票ハ誤字脱字又ハ文字ノ字格ニ稍ヤ缺クル所アルノミニ止マリ被選舉人中他ニ許斐英一郎ニ類似ノ氏名ナキヲ以テ看レハ該投票ハ許斐英一郎ヲ指シタルモノト認ムルハ相當ナリ其他第十六號「右選舉候也」トアル如キハ被選舉人ヲ的確ナラシムルカ爲メニ外ナラサレハ之ヲ以テ一種ノ符號ト看做スヘキニ非ス要スルニ長崎縣參事會ノ與ヘタル裁決ハ相當ニシテ取消サルヘキ理由ナシト云フニ在リ

按スルニ原告ハ甲一號證第二號「コノミニユイ」第八號「コノミニエー」第十一號「許斐英一郎」第十二號「許斐榮邦」第十七號「許斐英太郎」第十八號「許斐與一郎」ノ文字ハ何レモ許斐英一郎ナルヤ否ヤ判明セスト云フモ原告ニ於テ被選舉人中他ニ類似ノ氏名アル事實ヲ證明セサル限りハ他ニ類似ノ氏名ナキモノト認ムヘク從テ前掲各投票ハ許斐英一郎ヲ指シタルモノト確認セラレ、ヲ以テ有效ノモノトス又原告カ一種ノ符號ナリトスル第三、第四、第五、第七、第十、第十二、第十四號ノ各投票ノ表面又ハ裏面ニ現出セル「ノ」、「」等ハ現物ニ就キ仔細ニ之ヲ點檢スルニ何レモ筆ヲ落シ墨汁ヲ散逸シタル等過失ニ因ル汚點又ハ運筆未熟ノ爲メ字畫ノ正格ヲ欠キタルニ出テタルモノニシテ又第十六號ニ「右選舉候也」トアル如キハ偶々被選舉人ニ對スル投票ノ意思ヲ明白ニ表示シタルニ外ナラサレハ他ニ證據ナキ以上被選舉人ノ誰タルヲ暗示セム爲メ故意ニ記入シタル符號トハ認メ難シ唯々第六號裏面ニ原告ノ所謂「コケ」ト云ヘル文字様ノ認メアルハ暗ニ選舉人ノ何人タルカヲ示サムトスル寓意的記入ナリト認メラル、ヲ以テ法律ニ所謂他事記入ニ該當スルモノナリ因テ該投票ハ無効ト云ハサルヲ得、然ルニ被告カ之ヲ有効ト決定シタルハ不當ナリト

雖モ原告ト許斐英一郎トノ得票ノ差ハ五票ナルヲ以テ英一郎ノ得票中一箇ヲ無効トスルモ選舉ノ上ニ異動ヲ生セサルモノナレハ結局原告請求ハ採用スルニ由ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

●六箇所村會議員選舉効力ニ關スル縣參事會ノ裁決取消ノ訴

明治三十八年第六十號  
明治三十九年六月二十日第一號官告 (請求不立)

決判要旨

- 一、町村會議員ノ選舉ニ使用スヘキ選舉人名簿ハ其選舉ノ本會ニ於ケルモノト分會ニ於ケルモノトニ論ナク總テ同法第十八條ノ手續ヲ經テ調製シタルモノナラサルヘカラス
- 一、町村長カ町村會議員選舉ノ前日ニ至リ特ニ選舉人名簿ヲ調製シ之ヲ分會場ノ選舉ニ使用シタルトキハ該選舉ハ町村制第二十九條末項ノ所謂選舉ノ定規ニ違背セルモノトス

原告 青森縣上北郡六ヶ所村 高村大助

被告 青森縣參事會 青森縣知事

被 告

西澤正太郎

訴訟代理人 岩泉豐太郎

選舉人名簿調製ノ手續



右當事者間ニ於ケル六箇所村會議員選舉効力ニ關スル縣參事會ノ裁決取消ノ訴審理判決スルコト  
左ノ如シ

主 文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理 由

原告請求ノ要旨ハ上北郡六箇所村ハ明治三十七年五月一日ニ執行シタル二級議員選舉會ヲ分チテ  
本會ヲ村役場ニ分會ヲ大字泊ニ設置セリ而シテ分會ニ使用スヘキ選舉人名簿ハ本會ト同シク町村  
制第十八條第二項ノ手續ニ依ルヘキモノナルニ村長管保次郎ハ右等ノ規定ヲ無視シ前ニ調製シテ  
ル選舉人名簿ヲハ選舉前他ノ用務ヲ以テ出張セシ渡部書記ニ携帶セシメ關係者ニ示シテ分會ノ選  
舉人ノ利益ヲ謀ラシメナカラ選舉ノ前日ニ至テ俄然會ヲ調製シ置キタル分會ノ選舉人名簿ハ紛失  
セリトノ故ヲ以テ更ニ一部ヲ調製シテ分會ノ選舉ニ供セシメタルモ是全ク紛失セシニアラスシテ  
村長ノ故意ニ爲シタル不當ノ處分ナリ斯ル不當ノ選舉人名簿ニ照シテ受理シタル投票ナルヲ以テ  
開票ニ際シ選舉掛ハ事實審理ノ上分會ノ投票六十餘票ヲ無効投票トシ本會ノ投票ヲ以テ高村大助  
橋本真田中五兵衛ノ三名ヲ當選者ト定メタリ然ルニ林下喜平外一名ヨリ選舉分會ニ於テ執行シタ  
ル投票ハ町村制ノ規定ニ違背シタル不正人名簿ニ依リ受理シタル故ヲ以テ選舉ヲ無効トセハ本會  
ノ投票モ亦無効トシテ二級選舉全部ヲ取消スヘキモノナリトノ異議申立ヲ村長ニ提出シタルニ村  
會ハ分會ノ投票ヲ本會ノ投票ニ加算シ當選者ヲ定ムヘキモノト裁決シタルハ不服ナルヲ以テ訴願

人等ハ上北郡參事會ニ訴願シタルニ是又同一裁決ヲ與ヘラレタリ何ソノ町村制ノ規定ヲ誤解シタ  
ルノ甚タシキヤ斯ノ如キ不當ノ裁決ニ服從スル能ハス進ンテ縣參事會ニ訴願スルノ不得止ニ出タ  
リ然ルニ縣參事會ハ村長吏員等ノ爲シタル不正行爲ヲ願ミス單ニ分會ニ使用シタル選舉人名簿ハ  
本會ノ確定名簿ヨリ再ヒ謄寫シタルモノナレハ町村制第十八條第二項ノ手續ヲ履マサルカ故ニ其  
選舉ヲ適法ナリト云フヲ得ス而シテ本會ノ選舉ハ分別スヘキモノニアラサルヲ以テ二級選舉ハ全  
部無効ニ歸スヘキモノナリトノ裁決ヲ爲シタルニヨリ其裁決ニ不服ナルヲ以テ是亦訴願ヲ提出ス  
ル所以ナリ以上ノ理由ナルヲ以テ明治三十七年十二月二十八日青森縣參事會ニ於テ爲シタル裁決  
ハ五月一日ニ執行シタル二級選舉ハ全部無効ノモノナリト云フト雖モ本件ノ如キハ選舉ノ一部即  
チ分會ニ於テノミナシタル不正ノ行爲ニシテ本會ノ選舉ニハ毫モ影響ヲ及ホサルモノナレハ從  
テ本會ノ選舉ハ有効ニシテ曩ニ選舉掛ノ爲シタル議決ハ正當ノ議決ナリト信スルナリ然ルニ縣參  
事會ハ選舉人名簿ハ單一一通ノミヲ調製シ而シテ該名簿ヨリ村長限リ謄寫シタルモノヲ分會ニ於  
テ使用シタルハ町村制第十八條ニ違背シタル不正ノ名簿ニヨリ行ヒタル選舉ナルヲ以テ其選舉ハ  
適法ノモノト云フヲ得ス而シテ本會ト分會ノ選舉ハ分別スヘキモノニアラサルヲ以テ本件ニ級選  
舉ハ全部無効ニ歸スヘキモノナリトノ裁決ナルモ本件ハ町村制ノ規定ニ依リ分會及本會ニ於テ使  
用スヘキ人名簿ヲ二通調製シ縱覽ニ供シ置キタル後渡部書記ノ北部巡回ヲ奇貨トシテ正當ナル人  
名簿ヲ書記ニ持參致サセナカラ紛失シタル云々ニテ村長管保次郎カ更ニ調製シテ助役タル橋本儀  
助ニ持參致サシメ正當ナル人名簿ハ選舉分會場ニ渡部書記カ持參シタルニモ不拘選舉スルニ際シ

選舉人名簿調製ノ手續



不正ノ人名簿ヲ使用シタルモノナレハ選舉當時ノ所爲ナルヲ以テ本會ニハ毫モ影響ヲ及ホサハル  
 モノナルヲ分會選舉當時ノ不正手續違反ノミヲ以テ本會選舉ヲモ併セテ全部取消スヘキモノナリ  
 トノ裁決ハ不當ナリ依テ明治卅七年五月一日執行シタル六箇所村會議員二級選舉ノ効力ニ關スル  
 青森縣參事會ノ裁決ヲ取消シ曩ニ選舉掛ノ爲シタル議決ハ正當ナリトノ裁判ヲ請フト云フニ在リ  
 被告答辯ノ要旨ハ原告ハ要スルニ上北郡六箇所村會議員二級選舉ノ際其分會ニ於テハ不正名簿  
 ニ依リ投票ヲ受理シタリトスルモ本會ニ於テハ適法ノ名簿ニ依リ投票ヲ受理シタルモノナレハ分  
 會ニ於テ爲シタル投票ハ無効ナルモ之カ爲メ本會ノ選舉ニハ毫モ影響ヲ及ホサハルモノナレハ二  
 級選舉全部ヲ無効トスヘキモノニアラスト謂フト雖モ町村會議員ノ選舉ハ町村制第十八條第二項  
 ノ手續ヲ經テ確定シタル選舉人名簿ニ依リ執行セサル可カラサルカ故ニ町村ニ於テ選舉分會ヲ設  
 ケタルトキハ選舉本會分會ノ數ニ應シ同一名簿數部ヲ調製シ共ニ規定ノ手續ヲ履マサル可カラサ  
 ルニ本村ノ分會ニ於テハ本會ニ於テ使用ノ爲メ調製シタル名簿ニ依リ村長限リ謄寫シ規定ノ手續  
 ヲ履マサルモノヲ使用シタルハ町村制第十八條ニ違背シタル不正ノ名簿ニ依リ行ヒタル選舉ナル  
 ヲ以テ其選舉ハ適法ノモノト云フヲ得ス而シテ本會ト分會ノ選舉ハ分別スヘキモノニアラサルヲ  
 以テ本會二級選舉ハ全部無効ナリトノ裁決ヲ爲シタルハ不當ニアラスト信ス依テ原告ノ請求ヲ排  
 斥セラレタシト云フニ在リ  
 按スルニ町村會議員ノ選舉ニ關シ町村制第二十二條二項ノ規定ニ從ヒ使用スヘキ選舉人名簿ハ  
 其選舉ノ本會ニ於ケルモノト分會ニ於ケルモノトヲ問ハス總テ同制第十八條規定ノ手續ヲ經タル

三六

モノナラサル可カラス然ルニ本會分會場ノ選舉ニ使用セラレタル選舉人名簿ハ選舉ノ前日ニ至リ  
 更ニ調製セラレタルモノナレハ同條第二項ノ手續ヲ履マサル違法ノ名簿ナリ隨テ該名簿ニ依リ執  
 行セラレタル分會場ノ選舉ハ同制第二十九條末項ノ所謂選舉ノ定規ニ違背スルモノナリ而シテ此  
 違法ノ選舉ハ本會選舉全體ニ影響ヲ及ホスヘキ瑕瑾アル者ト認ムルヲ以テ單ニ分會場ノ選舉ノミ  
 ヲ取消スヘキ者ニ非スシテ本會村會議員選舉ハ全部之ヲ取消スヘキ者トス依テ主文ノ如ク判決ス

九一

●命令條件實行ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十九年第四十六號 (棄却)  
 明治三十九年六月二十一日第二部宣告

判決要旨

一、市街鐵道株式會社カ内務大臣ノ特許命令ニ基キ警視總監及  
 ヒ府知事ノ認可ヲ經テ施行スル工事ハ市參事會ノ關涉スヘ  
 キモノニアラス從テ同參事會カ會社ノ出願ニ對シ其工事ノ  
 施行ニ付キ指令ヲ與フルハ違法ノ處措タルヲ免レス

東京市下谷區西町一番地平民  
 無業  
 原告 石井 信一 訴訟代理人 天野 大藏  
 東京府參事會  
 東京府知事男爵  
 被告 千家 尊福 訴訟代理人 正木 虎藏  
 市參事會ノ權限

三六



右當事者間ニ於ケル命令條件實行ノ訴ニ付被告ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタリ依テ審理判決スル左ノ如シ

主 文

本訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理 由

被告ハ本件ノ工事ハ市街鐵道株式會社カ内務大臣ノ特許命令ニ基キ警視總監及東京府知事ノ認可ヲ得テ施設スルモノニシテ東京市參事會ノ處分ニ基クモノニアラス又假リニ同參事會カ許可ヲ與ヘタリトスルモ原告ハ其處分ヲ適正ト認ムルカ故ニ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタルモノト云フヲ得ス依テ本訴ハ右何レノ點ヨリスルモ之ヲ提起スルヲ得サルモノナルヲ以テ棄却セラレタシト抗辯シ原告ハ明治三十八年四月一日附土丙第四九二號ノ命令ハ現ニ市街鐵道株式會社ノ出願ニ對シ東京市參事會カ與ヘタルモノニシテ本件ノ施設工事ハ該命令ニ基クモノナレハ市參事會ハ其執行上ニ於テ督勵實行セシム可キ義務アルモノナルニ會社カ其命令條件ヲ遵守セザリシ結果人民ニ對シ其權利ヲ毀損スルニ至リタルモノナルヲ以テ本訴ノ提起ハ毫モ不當ニアラス依テ被告ノ抗辯ヲ排斥セラレタシト辯駁セリ按スルニ本件ノ工事ハ軌道條例ニ依リ内務大臣カ與ヘタル特許命令ニ基キ警視總監及東京府知事ノ認可ヲ得施行シタルモノニシテ東京市參事會ノ關涉スヘキモノニアラス然ルニ同參事會カ市街鐵道株式會社ノ出願ニ對シ下谷區西町及淺草區小島町ノ大下水蓋施行ノ件ニ關シ本件ノ指令ヲ與ヘタルハ其職權以外ニ涉ルモノニシテ本訴ハ其違法ナ

ル指令ノ實行ヲ求ムルモノナレハ被告ノ妨訴抗辯ハ相當ナリトス依テ主文ノ如ク判決ス

官林下戻請求ノ訴 明治三十六年第六百二號 明治三十九年六月二十三日第二部宣告 (請求相立)

判 決 要 旨

一、上地處分ヲ受ケタル寺院ハ寺號ヲ廢止セララル、モ其實體ニシテ依然存續スル以上ハ上地下戻ノ訴訟ヲ提起スル資格ヲ有ス

原告 兵庫縣養父郡八鹿村 日光 同院住職 藤田 龍 外三名 訴訟代理人 山崎 孝 藤野 確 吉 藤 廉  
被告 農商務大臣 松岡 康 毅 訴訟代理人 矢部 廉  
右當事者間ニ於ケル官林下戻請求ノ訴ニ付判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ兵庫縣但馬國養父郡八鹿村ノ内石原村字妙見山國有林四百九十八町四反一畝三步ノ土地並ニ立木ヲ原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理 由

一、被告ハ鑑定人黑板博士ノ說ニ依レハ年貢ハ主トシテ田地ニ課スルモノナリ然レハ甲第四十四

上地下戻訴訟提起ノ資格



號證ノ敷地ハ年貢ヲ課セラレタルモノニアラスシテ從テ私有地ニアラスト云フモ敷地ニ之ヲ課シタルハ鑑定人三名トモ其意見ヲ同フスル所ニシテ裁判所ハ之ヲ相當ト認ムレハ該地ヲ以テ有租地即帝釋寺ノ私有地ト爲サ、ルヲ得ス

二、被告ハ敷地ハ屋敷ト同意義ニシテ家屋ノ使用ニ供スル地域ヲ謂フモノナレハ山林ヲ包含スルモノニアラスト云フモ敷地ナル語ハ必スシモ建物ノ敷地ニ限リ用フルノ語ニアサルノミナラス此敷地ヲ除キテハ他ノ妙見社境内地トシテ見ルヘキモノナキニ依リ境内地ヲ指シタルモノト認メサルヲ得ス

三、被告ハ假ニ境内地ヲ指シタルモノトスルモ帝釋寺カ甲第四十四號證ヲ受ケタル時ハ係争地ヨリ五十丁ノ山下ニアリタルハ係争地ハ敷地ノ外ナリト云フモ該證ニ依レハ敷地ハ石原山全體ニ涉ルモノト認ムヘキニ依リ係争地ハ敷地ノ内ナリト謂ハサルヲ得ス

四、被告ハ乙第三號證乃至乙第五號證ヲ以テ名草神社ハ中古以來存在シ帝釋寺ハ其別當タルニ過キサレハ上地セラレタルハ名草神社ニシテ帝釋寺ハ本訴ヲ提起スル資格ナシト云フモ乙第三號證別當ノ文字ハ寺ト神社トヲ區別スルカ爲メ用ヒタルモノニシテ之ニ依リ帝釋寺カ古來名草神社ノ別當タルヲ認メ難ク又乙第四號證ハ個人ノ情願ニ依リ其所言ヲ記載シタルモノ乙第五號證ハ想像ヲ記述シタルモノニシテ共ニ信ヲ措クニ足ラス

五、被告ハ甲第三十七號證ニ依ル廢寺ハ單ニ別當タル帝釋寺ノ管理セル一切ノ財産ヲ其權利ノ主體タル名草神社ニ復古セシメタルニ止マラス同時ニ別當タル帝釋寺ノ法人格ヲ奪ヒタル者ナレ

ハ原告ハ本訴ヲ提起スル資格ナシト云フモ甲第三十八號證乃至甲第四十一號及甲第四十三號證ニ依リ之ヲ觀レハ帝釋寺ナル寺號ハ廢止セラレタルモ其實體ノ依然存續スルヲ認ムヘキニ依リ原告ハ社寺上地處分ヲ受ケタル者トシテ出訴スルヲ得ルモノトス

依テ主文ノ如ク判決ス

判決要旨

- 一、町村カ條例ヲ以テ常設委員ヲ置キ町村有金穀ヲ管理セシムル場合ニハ町村長ハ管理ノ職責ヲ有セス從テ其金穀ノ滅失ニ對シ賠償ノ責ヲ負フヘキモノニアラス

原告 高橋 尙一

應手縣上閉伊郡鏡村

被告 押川 則吉

應手縣知事

訴訟代理人 帆 足 準 三

右當事者間ニ於ケル賠償金裁決取消ノ訴訟原告ハ書面審理ノ申請ヲナシタルニ付被告ノ陳述ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

主 文

町村有金穀ノ滅失ニ對スル町村長ノ責任



明治三十九年二月七日被告カ本件ニ付原告ニ與ヘタル裁決ヲ取消ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス  
理 由

原告陳述ノ要旨ハ原告ハ被告ニ於テ收入役故管沼福太郎カ學校基本財産金百九十圓十二錢村基本財産金百一十一圓七十一錢五厘ヲ費消シタルハ原告ノ職務怠慢ニ起因スルモノトシ原告ニ於テ之ヲ賠償スヘシトノ裁決ヲ爲シタルニ不服ナリ其理由ハ第一學校基本財産及村基本財産ハ村條例ヲ以テ委員ノ職務權限ヲ定メ甲第一號證ノ如ク委員ニ於テ管理シ村長ハ之ヲ監視スルノミナレハ原告ハ右被害ニ付怠慢ノ責ヲ受クヘキモノニアラス第二該金額ハ委員ニ於テ收入役ニ囑託シ收入役ノ庫中ニ納置キタルモノナレハ村有ノ現金ナリ已ニ村有ノ現金ナル以上ハ町村制第七十一條ニ依リ當然收入役ノ保管スヘキモノニシテ原告ニ其責務ナシ第三委員カ日々出勤ノ煩ヲ省キテ收入役ニ囑託シ且直接加害者カ公吏ナルニ單ニ原告ニノミ其責ヲ負ハシムルノ理ナシ第四明治三十五年度歲入出豫算ノ決算ニテ村有金八十四圓五十錢ヲ殘餘金トシテ繰入レタルニ收入役ハ委員ト受渡ヲ了セシテ自給シタリ斯ノ如キ尙ホ收入役ノ掌中ニ在ル未拂ノ金額迄ヲ含有スヘキノ理ナシ第五收入役ノ債權ニシテ村ノ收入トナリタル金大凡百數十圓アリ是ハ比例ヲ以テ收入役費消金ヨリ控除スヘキ筋合ナルニ其計算ナシ第六原告在職中賠償ノ要求ヲ爲サントノ談示アリテ明治三十八年度歲入出豫算表ヨリ收入役費消ノ基本財産金三百八十一圓八十三錢五厘ヲ除去シタルニ拘ハラズ本件要求ヲ爲スハ矛盾ノ處置ト云ハサルヲ得ス以上ノ次第ナレハ被告ノ裁決ハ失當ナルニ付之ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ一原告ノ主張ハ村條例ヲ以テ委員ノ職務權限ヲ定メ委員ニ於テ財産ヲ管理スル以上ハ村長タル原告ハ管理ノ責任ナシト云フニ在ルモノ、如シ抑町村ノ財産ハ制第六十八條第二項第四號ニ依リ町村長之レカ管理ノ責任ヲ有スルモノニシテ制第七十四條ニ依リ委員ヲ設ケタルカ爲メ法律上命セラレタル町村長ノ擔任事務ヲ免除セラル、モノニアラス該委員ハ町村長ニ從屬シ其行政事務ノ一部ヲ分掌スルニ止リ獨立ノ權限ヲ有スルモノニアラス從テ財産管理ノ職責アル町村長ハ其監守ノ責ヲ免ル、ヲ得ス二、原告ハ村有ノ現金ハ制第七十一條ノ規定ニ依リ收入役カ保管スヘキモノニシテ村長ニ其責務アラサルカ如ク云フモ收入役ハ町村ノ收入支出ヲ掌ルニ止リ其財産トシテ管理スルハ村長ノ職務ニ屬スルヲ以テ之カ監守ノ責ヲ有ス而シテ現金ハ即チ制第六十八條第二項第四號ノ村有財産ニシテ同號ノ規定ハ現金ヲ除外シタルモノニアラス又原告ハ委員カ日々出勤ノ煩ヲ省キテ收入役ニ囑託シ且直接加害者カ公吏ナルニ其責ヲ原告ニノミ負ハシムルハ不當ナリト云フモ原告ハ村長トシテ制第六十八條第二項第五號ニ依リ町村吏員ヲ監督スル職責ヲ有スルモノナルニ其監督ヲ怠リタル結果遂ニ財産ヲ費消セラル、ニ至リタルハ怠慢タルヲ免レス其他金八十四圓五十錢ヲ三十五年度歲入出決算ニテ殘餘金トシテ繰入レタリトノ陳述及收入役費消金ヲ三十八年度歲入出豫算表ヨリ除去シタルニ之レカ賠償ヲ要求スルハ不當ナリトノ陳述アルモ決算殘餘金ヲ翌年度ニ繰越シ又ハ豫算ヨリ除去セシ等ノ理由ヲ以テ其責任ヲ免ル、ヲ得ス以上ノ如クナレハ被告ノ裁決ハ正當ナリト云フニ在リ  
按スルニ綾織村ニ於テ村條例ヲ以テ常設委員ヲ置キ之レヲシテ村有金穀ヲ管理セシメ居ルハ甲第一條ニ依リ町村長ノ責任



一、號證ニ依リ、明カナルハ、ミナラス被告モ認ムル所ニシテ、已ニ此責任者アル以上ハ、村長ニ管理ノ職責ナキモノナレハ、原告ハ其監督ノ點ニ於テハ責ナキニアラサルモ、本件被害金ニ付賠償ノ責ヲ負フヘキモノニアラス依テ主文ノ如ク判決ス

三六

◎北海道會議員選舉取消ノ訴

明治三十八年第八十一號  
明治三十九年六月廿五日判決

(請求相立)

判決要旨

一、收稅官吏カ租稅滯納處分ノ爲メ滯納者ノ通貨ヲ差押ヘタル  
ニハ其金額カ收稅吏ノ占有ニ移リタル時ヲ以テ滯納處分ノ  
結了ヲ告ケ納稅者ノ義務ハ此ノ時ヲ以テ消滅ニ歸スルモノ  
トス而シテ該通貨ノ占有カ差押ノ結果ナルト將タ滯納者ノ任  
意ノ提供ナルトハ之ヲ問フノ要ナシ  
一、前項ノ場合ニ於テ滯納處分ノ爲メ停止セラレタル納稅者ノ  
公權ハ差押ヘタル金錢カ收稅官吏ノ占有ニ移リタル時ヲ以  
テ復活スルモノトス

二

北海道厚岸郡厚岸町大字海月  
町五十四番地平民漁業

原告 山崎兵次郎

被告 國田安賢

右當事者間ノ北海道會議員選舉取消決定取消ノ訴文書ニ就キ審理判決スル左ノ如シ

主文

被告カ明治三十八年二月十日附ヲ以テ明治三十七年八月執行ノ釧路支應管轄區域北海道會議員選  
舉ハ之ヲ取消ストノ決定ハ之ヲ取消ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

理由

原告ハ明治三十八年北海道廳告示第九十八號ヲ以テ告示シタル明治三十七年八月執行ノ釧路支應  
管轄區域北海道會議員選舉ニ關シ被告ノ爲シタル決定ヲ取消シ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判  
決アリタシト申立テ之カ原因トシテ陳述スル事實ノ要領ハ被告ハ厚岸町寺田某ヨリ釧路支應管轄  
區域北海道會議員選舉ノ效力ニ關シ爲シタル異議ノ申立ニ對シ選舉人中山田定次郎ナル者ハ明治  
三十七年八月四日町稅滯納ノ爲メ財產差押ノ處分ヲ受ケ同月二十二日ニ至リ滯納處分ヲ結了シタ  
ルモノナレハ其滯納處分中本件選舉ニ參與シタルハ選舉ノ規定ニ違背シ其選舉ヲ結果ニ異動ヲ生  
スルノ虞アルヲ以テ北海道會議員選舉令第二十四條ニ依リ本件選舉ノ無効トスヘキモノナリトノ  
理由ヲ以テ明治三十八年二月十日附ヲ以テ明治三十七年八月執行ノ釧路支應管轄區域北海道會議

滯納處分ノ爲メニスル現金ノ差押及其ノ效果

二六七

三